

六月

右、通從江戸被仰下、間、三郷町中可觸知者也。○圖三三〇・圖三三二一・及三三二六を見よ、

七月

土佐
備後

外ニ御仕法書御案文左ニ通、

乍恐口上

此度被仰渡ひ丁人共所持、屋敷、間口壹間ニ付銀三匁宛、出銀取集、分、左ニ上、

一間口何間

丁内
何屋誰

此出銀何程

惣間數延長ニベ何百何拾間、但、壹間ニ付銀三匁宛積、

此出銀ベ何程

外ニ

一間口何間

何屋誰

右、此度御用金差出、者、付、出金不仕、

右、通御座、出銀都合何百何拾貫目、私惣代を以奉納、已上、

月日

何町年寄

何屋誰

御奉行様

右、通納證文片折番立ニ折、閉帳、い、認方を町、水帳、順ニ相認、今日、日數廿日、内、
丁、勝手ニ郷、惣會所、(ヘカ)四ツ時、九ツ時迄、内、年寄可有持參、尤、包方、義、其町、こ、あ
致、合銀封印包、こ、あ、欠替銀等無之様、入念相改、左、通、上書相認、右、納證文帳銀子、ニ相添、
可有持參、已上、
但、右帳、表紙、何組何町、ト書付可差出、

何町丁中惣代
年寄何屋誰納

銀五百目

(御觸帳)

納銀表書

圖三三〇 なるべし、
圖三三六

補遺 三三〇 七月廿二日 間口割出銀勘定目録認方并合銀包方、事、
惣會所、町、ニ參り、書付、會所、こ、あ、借り受、左、ニ寫置、

此度被仰出、町人持屋敷間口三匁宛出銀、儀、壹丁限、中間口銀勘定目録寫、御別紙、振合を
以相認、來ル、廿五日四ツ時、一町限、年寄持參可仕旨、尤、納銀、儀、早、手當致置、來月三日迄

御觸及口達 天明六丙午年

勘定目録の
提出期
納銀の期日

勘定目録案
紙

内、日限御差圖次第、目録相添、郷々惣會所に相納可事、組合丁々急度通達可仕、
但、先達御融通銀出金被仰付、且又此度御用金被仰付、人居宅掛り屋敷、并都
無役屋敷道場、山伏寺社屋敷藏屋敷、其外地子冥加等差出、御預ケ地内、間口ニ掛り
分、丁年寄會所屋敷等々、追御沙汰可被成旨、

乍恐口上

何 町

何 屋 誰

此度被仰渡、町人共所持、屋鋪、間口壹間ニ付銀三匁宛、出銀、取集、分左ニ上、

一間口何間

一同何間何尺何寸

何 屋 誰

此出銀何拾匁

間數々何百何拾間

出銀々何貫何百何拾匁

外ニ

間口何間 先達御融通銀出金被仰付、何屋誰掛屋敷

間口何間 此度御用金被仰付、何屋誰掛屋敷

間口何間 何々無役屋敷

間口何間 町年寄屋敷 居宅斗事々、

間口何間 丁内會所屋敷

間口何間 何寺社屋敷

間口何間 何守殿藏屋敷名代

間口何間 家持山伏何院屋鋪

間口何間 道場何寺

間口何間 地子差出、御預り地

此分追御沙汰御座、迄、相除置、様被仰渡、

右前文出銀何貫何百目々、町中間數々通取集々相違無御座、右銀私惣代を以奉納、已上、

年号月

何町年寄

何 屋 誰印

御奉行様

(通册カ)

右先達御渡、本紙片折ニツ折ニテ認置可事、寫シ方の半昏ニ認、來ル廿五日可差出

事、

但、年寄印形い々可事、

と帳上書、北組何町を認可事、

日延決不相成、不束、斷々出間敷、

御觸及日達 天明六丙午年

合銀包方事

納銀表書

何町丁中惣代
年寄何屋誰納
五百目

何町
兩替何屋誰包

封印包に儘受取置、間、欠替銀等無之様取調置可也、

右に趣被仰渡、委細奉畏い、夫、無間違早に通達可仕い、爲御受判形仍如件○圖三三一九・圖三三二一、及三三二二を見よ、

天明六年午七月廿二日

宗旨頭町、年寄

(御觸帳)

補遺 三三 〇月 日脱 濱地建家并藏屋敷間口割上納銀事、

一濱側川岸通濱納屋地に儀、年々冥加差上、事々へ共、建家も有之儀に付、是亦追々御沙汰御座、筈に由、濱側丁より右に趣心得罷在、様可申聞旨、

頭町に内

- 上中、島町
- 次郎兵衛町
- 宗是町
- 玉水町

濱地建家の
上納銀

江戸堀壹丁目

右町を多分藏屋敷有之い、壹町壹屋敷を勿論、丁人持屋敷入交い町より、都々藏屋敷に分り、追々御沙汰御座、筈に旨、丁人持屋敷に分斗書上、様可申聞旨、(二脱カ)
但、右組合に内肥後嶋町新地湊橋町を地子銀年々上納仕、付、追々御沙汰可被成旨○圖三三二二を見よ、

(同上)

補遺 三三 八月二日 間口割出銀上納延引事、

間口三匁上納に儀、明三日迄に上納可被仰付旨、先達より達置○圖三三二二を見よ、い得共、上納日限に儀を、追々可被仰出、間、町々より上納銀取調置、何時にても日限被仰出次第、早速銀子上納致い様、手當可致置旨、尙又今日被仰出、間、此段承知可有之い、已上、

(同上)

八月二日 三日晝時二廻ル、
○かく一旦は延期となりしが、是月廿八日勘定目録を、同廿九日間口割銀を上納したる事、次に掲ぐる所を以て知らる、

當町年寄の回状

昨廿七日北組惣會所へ丁代被招呼、先達より被仰附、差出置い間別三匁宛出銀勘定目録書、本紙相認、今日年寄持參仕、并右取集置い出銀高、先達より通い包方致し、明廿九日北組惣會所へ丁代持參可仕旨被仰出い○圖三三二三を見よ、

(同上)

午八月廿八日

圖三三二 八月三日 諸國寺社山伏百姓町人共出金銀差出い日數に事、

御觸及口達 天明六丙午年

一一五一

納銀期日の
延引

勘定目録及
間口割出銀
の提出

納銀期日の
延引

此度被仰渡の諸國寺社山伏百性^(姓)町人共出金銀差出の日數に儀、承知に日廿日ヲ限ひ積ヤ
渡置^{〇圖三三一}九を見よ、^ハ所、日數少クハある者、差支に場所も可有之ハニ付、承知に日五拾日ヲ限差出
の様可致ハ、

右に趣被仰出の條、三郷町中可觸者^(知股カ)也^{〇圖三三二}六を見よ、

午八月 右八月五日ニ相廻ル、

土佐

備後

(同上)

〇圖三三三
なるべし、

〇圖三三三 八月十八日 用金貸付に有無届出案紙に事、

十七日^{〇八}夜北組惣會所へ御用金掛り丁に年寄被召出、被仰出、書付左に通、

乍恐口上

何町

何屋

誰

用金貸付届
出の案紙
(其一)

一私儀旧冬御用金被仰附、金高何千兩御請奉^上ハ、右金高に内、

一金何百兩

何之何に守様に貸附仕候

一同何百兩

何之何に守様に貸附仕候

右に分者當何月御尋に節奉書^上ハ、

一金何百兩

何ノ何ノ守様に當何月貸附仕候

一同何百兩

何ノ何ノ守様に當何月貸付仕候

外ニ

何ノ何ノ守様被仰込御座ハ處、當時對談中ニ御座ハ、何ノ何ノ守様被仰込御座ハ得共、對
談難調、貸附御斷奉^上ハ、

右に通御座ハ、御尋に付此段奉^上ハ、以上、

月日

何町
誰

印

御

乍恐口上

何町
何屋

誰

(其二)

一私儀旧冬御用金被仰附金高何千兩御請仕ハ、金高に内貸附高に有無奉^上ハ様被仰付、奉畏ハ、
先達何ノ何ノ守様被仰込御座ハ處、不縁合に付御斷奉^上ハ、右に趣を則當何月御尋に節
奉^上ハ、其後何ノ何ノ守様被仰込御座ハ處、是又不縁合に付御斷奉^上ハ、未何きへ貸付
不仕ハに付、此段御斷奉^上ハ、以上、

月日

何屋

誰

御

乍恐口上

何町
何屋

誰

(其三)

一私儀旧冬御用金被仰附、金高何千兩御請仕ハ、金高に内貸附方に有無奉^上ハ様被仰付、奉畏

御觸及口達 天明六丙午年

ひ、私方未何きと諸家様方も被仰込無御座ひ故、貸附不仕ひ、右御尋ニ付奉ヤ上ひ、以上、

月日

何屋誰

御

右書附明十九日五ツ時、御奉行所宛一通、外ニ掛り惣年寄宛一通、

右兩通共同所ニ御請取可ヤ、尤本人持參ひ様可被ヤ聞ひ、

右書附西御役所ニ持參事○圖二二七及
○圖二二八〇を見よ、

(御用金一件細書記)

觸三三三 八月廿九日 南都法隆寺阿彌陀院勸化御免事○圖三五〇

觸三三四 同日 攝蒔平野大念佛寺勸化御免事○圖三五〇
五を見よ、

補達 三三三 九月二日 間口割出銀御差戻事、

今日八ツ時於北組惣會所、永瀬七郎右衛門様御口上ニ御被仰渡、

一去ル廿九日間口銀御取集相濟、處、此儀先御延引相成、趣、被仰出ひ、依之町々相納、銀子

早速差戻可ヤ處、當月四日御上納積ニ付、御掛屋ニ御相改ひ上、合銀ニ致、事故、今日差戻

り、掛分ケ出來次第御渡可被成旨、南組天満組ハ右銀子未改ニ取懸り不ヤ、封、儘有之、

早速差戻、得共、北組儀と前文通、合銀ニ相成、也へ、右懸分ケ出來上、宗旨組合限

り、合銀ニ御戻被成、頭町ニ御町々銀高ニ懸ケ相渡、様被仰渡、間、此段御承知可被成、

以上○圖三三二及圖
三三二六を見よ、

九月二日 三日朝廻ル、

(御觸帳)

間口割出銀
の返却

寺社山伏町
人百姓の出
金廢止

將軍家治囊
ず

觸三三五 九月四日 田沼主殿頭殿就病氣、願、通御役御免事○體裁圖二六〇五に同じ、但
「首尾克」の三字を闕く、

觸三三六 九月十二日 先達御被仰出ひ諸國寺社山伏百姓町人出金儀、一統御差止事、

先達御金銀融通いた、諸國御料私領寺社山伏百姓町人出金被仰付、從、公儀も御金被差

加、於大坂表諸家に御貸付積相達○圖三三一
九を見よ、、得共、此度關東筋其外出水ニ御、向、難義趣

こも相聞、仍之出金義一統御差止被仰出、

右趣三郷町中可觸知者、

午九月○年寄の副書日、
付は十二日なり、

土佐

(御觸帳)

觸三三七 九月十三日 公方様薨御ニ付、町方停止自身番事○體裁略圖二四〇二に同じ、尙圖三三三
三・三三三六・三三三九及圖八八八を見よ、

觸三三八 同日 餌指漁師殺生慎事○圖三〇二九に同じ、
尙圖八八一を見よ、

觸三八四 同日 御穩便中ニ付、火元入念、町中木戸暮六時限ベ可ヤ事、

御口達ニ御被仰渡ひ覺

此節儀ニ付、火元以下致嚴重ニ、町中木戸暮六ツ時限ニベ、自身番等別無怠様、町々不
相洩様急度可ヤ渡○圖八八
三を見よ、

午九月十三日

(御停止御觸書印形帳)

觸八七五 同日 右同斷慎方、諸商賣ケ條事○圖七五一に同じ、尙圖八七六・八七七・八
八一・八八二・八八五及圖二三四を見よ、

觸八七六 九月十五日 御穩便中町々慎方不行届趣ニ付被仰出、事、

御觸及口達 天明六丙午年

嵩高なる商賣

此節御穩便ニ付、諸事相慎可事旨、猶又御口達書を以被仰出、廻狀ニ相觸ル所、嵩高ニ商賣ニあも、此間相達五〇〇八七、ハケ條ニ無之者ハ、一向慎ハ躰無之、不埒ニ事ニハ、御書出ケ條ニ無之共、嵩高成商賣躰ハ急度相慎セ可事等ニハ、町々觸方不行屈不取斗ニ趣ニ及御聞、御沙汰在之ハ間、何商賣ニよらハ、見先嵩高ニ商賣、居細工水揚大道ヨク荷造リ等迄も、銘々隨分相慎可事ニハ、此度ハ格別重キ御穩便中ニハ得キ、尙以丁内末ニ迄嚴重ニ付、急度相慎セ可被サハ、已上、

午九月十五日

(御停止御觸書印形帳)

嵩高なる商賣

御時節柄ニ付、一昨十三日商賣向其外等ニ儀も御差留、又ハ慎方ニ義相觸置五〇〇八七、ハ所、桶類商賣致ル者杯、其外ニも嵩高成渡世ニ内、平日ニ通心得、聊無遠慮不慎ニ趣相聞、別々重キ御時節柄ニ義故、音高キ商賣筋ニ不限、其外ニ諸商人共迄も、一統急度相慎、町中物靜ニ可致義勿論ニハ所、其弁も無之、差留ニケ條ニ無之分ハ、物音等高キ商賣筋ニハ、不苦義々心得違ハ哉ニも相聞ヘ、如何ニ事ニハ、商賣人ニ寄、至ル身輕キ者共多分在之、心得違も可有之ハニ付、町々年寄ハ勿論、家主ハ猶更入念ニ付、急度相慎、職商賣等可致事ニハ條、少シも不敬無之様可致ハ、

火を要する夜間の行商

一夜分廻ルハ其外ニも荷イ賣致ル者ニ内、火ヲ焚持歩行ハ類有之趣ニ付、御時節柄ニ儀差留可事ハ得共、別々身輕キ者共右商賣ニハ其日ヲ送りハ趣ニも相聞ヘ候間、商賣ハ不差留ハ、併平日

將軍家齊

迎も往來火ヲ焚持歩行ハ義ハ致一、(き)、此セハ(猶)殊更可相慎事ニハ條、(御觸帳)「火ヲ焚持歩行、義堅致間敷、」此上不慎ニ者有之、ハ、急度可令沙汰ハ、

午九月十五日

(同上)

圖三三九 九月十六日 大納言様 上様ニ奉稱ハ事、

大納言様御事、當月九日より 上様ニ奉稱候旨被仰出ハ事、

右者從江戸被仰下ハハ條、此旨三郷町中可觸知者ハ、

午九月十六日

土佐

備後

(御觸帳)

圖八七 同日 湯屋商賣夕七時限り焚可事、

一湯屋明日ハ差免ハ、尤朝五ツ時ヲ初七ツ時限仕舞可事六〇〇八八、(六)見よ、

九月十五日

(御停止御觸書印形帳)

圖八七 九月十七日 貳朱判御差止ニ相成ハ趣浮説ヲ觸、兩替屋錢屋取引爲滯ヤ間敷事、

口達

一貳朱判御差止ニ相成ハ趣、浮説ヲ觸ル者有之、兩替屋錢屋ニハ引替相滯ハ由相聞、不埒之事ニハ、依之貳朱判兩替ニ参リハ者有之節、無滯引替、通用不差支様可仕旨、兩替屋錢屋共ハ中渡ハ間、此上浮説ヲ觸ルハ於有之、吟味之上、急度可爲沙汰ハ、(令)勿論若兩替屋錢屋之うち、引替不サハ其有之、ハ、早々可事出ハ、

貳朱判停止の風説

湯屋渡世の一部解禁

右之趣町々末々之者迄不洩様可申聞ひ、已上〇圖八八〇及八九三を見よ、

午九月十七日

(御觸帳)

〇八八〇 同日 貳朱判通用取引事、

兩替屋錢屋に不限、諸商賣物賣買之節、貳朱判(其脱カ)を以て、兩替屋外賣買を以て取引不致時を差支、不埒に申間、其段心得違無之様、猶又篤々可申聞置ひ、已上〇圖八七九を見よ、

午九月十七日

(同上)

〇八八一 九月十八日 相場殺生・絞り油屋渡世御免事、

一米銀相場

一川筋漁船渡世者

一絞り油屋渡世者

一組船渡世者

一殺生渡世者

右に分明日々御免被成、此段可被致承知ひ、以上〇圖三三二八及八七五を見よ、

午九月十七日

(御停止御觸書印形帳)

〇三三四 同日 俵物水揚船積道具市、其外嵩高成商賣筋常躰に通可仕事、

一俵物水上船積

一道具市

(其二)

嵩高なる商賣の解禁

(其一)

一樽商賣

一鍛冶并鑄物師

一大道米搗

一戸障子商賣

一吹子や職

一皿沙屋足袋屋

一麵るひ荷賣

右に分御免被成〇圖八七五を見よ、

九月十八日

(同上)

〇八八二 同日 御穩便中、傾城町商賣鳴もの外音高職商賣・青物・生魚・川魚市御免事、

一傾城町商賣

一鳴物と外都多音高キ職商賣類事

一青物の市

一雜喉場魚市と賣

一備前川魚市

右職商賣等明十九日差免、尤格別重キ御時節(柄)に、へ共、銘に渡世儀に付、右に通申渡ひ義あり、御穩便中銘に相慎、嵩高に無之様諸賣物静にいとし、火ヲ取扱ひ類に猶更入念可

御觸及口達 天明六丙午年

一一五九

(其三)

右に趣御城代と初御沙汰も有之の間中渡り、

午十月

右に通御口上を被仰渡り間、此上随分物静に相慎、心得違無之様、別火に元入念の様、家持かゝや末迄不洩様可被中付〇圖八八三を見よ、

(御停止中被仰渡り印形帳)

十月七日

〇八五 十月八日 右同断、神明夜市順慶町夜市諸船造作御免事、

一神明夜市

一順慶町夜市

一諸船造作

右口々其外夜店商賣者共、明九日差免り、乍然御時節柄〇圖八七義に付随分相慎、可致穩便旨可相達〇圖八七五を見よ、

午十月八日

〇八六 同日

湯風呂渡世もの共、平日に通焚儀御免事、

一湯風呂渡世者共、去月十七日より夕七ツ時迄焚儀様中渡置り得共、明九日平日に通焚可中〇圖八七柄、尤御時節柄儀に付随分相慎、可致穩便旨可相達り、

右に明九日御差免被成り、御時節柄儀に間相慎、穩便に渡世致り様、家持かゝや末迄不洩様可中聞り、已上〇圖八七八を見よ、

湯屋渡世の
解禁

嵩高なる商
賣の解禁
(其四)

午十月八日

(同上)

〇三三 十月十一日 普請御差免事、

明十二日普請差免り事、

右に通三郷町中可觸知〇圖三三二七を見よ、

午十月十一日

土佐

(同上)

〇八七 十月十八日 於天王寺御法事有之に付、町方慎事、

來ル廿日廿六日迄、於天王寺に御法事有之、間、右御日限中別火に元入念、喧嘩口論無之様相慎可中旨、御口上を被仰渡り間、町に家持借屋末迄、不洩様可被中聞り、已上、

午十月八日(十號)

(幕令)

〇三三 十月十九日 御城代家來り由洩り、於町家金銀錢糸たり掛ケり、留置、可訴出

の事、

自分家來り由中、足輕中間躰者、於町家金銀錢或は道具類貸呉り様者有之趣相聞り、右躰儀者有之共、決り貸遣間敷り、尤家來下り後嚴敷り付置り間、若左様儀中掛り者有之留置、訴出り様、三郷町中可被中渡り、

十月

右に通御城代阿部能登守殿書付を以被仰聞り間、一統承知之、前書に通足輕中間躰者、糸

御觸及口達 天明六丙午年

一一六三

城代の家來
と稱し町家
にて金銀錢
其他を無心
する者あら
ば告訴せよ

りケ間敷義ヲ掛ケハ、書面ニ趣ケ聞、其所ニ留置、早ニ御役所ヘ可訴出ハ、若心得違、少
クたり共金銀、錢、其外何ニよラハ差遣ハ有之ハ、後日ニ相知ハ共、急度答可付ハ
間、其旨三郷町中可觸知也○圖八五七、九一四、及九一五を見よ。

午十月

土佐

備後

(御觸帳)

○圖八八 十月廿三日 酒造半石造被仰出ハ付、酒直段高直ニ致間敷事、

今日於惣會所宗旨頭町へ被仰渡ハ覺

酒造半減令
に乘じ酒價
を騰貴せし
むる勿れ

此度酒造半石造ニ儀被仰出○圖三三三ハ付、酒直段追々高直ニ致ハ趣ニ相聞ハ、右被仰渡有之
逆、直段上ケハ儀有之間敷、若心得違致ハ有之ハ、品ニ御糺可被成間、彌高直ニ無之様
可致旨、昨日酒屋年行司共へ被仰渡ハ、丁々清酒屋共義も右同様、心得違高直ニ不致様、向々
ハ可付達ハ事、

右ニ趣御口上ニ被仰渡儘ニ奉承知ハ、組合町ニ一統并酒商賣人共、不洩様急度相觸可付ハ、
爲其頭町年寄印形仍如件、

十月廿四日

(同上)

○圖八八九 十月廿八日 御中陰明ケハ付、自身番ニ御免被成ハ得共、町々火ニ元ニ番弛不サ

ハ様可致事、

御中陰ニ付、三郷町中在々ニ至迄、火ニ元以下嚴重ニサ付、町中木戸暮六ツ時限りハ、自身番

自身番免除

等別無怠様サ付置、所、火災等も無之、一統物靜ニハ、畢竟自身番等無怠、ハ宜義ニ相聞
ハ、最早御中陰も明キハ儀ニ付、此上格別弛不サ、自身番等無怠、一統心ヲ付ハ宜様、猶又
町々ハ可付ハ、此度御中陰ニ付、格別ニ相觸ハ自身番ハ差免ハ得共、通例自身番ハ外手當致、
無怠様相勤可付○圖三三七、三八八、三及八九〇を見よ。

十月廿八日

右ニ通御口達書ヲ以被仰渡ハ、尤定式自身番ハ外、例年十一月十五日ハ相勤ハ増番ハ重ク、
臨時風廻リ被仰付、格ニ相心得、格別ニ増番致、木戸ハ儀ハ其儘暮六ツ時限りハハ、万
怠無怠様可致旨、猶又御口上ニ被仰渡ハ間、心得違無之様、火ニ元隨分入念、番人油斷無之
様致、風立、節ハ右増番ハ外、添番等差置、様可被付ハ、
一御組与力衆是迄ハ通風廻リ有之ハ間、心得違無之様、番人入念可サ、已上、

十月廿八日

(御停止中被仰
渡ハ印形帳)

○圖三三五 閏十月二日 家治公御院号御贈位御贈官被爲濟ハ事、

去月廿四日、家治公御院号浚明院殿、正一位大政大臣御僧位御贈官被爲濟ハ事、

右ニ趣從江戶被仰下ハ條、此旨三郷町中可觸知者ハ、

閏十月

土佐

備後

(同上)

○圖三三六 同日 鳴物ハ儀所作仕ハ者斗御免ハ事、

御觸及口達 天明六丙午年

一一六五

風廻

浚明院と謚

所作にせる
鳴物の解禁

鳴物に儀所作に仕ひ者斗、來ル廿八日方可被差免ひ、

十月

右に趣從江戸被仰下、條、於當表に差免ひ、此旨三郷町中可觸知をの也○圖三三二七を見よ、

閏十月

土佐

備後

(同上)

遷 八九〇 同日 致所作の鳴もの御免、并町に火に元可入念事、

口達書

御中陰も明キの付、格別に相勤、自身番の差免へとも、通例に自身番の外に致手當、無怠様相勤可旨、先月廿八日ヨ渡○圖八八九を見よ、處、所作に致、鳴物御免に義今日ヨ渡、諸事平日に通相成の付あり、尙亦相弛、油斷も可致出來哉、是迄火難盜難等も無之物靜の處、諸手當等相止、一時に相弛、時の、盜賊惡黨者抔致徘徊可旨哉、自然火難盜難等有之のあり、却あ丁人とも致難義、義に付、毎年十一月朔日ヨ渡○圖八八九を見よ、町内取べりケ條に趣、今晚も相心得、自身番等相勤、木戸を建、往來人通り節等義、例年も格別入念、の、一同の爲にく、其段の銘に弁も可有之義に、へとも、彌無油斷入念、様、町に不洩様可旨渡、

午閏十月二日

(幕令)

遷 三三七 閏十月九日 鳥居丹波守殿御本丸に被召連、月番加判御勤事、

去ル朔日鳥井丹波守○忠殿御事、御本丸へ被召連、月番加判御勤、様被仰出、旨、江戸を被仰

下、條、此旨三郷町中可觸知者也、

午壬十月九日

(同上)

遷 三三六 閏十月十日 南都薬師寺勸化御免に壹

遷 三八〇 同日 御用金此上不被及御沙汰旨被仰渡の付請書事、

差上の一札

先達を依御下知、私共被召出、御用金に儀被仰渡、銘に(傍書「子」)出金可仕金高立、得とも、未御貸付等も不仰渡、處、私共の外、御用金御貸付被仰付、人數に内、是迄諸家方へ貸付、分の、元利返濟迄の先達を被仰渡の通り御取斗、其余の御用金御差止メ、御用無之旨、此度江戸御表ヨリ御下知有之、に付、私共出金に儀も、此上不被及御沙汰旨被仰渡、奉畏、仍御受書差上す處如件○圖七七及七九を見よ、

天明六年午閏十月十日

惣 金 主

(御用金一件細書記)

遷 三三九 閏十月十九日 公事訴訟裁許事、

公事訴訟明後廿一日を令裁許の、

右に趣三郷町中可觸知者也○圖三三二七を見よ、

午閏十月十九日

土佐 備後

(御觸帳)

御觸及口達 天明六丙午年

一一六七

用金請高
貸付未済
分は自今
付に及ば
ず

公事訴訟裁
許開始

右被仰渡之趣承知仕ひ、米仲買并濱方兩替屋共へ、不洩様得と可申置趣被仰渡、奉畏ひ、仍
あ御請印形如件○圖三四七
一を見よ

天明六丙午年閏十月十九日

米方年行司
上積問屋
上積米屋
米方兩替屋

(御觸書之留并濱方記録)

御奉行所

八五 十一月十日 於江戸表御代替御禮無殘所被爲濟事、

當月朔日二日四日、於江戸表御代替御禮、無殘所相濟の段被仰下の條、恐悦可奉存ひ、此旨
三郷町中可相觸ひ、

午十一月

(御觸帳)

八三 十二月十七日 日光御門跡○公延
法親王登山に付、御饗應と御能有之、表向鳴もの不苦

趣被仰出の事

八三 十二月廿六日 貳朱判通用之儀、以前之通貳拾五兩差を取遣り可致事、

貳朱判通用相止、貳朱判の銀道具と潰シ同様にも可相成哉と風聞有之、通用銀圍の様相成、銀
相場追と高直に相成ひ趣に相聞ひ、貳朱判通用相止の筋の無之の間、其段相心得、銀相場引下

貳朱判通用
停止の風説

貳朱判貳拾
五兩差にて
通用す可し

の様可致ひ、且去巳年冬頃迄は、金百兩の内貳朱判貳拾五兩差ヲ以、兩替屋共取遣り致來ひ
由に處、金貳朱判無差別取交の様相成ひ付、已前と通貳拾五兩差に取遣り可致ひ、
右と通申渡の間、一同不相洩様可申聞ひ○圖八七
九を見よ

午十二月廿七日

(御觸帳)

三五 十二月廿七日 四天王寺勸化銀取集事、

先達を被仰渡○圖三三〇
五を見よの四天王寺勸化銀取集の儀、來未年二月三月兩月に内、右勸化銀差出
の様、組合町に早と通達可有之ひ、

午十二月廿七日

(同上)

天明七丁未年

三 正月四日 江戸表御買上米被仰付に付、米方年行司請書事、

天明七未正月米方年行司へ被仰付、御請、

差上申一札

一此度江戸表御買上米壹万石餘被仰付、江戸廻シ被仰付の間、今四日に仕廻相場直段ヲ以、(性)
合宜米、仲買共右石數相調可差上ひ、尤買付次第、代銀御渡被成の間、銘と致出情買付、早と
可申出旨被仰渡、奉畏ひ、

右と通被仰渡の事寄せ、銘と利分ヲ存、米直段引上ケの間の不埒の間、此上米高直に不相

御觸及口達 天明六丙午年 天明七丁未年

買上米壹萬
石餘
買入直段

成様、仲買一同可申達ひ、心得違無之き迄猶又被仰渡、奉畏ひ、仍御請如件○圖三三四、
天明七年未正月四日

米方年行司

難太 備久
米三 播四郎
柴平

(御觸書之留并濱方記録)

御奉行所

圖三三四 正月五日 御買上米江戸表に相廻ひに付、浮説等申觸、米を賣致間敷事、

買上米壹萬石餘の江戸輸送

浮説の禁

今般於當表米高凡壹万石餘御買上こいさし、江戸表に相廻ひに付、右買入に儀米仲買ともへや渡○圖三八二を見よ、ひ、米高過分儀に及無之の得共、諸向差支に筋を勿論、直段に聞ひに儀等と無之事こ、得とも、米商人とも銘に利欲(慾を)に存、合買上米に事寄、彼は見越等と浮説申觸、此上米直段引上、様相成ひあり、市中一鉢に難儀あり、別あ身輕者共り及困窮可や、條、都あ米商内こ懸り、もの共、并搗米屋等こ至迄、彌相慎、聊も不實に儀無之様、正路に賣買可致ひ、心得違無之とめ、譯あ右に趣申渡、上を、万一自分と徳用を考へ、浮説等申觸、もの、又いへ賣杯致、ものとも有之、不埒に仕方有之と遂吟味、急度可相答ひ、
右に趣三郷町中末迄も不洩様可相觸をの地○圖三三五九を見よ、

未正月○御觸帳によるに、北組惣年寄の副書日付は五日なり、

土佐 備後

(御觸書之留)

觸三四一三四五 ○圖一及二なるべし、

觸三四六 正月廿五日 諸家藏屋敷拂米切手改兼帶(役)改後藤縫殿助儀、差障に筋有之、切手改

兼帶役御免御差止に事、

後藤縫殿助切手改兼帶役の廢止

當表諸家藏屋鋪拂米切手儀、去ル寅年○圖三一六後藤縫(殿)之助存寄申立、願に通切手改兼帶役申渡、取斗方に趣再應○圖三二〇八及三二五三を見よ、相觸、京都大津共同様爲取扱ひ所、此度差障に筋有之、米切手取扱被差止、切手改兼帶役御免被成ひ間、以來米切手通用不差支様可致ひ、
右に通從江戸表被仰下ひ條令承知、向後切手米に付差障に儀等有之、ひ、月番に奉行所に可訴出ひ、吟味に上可及沙汰に條、此段三郷町中不洩様可觸知者也、

未正月

土佐 備後

(御觸帳)

○左に本令に關する米方年行司及上積問屋惣代の請書を掲げ、参照に供す

未正月廿日、米方年行司共上問屋兩組共御召出、東御番所に罷出、諸家藏元名代に類とも

一統公事場に罷出、被仰渡左に通、其後於地方役所御請印形、

差上申一札に事

一當表諸家御藏屋敷御拂米切手儀、去ル寅年後藤縫殿助存寄申立、願に通切手改兼帶役被仰渡、取斗方に趣再應御觸渡、京都大津共同様取扱被仰付置、所、此度差障りに筋有之、米切手取扱御差止、切手改兼帶役御免被成、旨、從江戸被仰越、間、其旨相心得、向後諸家御拂米切手買

米方年行司上問屋及上積米屋惣代請書

御觸及口達 天明七丁未年

縫殿助改印の不用

取、共、改印請、この及ひ不申、前々通、勝手次第手廣ニ賣買いさし、通用不差支様可致、旨被仰渡、奉畏ひ、仍御請書差上す所如件、

天明七未年正月廿五日

米方年行司

五 人 印

上間屋上積米屋

惣 代

御 奉行 所

差上す一札事

米方年行司の請書

廻米高拂米高届出の不用

一當表諸家藏屋鋪拂米切手と義、去ル寅年後藤縫殿助存寄申立、願通切手改兼帶役被仰渡、取斗方と趣再應御觸渡、京都大津共同様取扱被仰付置、所。此度差障筋有之、米切手取扱御差止、切手改兼帶役御免被成、旨、從江戸被仰越、間、其旨相心得、向後廻米高拂米高書付こ不及、右と段銘と藏屋鋪役人へ可達被仰渡、奉畏ひ、仍御請書差上す所如件、

天明七年未正月廿五日

米方年行司

五 人 印

(御觸書之留并濱方記録)

御 觸書三

補達 三三六 二月十七日 公役銀并町役銀取集方相分の様可致事、

公役銀町役銀は區別して徴収す可

宗旨頭町年寄月行司、方格惣會所へ被招呼、左と通被仰渡ひ、

一御用人足賃銀都公役銀割方、役割石割の差出の處、於町と丁役銀とも入交、一同に取集メ、故、公役銀高相分り不、甚不埒に被思召ひ、已來公役銀町内との割方相分の様、可致取斗、旨被仰渡、猶又御請書被仰付、得とも、右と追御案内在之筈に御座、三を見よ、

二月十七日

(御觸書之留)

參 同 日 右同斷、請書事、

參 同 日

(爲カ)

只今亦々宗旨頭町年より月行司、同所へ被思召、左と通被仰渡、

公役銀の節約

一三郷中々差出の御公役銀、近年銀高相増、町人とも難儀仕ひに付、兩御役所并惣會所諸入用共御檢約御仕法被仰出、去午七月々出銀高減少被仰付、〇圖八七、處、其已後於町と、御公役銀并丁

公役銀町役銀合併徴収の不可なるを論ず

内入用をも一躰に相込取集メ、右御憐愍を以減少被仰付、新規も不相分、丁人ともに出銀爲致儀達御聞、此儀町人とも取斗儀に、〇圖八八、甚不埒に儀、勿論年寄月行司も等閑に仕方、尙又年寄月行司承知の上、右躰に取斗の事、得と、甚以不埒に取斗方に被思召ひ、品に寄御役所へも被招呼、御吟味も可被遊儀に、へ共、先各様か丁と取斗方御糺被成、様被仰渡、趣、奉畏ひ、右と段組合町とへ早速申達、壹町限明後十九日五ツ時、年寄月行司に御答書付持參可仕様、是又被仰渡、奉畏ひ、右爲御請仍如件、〇圖二二、六を見よ、

二月十七日

右と通被仰渡、間、左と通御答書付差出、

御觸及口達 天明七丁未年

乍憚口上

一三郷町中々差出御公役銀、近年銀高相増、丁人共難儀仕、ニ付、兩御役所并惣會所諸入用と
も御檢約御仕法被仰出、去年七月々出銀高減少被仰付、町人共一同難有奉存、然ル處其已後
御公役銀并丁内入用銀をも一躰ニ打込取集、儀、御憐愍を以減少被仰付、(規矩カ)新規不相分、丁人共
出銀爲致、儀達御聞、甚不埒ニ被思召、奉恐入、右割方私共立會、元帳面こゝを相分ケ置、
一躰ニ取集メ仕來、へ共、此度御取締減少被爲成下、上、取集方も相分ケ可申處、其段心付
不申、甚不調法可申上様も無御座、此以後御公役銀丁内入用銀相分ケ取集可仕、間、宜被仰上
被下度、書付を以奉申上、以上、

天明七年二月十九日

堂嶋新地中貳丁目

月行司 升屋安 (兵衛)

同町

年寄 徳屋門十郎

(御觸書之留)

惣御年寄中

乍憚口上

一三郷町中々差上、御公役銀云々○上文に同じ、但し末文「右
此段組合町」と以下を闕く、
此段去年七月々御憐愍を以、出銀高御減少被爲成下、段、丁人共一同難有仕合奉存、勿論惣
會所表被差越、端書銀高儀、勘定節、年寄月行司丁人共も立會、帳面ニ得と相記置、

へ、丁人共難有承知仕罷在、依之丁内取集儀、御公役銀并丁入用銀をも都合にて相集
來り所、右体にて御儉約規矩相分不申趣、全私共是迄右取斗方不行届段、御糺上奉
恐入、尙又已來御公役銀丁入用と相分儀、取集可申間、何卒右趣宜被仰上被下度、爲
其以書付御答申上、已上、

未二月十九日

道修町三丁目

年寄

月行司

惣年寄中

送八四

三月八日 三郷町中々差出御用人足賃銀減少被仰付、町々取集方端書

寄帳、毎年正月七月兩度ニ御役所ニ可書出事○題八七
二を見よ、

補遺 三七

同日 去年七月より同十二月迄御公役銀殘額事、
當正月通達町年寄月行司、今日東御番所に被召出、於御前左通被仰渡、

一去年七月々十二月迄、勘定表御用向入用并惣會所入用共差引、拾七貫九百貳□ト壹厘
四毛七弗余銀ニ相成カ候ニ付、町々割戻可申處、左、あ、失脚等も有之ニ付、右銀子ニ御役
所符印封、惣會所へ預置、以來御用入用并惣會所入用ニ可致間、一統難有奉存、様、御口
上にて被仰渡、事、

右通被仰渡、間、御承知上、御順達留より會所へ御戻可被成、以上○題八七二及
八四を見よ、

御觸及口達 天明七丁未年

未三月八日

年

寄

(御觸書之留)

觸三三六 三月十四日 阿部備中守○正殿連判、御列被仰付、事○體裁圖一九七

參考 八四 三月十八日 去年七月より同十二月迄御公役銀殘額被仰聞○二と大差なしひ、町、御禮

事、

乍恐口上

北組通達町

年

寄

月

行

司

一三郷丁、毎々差出、御公役銀、先年、銀高相増、近年別々御公役銀多相懸り、丁人共難儀仕
被爲仰出、依之去年七月已後御減少、程耽と相分り、私共組合丁人共一統難有奉存、別々去
年七月、同十二月迄御減少、上、三郷、余内銀十七貫九百目余有之趣被爲仰渡、早速組合町
々へ通達仕、一統奉承知、冥加至極難有奉存、御義、組合町、丁人共御禮奉申上度、御付、
乍恐物代を以御禮奉申上、已上○圖二二三七を見よ、

天明七年未三月十八日

通達町丁

年

寄

御奉行様

月

行

司

(幕令)

觸三四九 四月二日 阿部能登守殿死去、鳴物停止被仰出、事、

阿部能登守殿今曉死去付、町中并道頓堀、安治川、堀江、會根崎新地芝居、今二日、來ル四日迄○圖三二三日、間鳴物停止之、諸事可致穩便、普請、構無之、此旨三郷町中可相觸○圖三二三九を見よ、

未四月 付は二日なり、
○年寄の副書日

土佐

備後

(御觸帳)

觸三五〇 四月十二日 江島多賀別當尊勝院諸國勸化御免、事○圖九五九を見よ、

觸三五二 四月廿二日 將軍宣下就御祝儀、御赦被仰出、事○體裁圖二五八四に同じ、

觸三五三 四月廿三日 公方様將軍宣下、御作法無殘被爲濟、事○體裁圖一九四九に同じ、但し、

觸三五四 四月廿八日 堀田相摸守殿大坂御城代被仰出、事、
去十九日堀田相摸守○正殿御事、大坂御城代被仰付、旨、從江戸表被仰下、條、此旨三郷町中

可觸知者也○圖三六四七を見よ、

四月廿九日

(御觸書之留)

觸八五五 五月五日 將軍宣下、諸御禮無殘所被爲濟、事、

先月廿一日、廿二日、廿三日、將軍宣下御祝儀御禮、首尾無殘所相濟、段、自江戸被仰下、條、恐

御觸及口達 天明七丁未年

一一七九

城代阿部正
敏卒す

城代堀田正
順

貧窮人の調査

の様にも可相成、左、あゝ小買米こゝ其日を送りぬ者共の、明日か買方差支、無據路頭こ立可
中儀こゝ、誠差掛り儀格別筋こひ條、右躰困窮人ゝ有無、一町限り今晚中こも相糺、實
貯米等無之、買入方差支ぬ者共町内か手當致遣シ、此上騒立不中様取斗可中事〇〇八九七及
九〇〇を見よ、
未五月〇天満組惣年寄の副書日付は十三日卯上刻なり、但
し、御觸帳には十二日夜北組惣年寄の副書あり、
(御觸書之留)

〇三五六 五月十三日 公方様御袖被爲留の事〇體裁圖二九
三五に同じ、

〇九〇〇 同日 右同斷〇搗米屋共數ヶ
所打損いニ付 米押買不法に族召捕、被及御吟味付、商内方不相

怖、手廣賣買可致事、

押買狼藉

搗米屋の營業中止を戒む

昨日搗米屋共方へ多人數押寄、少(價)く償ヲ以、あゝて米買取、不承知者(二册カ)の多分家宅打損シ、
不届(二册)に至、右躰儀(二册)のたとへ(二册)と、銘(二册)可相愼義(二册)こ、處、無其儀段不届
こ付、追(二册)手當を以召捕、此上(二册)も右躰不法に族有之の召捕、嚴敷致吟味積り、精(二册)手當
こ置、間、小賣渡世(二册)い(二册)米屋共儀の、自然と相怖、商ひ見合、あゝ、還(却)あ末(二册)こ(二册)の共
不致安心、難儀筋(二册)こ、間、右不法に族の奉行所か取示遣、間、聊不憶、只今迄(二册)通、相庭立
直段を以、正道(二册)に商ひ手廣(二册)可致、買人(共册)に内不辱(二册)を(二册)す(二册)ひ(二册)、早(二册)可訴出(〇〇八九
九を見よ、
一右米屋(二册)に外商賣(二册)者も、自然と相怖、賣買相休居、様(二册)も(二册)在之趣、間、無遠慮商賣(二册)い(二册)
様可中聞、

町々番人

一町々番人儀、昨日中聞〇〇八九
八を見よ、通、彌無油斷心を付ぬ様可致事、

五月十三日夜戌上刻(御觸帳)
〔十四日朝五半時廻ル、〕

(同上)

施行の獎勵

〇九〇一 五月十六日 米直段至あ高直こ付、末(主)困窮者に施行可致遣の事、

口達

此節米直段至あ高直こゝ、末(主)者共困窮(二册)い(二册)こ付、身元宜町人共(二册)内(二册)こも、施行等(二册)い(二册)
遣度存付居ぬ者も有之由(二册)こ得共、時節柄(柄)を存差扣居、者も有之哉(二册)こ相聞ぬ、右躰志有之者
の、此節事(六)こ、間、聊無遠慮、勝手次第相應に施行い(二册)可遣事(二册)、〇〇〇二二
八を見よ、
(同上)

未五月十二日〇御觸帳に北組惣年寄の副
書日付を十六日子刻とす、

〇三五六 五月十八日 米高直こ付、施行致度者(二册)の不及遠慮、名前を顯(二册)ぬ儀を厭(二册)ひぬ

分と、惣會所(二册)に割渡取斗可中事、

口達と覺

此節米高直こ付、困窮者に施行致遣度思召こ付、惣年寄中か此間書付を以被仰渡〇〇九〇
一を見よ、
處、右書付町(二册)に不行届様、於御役所御沙汰も有之、依之猶又三郷町(二册)に内(二册)こゝ、家持借屋
者共へ得(二册)中聞、施行致度者(二册)と惣會所(二册)に員數書出(二册)、取集置、困窮者共へ割渡度、思召
こ付、随分出情可仕ぬ、尤名前等差出、自分(二册)に施行致度者(二册)の、其趣書上可(二册)や、又(二册)無其儀、
少(二册)こ(二册)も施行致度者(二册)の、丁内(二册)に取集、一所(二册)に惣會所(二册)に差出、共、勝手次第可致、此段一丁
限り、丁内(二册)者共随分相勸メ、右(二册)趣否明日中(二册)に惣會所へ書付可出、

五月十八日〇御觸帳に載する所、辭句相違あれど
も趣旨全く同じ、故に今省略に従ふ、

〇三五六 五月十九日 町々貧窮人人別(二册)に相調、明廿日可中出事、

(同上)

御觸及口達 天明七丁未年

再び施行を獎勵す

施行の手續

貧窮人の調査

近年米高直、別此節高直にあり、末に者至る困窮凌兼、様子、達御聴ひに付、其日凌兼致難儀の者とも、今日中名前人別相認、明廿日正六ツ時迄、無相違有無とも書付、天満組惣會所へ、年寄印形にて名前可被差出、已上○欄二四〇を見よ

未五月十九日未下刻

(同上)

貧窮人調査の疎漏

欄二四〇 五月廿二日 町に貧窮人再調査事、

此節町にあり至る困窮、其日を凌兼、難儀いよいよ分斗書出の様達○欄二三〇を見よ、町に寄、存に外人數多相見へい處も有之い、全末に心得違に者も在之、混雜いよいよ、町にこぢるくも急成義、調方差別も成兼、書出シの事を相聞ひ、右に通こあるを、此節取斗被仰附の御趣意も違ひ間、相應に働或のりなりにも商賣いよいよ、難澁ながら致渡世の者も、無差別書出の譯こある有之間敷事被存ひ、併此所相調ひあるを、却る混雜に付、差懸りひい義、先書出、通りこる施行錢割渡遣い、此上い處町内にて年寄家主得を兼ある見及、實に渡世も無之、其日を凌兼、糧に盡、程に者斗、名前人數相調、來廿五日迄に有無共可被出、尤本人に聞、譯に有之間鋪、年寄家主見及こある、誠こ貧窮に及ひ分斗今一應可被出ひ、

未五月廿二日

(同上)

施錢額と貧窮人員數

○御觸書之留并濱方記録によるに、當時公儀へ差出したる個人並に町々の施錢額、合計壹萬四千九百五拾貳貳貳百文に達し、三郷困窮人高拾八萬九千三百五人、此總數高五萬六千貳百三拾貳軒あり、五月廿二日九ツ時南組會所へ丁々を召集し、總數に百文宛を下付したりしが、此他個人又は組合より、内々に施行したるもの夥多しとあり

有米拂底

米穀他所賣停止
已むを得ざる者は町奉行所の差圖を請く可し

買上米の江戸輸送

買上米に托引上ぐ可からず

欄三五五 五月廿五日 御役者大倉文次郎勸進能事○欄九〇を見よ

欄三五六 同日 米拂底に付、他所他國に米穀遣問敷事、

當表に有米拂底にあり、追て米直段引上、末に身輕に者共困窮に趣に相聞へ、處、此上商人共勝手次第他國へ賣出、あり、彌有米相減、尙更直段上りひ此にからに、新穀時節迄、市中に取續もいり、可有之哉、依之米商人共一分に徳用(拘)に抱り筋の勿論、たとへ親類懇意に者より頼を請、とも、他國への容易に遣問敷事、問、其旨相心得、實に無據子細有之、他國へ差遣一度分の、奉行所へ相斷、差圖請、上取斗可やひ、尤市中取續にせめ、右に通や渡、上り、万一取拵手段を以、他國へ差遣いひもの之、於相顯ひ、急度可及沙汰、問、心得違無之様可致ひ、右に趣三郷町中不洩様早に可觸知者也○欄九〇・二九〇・四・欄三三六・三四・三三六・九・及三三八・五を見よ

未五月廿五日

(御觸書之留)

欄三五九 同日 就御用、於當表御買上米江戸に被遣ひ付、米穀高直に致問敷、市中取續

方心得事、

今般就御用、於當表御買上米いよいよ、江戸表へ可相廻旨被仰出、に付、則米仲買共へ買方付付○欄三三四を見よ、右に付當表に有米高夫丈相減ひ得とも、御買上米に儀の別段に筋、其上格別に石高にあり無之、得ひ、米商人共銘に利徳を存、直段引上ひ様こひ、取斗中間敷儀勿論に心得共、自然心得違にもの等有之、米拂底を見込、直段せり上、此上高直に相成、あり、末に身輕キ者共彌可及困窮事こひに間、都る米商ひに掛りひ者共、此時節柄に儀相弁、急度相慎、右御買上

御觸及口達 天明七丁未年

一一八五

人心の動搖を戒む

普請等から止す可からず

米ニ事よせ、見越等々浮説をす、米直段引上り間敷、萬一右中渡を不用、不埒仕方於有之
 の遂吟味、急度答可申付、

一右御買上米ニ付あり、市中町人共新穀迄取續を危踏可申哉、別身輕者共の巨細譯をも
 不弁、此上米高減シ、直段引上、飢にも可及様存込、人氣相立、心得違仕業等在之、市
 中不穩あり、諸商ひ并働方等迄も相響、猶以困窮基ニ相成、實ニ困窮人在之儀を、奉
 行所を捨置、筋無之儀の勿論と申、市中日用米差支不様取斗在之ニ付、其段致安心、
 諸事物靜こいさし、日用儀とも格別檢約加へ、新穀時節まで取續方儀、銘々勘辨可致、
 一今般身輕者共心得違、町家所々打損シ、或施行安賣杯と申ふ、搗米屋へ多人數集り、押
 買同前仕方不届ニ付、追々及吟味ニ付あり、都る市中者とも物支致遠慮、普請等迄相止
 メ由相聞へ、右躰質素ニ致シ心得あり、自諸商人とも初メ、日雇働いさし、身輕キ者
 共迄渡世無之、困窮折悪敷彌可及難儀、施行等いさし程の時節ニ得と、何ニ不寄、身輕
 右の共渡世差支ニ不相成様、普請其外諸事常躰通相心得可申、

右趣三郷町中不洩様早可觸知者也、

未五月(御願)廿六日(卯)晚丑刻廻ル

土佐 備後

(同上)

圖三六〇 同日 米拂底ニ付、預り米貯米其外飯米余計圍置ひ類、并國々手寄引受(出願)
 米雜穀、且又酒造屋持越米等石數、壹町限年寄丁人致吟味、奉行所可申事、

預米及貯米は賣出す可

餘分の飯米は賣出す可

納屋物有高及入津見込高の届出

酒造米持越高の届出

當表有米拂底と趣あり、米直段追々引上、處、町人共内ニ、預り米并貯米等いさし置、者
 共、或の諸品賣代銀(二男)代り米穀等請取、所持罷在、者共も有之趣、粗相聞へ、たとへ無據譯
 在之、共、此節柄(柄)儀ニ付、右躰者共聊不隱置(早)賣出、其段奉行所へ訴出可申、萬一
 無據筋あり、難賣出者も有之、石高書付、右趣可申出、自然右躰立あり、各杯
 請可申哉、或末々共の共意恨(遺)を含可申杯と相迷ひ、隱置あり、武家等より預り米由取
 拵申出、者有之、相顯、こゝろの遂吟味、急度可相答、

一銘々貯置ひ飯米手當儀も、常躰より余計ニ圍置、趣ニ相聞へ、是又無事年柄(柄)より格
 別檢約を用ひ、相應手當いさし、余慶(計)石高貯置申間敷、

一納屋物問屋儀、商賣筋儀ニ付、國々手寄者共引受置、米穀等可有之間、當時有米
 高、并先銀等差出、追々廻着可致石高等、相知有之分、其石高をも早可申出、尤右
 趣申出、込、損矢(失)勿論、氣遣ひ筋ニ無之事、間、少々無疑惑有躰可申出、

一酒造屋共儀、去年より半石造申付、得共、商賣柄儀ニ付、年々持越、石數も可有之哉、持
 越、米儀の半石造不抱事、間、少も無遠慮所持米高可申出、

右四ヶ條趣、一町限りニ年寄町人立會、得々相糺、右米有之分、早可申出、若隱置、外
 相顯あり、當人の勿論年寄町人共迄遂吟味、急度答可申付、間、心得違無之様可致、

右趣三郷町中不洩様早可觸知者也、○圖三三六一及圖九〇四を見よ、

未五月

土佐

御觸及口達 天明七丁未年

備後

(同上)

圓叔摺立請負入札

補遺 一三三 同日 御圍叔摺立請負入札事、

一當地御藏御圍叔之内、此度摺立被仰付の間、右摺立請負相望の者、明廿六日八ツ時、東番所に罷出、石數并摺立場所、其外委細と義篤と承之、猶又差圖と日限と入札と一可申、右と通早と三郷相觸、請負望の者可申出、

未五月廿五日

(御觸帳)

補遺 一三四 同日 今日米相場格別高直に付、米方年行司へ被仰渡事、

年行司へ被仰渡の趣左に通、

米相場の暴騰

商人と雖も時節柄を辨へよ

米相場之儀如何と譯こひ哉、今日格別高直に相成ひに付、小賣米等直段引上ケの趣に相聞へ、畢竟米市場に賣買者、中買共限り事に心得者、客先注文と賣買共、時節柄を存ひ、致勘弁、可成丈直段引下ケの様取斗、市中に人氣相ゆるに様心懸ケ可申所、今日急に格別直段引上ケの段紛敷、全中買共利潤に抱り、市中に痛を不厭仕方に相聞へ、不届に事、尤米商人に不限、都る商人共之儀、商ひをのり利潤ヲ以、渡世を營、事共心得共、時節柄に弁の可有之處、米拂底ヲ見込、買置米等利潤を可貪た、直段せり上ひ歟、又所持米等を不賣出、直段引上ケの様仕成シの者等有之、此方をも手當ヲ以立聞させ、吟味と上急度相答の間、中買とも一統へ、右と趣共篤と申聞、不届と賣買不致の様取斗可申事、

未五月廿五日

(御觸書之留并濱方記録)

預米貯米餘分の飯米及納屋物酒造米の有無石高届出

補遺 九〇二 五月廿六日

他國に米積出間敷に事

再觸

補遺 九〇三 五月廿九日

右同斷

糺方不行届に付、

事

當表有米拂底と趣に付、當地町人共之内、預り米并に貯米いし置、をの、或は諸品賣代銀に代り、米穀等請取所持罷在ひをの共、其外飯米と余計圍置、類、又は納屋物間屋に他國に手寄、先引請置、米雜穀等、且酒造屋共儀も年々持越ひ石數可有之の間、右に分一町限り年寄町人立會、得と相糺、右米有之分早に可申出段、去ル廿五日觸書差出、此處、其後追と訴出の者も有之に得共、甚少分は相見得、全町役人共糺方不行届故に儀に、哉、此上急に年寄町人共立會相志らへ、來月三日迄右米の有無とも、年寄月行司の内可申出、若隱置、後日と相顯、の、當人勿論所との共、急度可令沙汰、

未五月

土佐

備後

(御觸書之留)

補遺 一三三 同日 町に御觸廻狀等通達方に事、

都多町觸御書付を以被仰出儀、於惣會所町に年寄へ申渡、町に右御書付、丁人斗へ其町會所にて年寄が申聞、或は寫持廻り、又借家人への家主が申達、町にも有之、右御觸と趣不行届、末にての不行届も有之由、町に取斗方甚不相濟、等閑と致方に付、已來に儀爲行届、

御觸及口達 天明七丁未年

一一八九

從來の町觸通達方

右に趣三郷町中末迄不洩様可觸知者也、

未六月

土佐

備後

(御觸帳)

觸三五 同日 惇信院様廿七回御忌御法事、事〇體裁圖三一
八七に同じ

觸三六 六月十三日 近年宿々困窮上、米穀高直こひ之間、本陣旅籠屋こゝ、相應直

段を以旅籠錢可相拂事

觸三七 六月十五日 小賣搗米屋共時相場こ隨ひ、高直こ賣出間敷事、

米小賣直段
を米相場に
準ぜしむ

搗米屋の不
埒

米直段余程引下ひ得共、右直段こ見合ひあそ、搗米屋共小賣直段高直こ、不都合こ相聞ひ、
勿論俵賣と違、春賃(米)其外(米)雜用等も相掛り、且渡世こ儀故、相應こ徳用をも可取處こ、へとも、
是迄仕方、米直段引上、へ早速小賣直段も引上、下直こ成節(米)容易こ不引下趣こも相聞、
間、右躰心得違ひ無之哉、別々當年こ儀去年來引續米高直こ、身輕(米)の共至こ及困窮ひ儀
こ付、時節を相弁、時相場こ隨ひ、銘こ勘弁を以可成丈下直こ賣出シ可ひ、若搗米屋共利
潤を存、中合等致、不筋こ賣方有ひ之遂吟味、急度可及沙汰、尤右こ通シ渡ひ迎、買りと者
とも心得違、非分こ仕方無之様可相慎候、
右こ通三郷三郷町中可觸知もの、〇圖三三五
五を見よ

未六月

土佐

備後

(御觸書之留)

觸三六

〇觸三五
に同じ

觸三六

六月廿五日 米拂底こ付、他所他國積致間敷、利欲(慾)こ拘り、内こ他國積致ひ

者有之、見聞次第可訴出事、

米穀他所賣
の禁

京都伏見を
除く

拂米藏出多
し

隠積の検査

當表米拂底い、有米見積りこ趣こ、新穀時節迄、市中日用こ取續無覺束相見得ひこ付、
他所他國へ米穀積遣儀、奉行所こ伺出差圖可請旨、先月中相觸置〇圖三三五
八を見よ、依之諸家こ用
米或こ京都伏見等へ差登ひ米雜穀等、無據筋こ儀〇圖三三六
四を見よ、格別、諸家用米こ、右觸以後
こ買入、他所他國へ積送りひ儀容易こ難成、然上前書外、他所他國賣無之故、積出等も
有之間敷答こ、處、諸家拂米こ内、日こ藏出こ出捌石高多分有之、市中日用(米當時)「檢約こ
時節こ不都合こ相見得ひ、右觸置ひ趣も有之上ひ、無斷他所他國へ賣渡シ、積廻等致間敷儀
を勿論こ心得とも、利欲(慾)こ拘り、不埒こ族有之、切手米并納屋物米等こ内、市中遣ひ用こ姿を
以偽買集、諸家用米こ仕成シ積出ひ歟、又ひ相忍ひ米穀と不目立様取捨、他所他國へ賣捌ひ者
可有之哉、左こ見積りこ有米致相違、差掛り市中日用米無之様相成、可為難儀筋こ、不
容易儀こ付、右隠積こ有無、手當を以為及見聞、是迄こ不埒こ者有之、尤遂吟味、此上怪
敷賣買積出こ等有之、何國こ船こ差押へ置、改シ付、且隠積こ趣取沙汰有之、
とひ風聞こ、共、其者及吟味、不埒こ相究ひ、當人こ不及シ、所役人共急度相答メ、其節
心得違との中分こ不取用ひ、此節米直段引下ケ方こ故、商人こ習ひ、一分こ商徳こ迷ひ、

御觸及口達 天明七丁未年

一一九五

不埒仕方無之ため、尙又右と通ず渡り、
右と趣三郷町中年寄共別あ篤と相辨、無忘却相糺、米商ひいさ、その共の勿論、末迄も不
洩様、早と可觸知者也、

未六月

土佐

(御觸書之留)

圖三三〇

七月三日 町方物静に相成り付、町と番人日と詰切ひに不及事、

當五月十二日所と町家打損、騒立、こ付、一町毎番人差出、人寄有之の追拂可や旨相觸八を見よ、
尙又先月三日も同様と義や渡置三を見よ、所、此節物静に相成、間、丁と手當番人と儀日と
詰切ひの及間敷ひ、併非常と儀有之の節の、無手拔様や合可置旨可達、
右と通御口達書を以被仰渡、尤非常と儀有之の節の、兼あや合無手拔様、尙又御口上と被仰
渡、間、此段心得違無之様可被致、

未七月三日

(幕令)

圖三三〇

七月六日 鑄銀と儀、無滯通用可致事、

鑄銀と儀、從前と無滯通用いさ來、處、(御觸書)近來鑄多相成、由、兩替屋共の相弁、仲間通用不
差滯ひ得とも、素人共撰嫌いさ、取引一統差支、由相聞、右鑄銀と儀、大鑄にて極印難見
分ひとも、正銀と無相違、の、大鑄こも無滯、常是こも上納と包極ひ事、間、世上にて
相撰、通用相滯筋の有之間敷事、兩替屋共の勿論鑄銀相撰、義堅致間敷ひ、若相背、爲差

鑄銀の通用

常是包

滯、もの有之の、急度可相答ひ、間、其段可訴出ひ、
右と通三郷町中可觸知者也、

未七月

土佐

備後

(御觸書之留)

圖三七一

七月八日 徳川民部卿殿御次男松平慶之丞殿、田安家御相續、被稱徳川と、田安

領拾万石其儘被進ひ事、

徳川民部卿殿御次男松平慶之丞○齊殿御事、田安家御相續、且被稱徳川と、田安領拾万石其儘
被進、段、江戸が被仰下、條、恐悦奉存ひ、此旨三郷町中可觸知者也、

未七月

土佐

備後

(同上)

圖三三二

同日 松平越中守殿連判と御列并上座被仰付、牧野越中守殿備後守殿と御改名

事、

松平越中守○定信殿御事、連判と(集)御列并上座被仰付、且牧野越中守殿御事、備後守と御改名ひ
旨、從江戸被仰下、條、此旨三郷町中可觸知者也、

未七月

土佐

備後

(同上)

備三三三

同日 由良川筋通船荷物と事、

御觸及口達

天明七丁未年

由良川通船

荷積品書中
米雜穀を省

平等院寄附
講銀貸付支
配人

今日通達町年寄方格惣會所^(角)被招呼^(ヘカ)、上、左と通被仰渡、

一東叡山領武嘉豐島郡三河嶋村百姓三郎兵衛方ニ居^(惣)与^(惣)三右衛門儀、丹後國由良湊ニ^(カ)城州嵯峨
まで、由良川通船相始、儀ニ付、去已年差障^(七)有無相糺^(七)、處、差障無之旨^(七)立^(カ)付、
其段先達御勘定奉行^(七)遣^(カ)置、處、此度猶又^(七)來、^(七)右丹後國由良湊^(七)右川筋丹後國黑
瀬村迄通船相始メ、東國北國より出^(カ)、諸産物新出^(カ)、分引受、通船難成場所^(七)普請^(カ)、
黒瀬村より殿田村迄^(カ)新規陸付送り、同村より高瀬船ヲ以嵯峨材木町迄致運送、當表^(七)東國北
國^(惣)に相廻^(カ)、荷物も引受、様い^(カ)度旨相願、義^(カ)ニ付、三ヶ年已前^(七)已年十月差障^(七)、否相糺、處、
右与^(惣)三右衛門^(惣)立、品書^(カ)内、黒大豆小豆爲積登、又^(カ)武家方扶持米杯と名目を附、米穀積送
り不^(カ)、^(カ)、差障無之段、米方年行司上問屋上積米屋共^(カ)立、^(カ)付、尙又与^(惣)三右衛門取調有
之、處、後^(カ)まで穀物^(カ)の決^(カ)船積致間敷旨^(カ)之^(カ)、然ル上^(カ)の彌差障^(カ)無之哉^(カ)、尙又可^(カ)聞^(カ)、
右返答書來ル十日九ツ時丁代可有持參^(カ)。

未七月^(御觸書)〔八日〕

(同上)

補達 二四 七月九日 當四月^(カ)六月迄、諸國藏米納屋米登高可届出^(カ)事^(カ)〇體裁^(カ)補達^(カ)一
七四に同じ、

補觸 一三六 七月 繰綿^(カ)よまめり^(カ)かくま^(カ)事、并地藏祭^(カ)事^(カ)〇觸^(カ)九五
七に同じ、

觸三七三 〇觸^(カ)六
なるべし、

觸三七四 七月十八日 圓滿院宮兼帶所宇治平等院寄附講銀貸付支配人^(カ)事、

圓滿院宮兼帶所宇治平等院寄附講銀貸付儀、与左衛門丁越後屋平七支配借屋山本屋忠七致支

配、間、望^(カ)者^(カ)を忠七^(カ)へ^(カ)達^(カ)シ^(カ)借^(カ)り^(カ)請^(カ)、元利無遲滯返濟可致^(カ)、

右^(カ)趣^(カ)三郷町中可相觸者^(カ)〇觸^(カ)三二九〇及
三七〇五を見よ、

未七月

土佐
備後

(御觸書之留)

觸三七五 七月十九日 諸國酒造^(カ)儀、米直段高直^(カ)ニ付、酒造高^(カ)内三分二相止、三分一酒
造可致事^(カ)〇觸^(カ)三三〇・三三八
及三四〇六を見よ、

觸三七六 同日 朱并朱墨^(カ)儀、朱座^(カ)外^(カ)ニ^(カ)猥^(カ)ニ^(カ)賣^(カ)買^(カ)致^(カ)間^(カ)敷^(カ)事^(カ)〇觸^(カ)三一六九及
三七七〇を見よ、

觸三七七 七月廿五日 酒直段格別高直^(カ)ニ^(カ)賣^(カ)出^(カ)ニ^(カ)付、正道^(カ)ニ^(カ)直^(カ)段^(カ)を^(カ)以^(カ)賣^(カ)買^(カ)可^(カ)致^(カ)事、
一酒造^(カ)儀、當年^(カ)を^(カ)追^(カ)及^(カ)沙汰^(カ)、迄^(カ)、酒造高^(カ)内三分二相止、三分一酒造可致旨相觸^(カ)〇觸^(カ)三三七
五を見よ、
、所、頃日酒直段格別高直^(カ)ニ^(カ)賣^(カ)出^(カ)、趣相聞、俄^(カ)ニ^(カ)直^(カ)段^(カ)高直^(カ)可^(カ)相^(カ)成^(カ)謂^(カ)無^(カ)之、不^(カ)埒^(カ)ニ^(カ)至^(カ)、間、
右^(カ)躰^(カ)儀^(カ)無^(カ)之、正道^(カ)ニ^(カ)直^(カ)段^(カ)を^(カ)以^(カ)賣^(カ)買^(カ)可^(カ)致^(カ)、若^(カ)不^(カ)相^(カ)用^(カ)之^(カ)有^(カ)之^(カ)、急^(カ)度^(カ)可^(カ)令^(カ)沙汰^(カ)、
右^(カ)通^(カ)三郷町中可相觸^(カ)之^(カ)、

未七月

土佐
備後

(御觸書之留)

觸三七八 同日 酒造屋共^(カ)三步一酒造方^(カ)儀、并米買入^(カ)度^(カ)毎、買方賣方とも奉行所^(カ)に可
斷出事、

一此度觸書差出^(カ)〇觸^(カ)三三七
五を見よ、通、酒造三分一造立、酒米^(カ)儀、米仲買とも^(カ)勿^(カ)論^(カ)、其外問屋米屋^(カ)

御觸及口達 天明七丁未年

一一九九

諸國酒造高
三分の二を
減ず

酒價の騰貴
を戒む

酒造米賣買
高の届出

酒仕入濟届
出と酒造高
検査

酒造休業者
の届出

買入、刻、賣主と名前并米高等を認、酒造人共々月番と奉行所に、其度毎に可斷出、尤米賣渡、をのとも儀も、右賣渡、米高并買入と名前等相認、是又可斷出、

一右酒造屋とも儀、當年に酒仕入相濟、の、早に可斷出、其節役人共爲見届差遣、造高篤と相糺、過造を勿論、其外如何に儀等有之、の、本人を不及、所に役人共迄急度答可付、條、其旨相心得可被、尤右酒造込居、内にも、品に寄役人差遣の儀も可有之、間、其旨可令承知、

一〔右〕酒造人之内、勝手によけ當年相休のの有之、の、是以其段可斷出、
右に通三郷町中可相觸者之○圖三三八二及三四〇〇を見よ、

未七月

土佐

備後

(同上)

圖九〇四 同日 他國に米穀賣出の内、雜穀と分を勝手次第差遣の共、米麥と分の斷出、
差圖可受事、

一當表に有米拂底相聞、所、此上他國に米賣出シのあを、直段も引立、市中取續に儀も無覺束、如何可有之哉に付、他所他國に米差出シ度分を、奉行所に相斷、差圖請可付旨○圖三三五八を見よ、相觸、猶又町人とも之内、賣物に代り受取、又を國に手寄に者を引請置、米穀雜穀等も有之、の、悉ク斷出可付旨、先達あ申渡置○圖三三六〇を見よ、處、追に訴出の付、糺に上夫及沙汰、然ル處向後に儀、米麥と外、雜穀と類を他所他國に差遣とも、不及斷出の付、勝手次第賣買い

雜穀類の他
所賣を許可
す

と可被、米麥と分を是迄に通聊無相違斷出、差圖請、様可致、

未七月

(同上)

圖三七九 七月廿九日 米高直に付及困窮、袖乞等罷出のもの斗に、從 公儀爲御救御米
五百石被下置、事、

米直段に儀格別高直なる、困窮におよひ、者多、町人共と内志次第施行等い、者有之、右に助成并種々、儉約等を用ひ、當時渴と取續罷在趣(一)、今以米直段引下不、に付、末に者難儀に由相聞の間、此節格別及困窮難取續、袖乞罷出のもの共斗(二)、從 公儀爲御救御米五百石被下置の間、冥加至極難有可奉存の、右割方(渡)に儀を、一町限り改、年寄共々早に相糺、名前書付可差出旨申渡、右書附差出の上、尙又相改、御米相渡可遣、右御救可請とて、困窮も無之の儀に儀申、の、急度可令沙汰、間、正道に可立、尤町役人儀も依怙無之嚴密に相糺、〔名前〕書出可付候、若私曲に筋在之、の、遂吟味、可爲罪科、
右に趣三郷町中〔末〕迄不洩様可觸知の之○圖九〇五及八六を見よ、

未七月

土佐

備後

(同上)

圖九〇五 同日 御救米被下置の付、町に貧窮人相改、書付可差出事、
米直段に儀格別高直なる、末に及困窮の多、町人共と内志次第施行等遣のものも有之、右に助成并種々、儉約を用ひ、當時渴と取續罷在趣、今以米直段引下不の付、

御觸及口達 天明七丁未年

官米五百石
を賑恤す

窮民の調査

官米五百石を賑恤す

窮民の調査

末々者難儀、由相聞(二號カ)付、此度御城代堀田相摸守殿(模)御覧(同)上、御同人御差圖を以、此節格別及困窮難取續、袖乞等罷出(一)者共斗に、從公儀爲御救御米五百石被下置(一)間、冥加(一)至難有可奉存(一)、

一右袖乞も罷出程、者共、壹町限り早々相糺、年寄共々名前書付、有無とも來月朔日中、郷限り惣年寄共へ書付可差出、尤町役人共聊依怙、取斗無之様、嚴密に相調可申出、(其上)是迄も猶又糺申付(一)上、御米相渡可遣、若等閑致改方、後日に相聞、遂吟味、急度曲直、可被申付、

右通申渡間、一同難有令承知、末々ものへ不洩様可申聞(一)、(三三七九及九〇六を見よ)

〔未七月〕

(御觸帳)

同 日 右同斷、貧窮人名前取調儀、惣年寄共被仰付取斗方事(一)、(九〇五を見よ)

同 日 米高直(一)付、酒造三分一造方外、過造致間敷事、

一佐野備後守事、今六日豊前守と名改、此旨三郷町中可觸知者也、

(御觸書之留)

八月十日 江戸御奉行所在方、もの呼出、節、飛脚賃錢事、

同日 米高直(一)付、酒造三分一造方外、過造致間敷事、

諸國酒造儀、近年米穀(兼中)下直、年無之、米直段高直(一)て、下々の者共及難儀、趣相聞間、諸國共是迄造來、酒造米高内、半石酒造相止、休來酒造株分、酒造儀可爲無用旨、

備後守改稱豊前守

諸國酒造高三分の二を減ず

大坂及附近の酒造地

酒隠造の禁

去年中相觸(一)見よ、(三三三)所、當年儀を別米穀拂底(一)付、追及沙汰迄酒造高内三歩二相止メ、三歩一酒造可致、若隱造致(一)おひて、其當人の勿論其所役人迄、吟味上急度可申付條、心得違無之様可致旨、當七月中觸渡(一)見よ、(三三七)上を、銘可相慎事(一)心得共、大坂三郷町并池田伊丹富田茨木尼りさ、西宮兵庫灘神戸御影大石傳法、其外も酒造石數夥敷場所柄も有之由相聞、畢竟近年米穀高直上、當年を別拂底、下及困窮故、酒造米高追減少被仰出御趣意、酒造屋共右弁も無之、觸渡趣も等閑心得、一己徳用(一)迷、万一隱造致、誠不輕事、依之右躰者無之ため、再應相觸間、都酒造屋共觸渡趣彌急度相守、酒造高三歩一外過造有無、所役人を勿論酒造屋共も、寂寄限り所限り等申合、俱吟味も致、決る隱造無之様改合、自然不埒者(兼中)有之、早可訴出、若其者難儀を厭ひ押隱置、壹人(一)も隱造致者有之儀相顯、當人不及申、其所酒造屋役人共迄、嚴敷遂吟味可及沙汰、

未八月

土佐 豊前

(御觸書之留)

同 日

八月十五日 神善四郎秤改事、

一諸秤之儀神善四郎秤を可用旨、先年々度相觸處、猥に相成付、此度亦大坂三郷并攝

神善四郎秤改

御觸及口達 天明七丁未年

秤座以外の
秤買を禁
ず

河村と寺社家共、秤改と儀願の間、別紙仕様書と通相心得、大坂三郷の内、北組を來ル廿五日か來月五日まで、南組の來月六日か十五日迄、天満組の同十六日か廿五日迄の内、町と員數書善四郎方に可持參、在分と同十六日か來ル十月迄、勝手次第員數書大庄屋庄屋等に取集メ、是又善四郎方へ致持參、銘と所持之秤不殘に置、改請の樣可致、
一古道俱屋并千子見世杯に、新古に不限千木秤出置の處、後有之趣相聞、秤座有之上と、外に賣買致間敷の旨、度と相觸の處、今以猥に致賣買の處、善四郎方立、不埒と事この、度と相觸の通相守、已來右躰と儀一切無之樣可相心得、三五二六を見よ、

未八月

土佐
豊前

(御觸書之留)

○御觸書之留には、本文中に所謂「別紙仕様書」なるものを載せず、但し、幕令には「秤改仕法書、右を天明七未八月、先規と通に付略之」とあり、圖三〇六〇を見よ

八六 八月十七日 御救米御割渡被下への付請書と事、

差上の一札

窮民の届出
惣年寄の檢
査

救米割方
(一)北組

一打續米穀高直に付、三郷町とに内至る及困窮、袖乞等に出、程ともの、并極貧窮にて其日を送り兼、程と者共、御救米五百石被下置、付、右躰貧窮有之丁と御尋の上、惣年寄中迄人數書付差出、所、右惣年寄中町とに被差遣、貧窮と者其人別委細御改被仰付、左と通御救米被下、旨、
〔一此度御救米、割方左と通、〕
米百五十一石五斗四升六合六勺

北組の内
百 十 貳 町

(二)南組

是の右町數と内にて、袖乞出、程と者并至る極貧窮と者共、都合八千九百四十四人分と御救米高、
米貳百石七斗七升八合貳勺四才

南組の内
外 百 八 町
玉造稻荷社地建家場

(三)天満組

是の右同斷、貧窮人都合壹万千六百七十六人分と御救米高、
米百四十七石五斗四升三合七勺六才

天満組
七 十 町
并橋村屋敷・觀音寺屋敷・安治川梓ヶ學東寺町前・家受引取小
家・大鏡寺前建家場

救米人別割
方

是の右同斷、貧窮人都合八千六百四人分と御救米高、

右御救米人別割方

男十一才迄 一人一日に貳合宛と積、
女同斷 一人一日に一合宛と積、
男女無差別十才か五才迄 一人一日に一合宛積、
男女共四才已下 御救米と不被及御沙汰、
右一郷限并人別當り御救米高、御書面と通こゝ、今度惣年寄中を以御改有之の貧窮人共、一町

救米分配の
手續

御觸及口達 天明七丁未年

限り、人数に應じ、米高御割合、寂寄町に米高御打合、御渡可被下、間、一町限り年寄月行司共御差圖場所へ罷出、御米受取、即刻引取、一町にり合米無間違様ニ早速引分ケ、銘居町貧窮人共へ割合相渡、様可仕旨、

但、御米御渡被下、上、町へ引取方儀、人馬又船にて成共、勝手第二可仕旨、
一御救米一町限被下高員數、組合切手切手御渡被下、付、則右切手私共へ御渡被成、奉受取、町へ相渡置、追御米受取の節、其御場所におゐる右切手差上、御米受取、様可仕旨、尤右組合限石數端米出、分、郷限り惣會所にお追御斗り渡可被下旨、

一御救米一日一人當り、前書御割合に通じて、凡日數十二日程に取續出來可致、所、格別貧窮者へ、右御米高一時に相渡、あ、却疎も相成可致、兩三日宛に日用見合、追々相渡、共、丁に役人共勘弁差略を以、何れも貧窮人共無難に相凌、儀專要に取扱、尤役人の勿論手先に者共迄も、聊私曲紛敷仕方無之様可仕旨、右逸に被仰渡、趣、私共承知仕、則右丁へ御渡被成、米高切手、都合五十三枚奉受取、右御米御渡の節、無用人数不罷出、諸事相慎、不念に筋無之様、外町一統へ通達可仕旨被仰渡、奉畏、仍御請書如件○圖三三七九を見よ、

天明七年未八月十七日

(幕令)

圖三八五 八月十九日 米直段追引下ケの付、米穀他所他國に賣出の儀、奉行所に届こ不及、諸事常躰に通可相心得事、

當表有米拂底の、追々米直段引上ケ、末に身輕キとの共困窮に趣に相聞ひ處、商人共勝手

米穀他所賣
停止令の解
除

次第他國へ賣出の者、彌有米相減、猶更直段引上候而已から、新穀時節迄、市中に取續も如何可有之哉に付、商人共一分に徳用(拘)に抱り筋者勿論、縦親類懇意に者も頼を受共、他國に者容易に不差遣、實に無據子細有之の、奉行所へ相斷差圖請、取斗可仕旨、當五月中○圖三三五八觸渡、他所他國賣相糺、市中に者共日用米致儉約の故、是迄(無)に取續ひ處、寂早新穀出來立、追々廻着に時節に相成、間、彌市中に取續方別條有之間敷儀の、一統安心に事、然ル上者他所他國賣届出、儀、手狭に様心得の有之、自然當表に廻米相減の者、米直段に相響キ、身輕に者と勿論、都米方(拘)に抱り者共者、末に働人共迄も、渡世に障り可致難儀筋に附、賣買手廣に附、間、諸事常に通相心得、他所他國に賣出、儀、奉行所へ届不及、相對次第取引可致、

未八月

土佐
豊前

(御觸書之留)

圖九〇七 八月廿四日 當地御免富札の外、他所に富札賣買致間敷事、

口達書

一於當地御免富札の外、他に富札商賣致間鋪旨、安永五年申年相觸置○圖二九四九を見よ、の處、其後他に富札商賣致趣に相聞、不埒に付、右躰商賣致間敷の、万一紛敷富札商賣いゝ者有之のを召捕、吟味に上急度可仕付、間、此段町に末迄も不洩様可仕渡旨、(安永)明和九子年○圖七七二を見よ、天明二寅

御觸及口達 天明七丁未年

一一〇七

御免富以外
の富札賣買
を禁ず

見廻と稱し
公事人溜及
下宿に大勢
集合するを
禁ず

公事人溜に
酒肴を取寄
す可からず

蒲團蚊帳貸
段付人の好手

に^(物)へ禮物を偽、金銀かたり取^(族)有之趣相聞、不屈^(事)事^(い)、組与力并家來共へも兼^(嚴)敷^(守)付、決^(る)右躰^(儀)無^(之)事^(い)得^(共)、尙^(又)又^(中)渡、公^(吏)出入等取持、事^(無)之^(事)、間、其^(旨)を相辨、前書觸渡、通可^(相)心得^(い)、已來^(右)躰^(筋)不^(筋)儀^(渡)世^(致)者^(遂)穿^(鑿)、於^(相)顯^(と)可^(爲)曲^(吏)事、附^(り)、公^(事)出入^(外)、奉^(行)所^(に)罷^(出)、者^(と)も、親^(類)或^(の)懇^(意)、者^(と)由^(こ)、右^(出)入^(掛)り合^(も)無^(之)紛^(敷)者^(共)、見^(廻)と名^(付)、御^(役)所^(門)前^(公)吏^(人)溜^(り)并^(下)宿^(へ)大^(勢)罷^(越)、不^(埒)儀^(こ)、已^(來)公^(事)出^(入)掛^(り)合^(者)外、見^(廻)イ^(と)名^(付)、罷^(越)儀^(一)切^(致)間^(敷)、若^(紛)敷^(者)罷^(越)こ^(お)る^(て)の^(相)糺、急^(度)可^(令)沙^(汰)、且^(又)右^(公)吏^(出)入^(こ)罷^(越)者^(共)、公^(吏)人^(溜)り等^(へ)、吸^(の)酒^(肴)あ^(ど)を取^(よ)せ^(い)の^(有)之^(よ)、不^(埒)之^(事)、以^(來)弁^(當)外、公^(吏)人^(溜)り等^(へ)、酒^(肴)杯^(取)寄^(の)儀^(堅)致^(間)敷^(い)、尤^(下)宿^(こ)も酒^(宴)ケ^(間)敷^(致)ま^(く)、若^(酒)狂^(躰)、番^(所)へ^(罷)出^(者)等^(在)之^(い)、急^(度)可^(令)沙^(汰)、

但^(シ)、遠^(國)并^(在)方^(罷)出^(者)、其^(旅)宿^(者)右^(と)趣^(可)守^(含)、
右^(と)通^(三)郷^(町)中^(末)迄^(不)洩^(様)可^(觸)知^(者)也^(四)九^(一)六^(及)一^(四)二^(を見よ)、

未八月

土佐

豊前

(同上)

觸三六

同日

蒲團蚊屋

其外着類を身貧^(帳)者^(に)貸付^(い)もの、紛^(敷)貸^(付)方^(致)、八^(重)德^(用)

を取、滯^(の)節^(巧)成^(仕)方^(を)以^(願)出^(い)者^(有)之^(者)、各^(可)守^(付)事、

右^(と)通^(安)永^(七)戌^(年)相^(觸)觸^(三)〇〇^(い)處、近^(頃)又^(不)埒^(と)貸^(附)方^(致)、由^(相)聞、彌^(右)觸^(書)趣^(急)

度^(相)守、向^(後)不^(埒)貸^(方)致、儀^(の)勿^(論)、相^(手)方^(返)答^(し)立^(立)寄、不^(束)筋^(相)聞^(い)、双^(方)と^(も)遂^(吟)味、各^(可)守^(付)、此^(段)尙^(又)三^(郷)町^(中)并^(新)地^(端)迄、不^(洩)様^(可)觸^(知)者^(也)〇^(觸)一^(〇)八^(三)を見よ、

未八月

土佐

豊前

(同上)

觸三六

九月朔日

願^(訴)訟^(節)、極^(老)幼^(少)もの介^(添)、并^(病)氣^(もの)代^(人)差^(出)い^(事)、

右^(と)趣^(四)ケ^(年)已^(前)辰^(年)相^(觸)置^(四)〇^(三)二^(い)處、近^(比)又^(猥)相^(成)趣^(相)聞^(間)、右^(觸)渡^(趣)彌^(相)守^(可)守^(い)、無^(據)立^(い)の^(猶)相^(糺)間、其^(段)令^(承)知^(嚴)重^(可)罷^(出)、重^(病)も無^(之)處、代^(人)差^(出)い^(こ)あ^(る)て^(い)、先^(達)あ^(り)渡^(置)通、本^(人)の^(勿)論、代^(人)出^(い)者^(并)願^(書)與^(印)致^(い)家^(主)年^(寄)迄^(も)、急^(度)各^(可)守^(付)、

未八月

土佐

豊前

(御觸帳)

觸九八

同日

願^(訴)訟^(付)、翌^(日)相^(手)方^(い)もの呼^(出)シ^(差)紙^(事)、

願^(訴)訟^(こ)付^(翌)日^(相)手^(呼)出^(い)類、向^(後)呼^(出)シ^(差)紙^(を)願^(人)に^(渡)遣^(し)、相^(手)町^(い)を^(さ)せ^(可)遣^(い)間、承^(知)段^(別)紙^(受)書^(相)認^(め)、差^(紙)共^(持)參^(い)を^(此)へ^(可)相^(渡)い、此^(段)心^(得)違^(無)之^(さ)め^(中)渡^(い)、

未八月

(同上)

觸三九〇

九月二日

浚^(明)院^(様)一^(回)御^(忌)御^(法)事^(事)、^(體)裁^(圖)一^(二)三^(三)に^(同)じ、但^(町)中^(穩)便^(は)三^(日)間^(なり)、

御觸及口達 天明七丁未年

一一一一

公事訴訟に
猥に代人を
立つ可から
ず

願人をして
呼出差紙を
相手方に持
参せしむ

全虚談に致方、相手方不埒に取斗こゑ、負せ方と者、右虚談に儀の弁ながら、重右證文を以願出ゆい、糺に相成、儀を見込、却あ一札取置、儀と相聞へ、双方とも不埒に至りこい、奉行所へ濟口差出、儀の、金銀取渡もい、誠り相濟、所を以可申立儀こい處、無異儀歸宅證文杯と唱、不埒に證文取替をい段、(至)到る不束に仕方こ付、自今右躰證文を以濟方并吟味に儀願出ゆとも、不及沙汰、品より吟味に上、双方とも咎メをも可申付ゆ、

未九月

土佐

豊前

(同上)

圖九二 同日

奉行所へ呼出者、刻限遅刻致間敷事、

(御觸帳)〔口達覺〕

一奉行所へ呼出シゆ者、刻限申遣シ、通、無相違罷出、遅刻致間敷義こ付、先年相觸置(圖六一)八を見よ、處、近年又及遅刻ゆ者間、在之ゆ條、彌刻限無遅滞可罷出ゆ、且又平日諸願も罷出、者、内、差掛(差掛)に儀格別(儀格別)に、金銀出入に類、日切に限日(出)に至り罷在、者、前廣か相知有之ゆ處、遅ク罷出、其外不掛差諸願こあ、依勝手ニ夕方(よひ)にお断罷出、者有之ゆ、向後差懸り(御觸帳)に願せとへ夜中こあも罷出、不差懸願之筋者夕方(よひ)に不成様願出、切日との等を向後其日朝に内可断出、事(圖九八)六を見よ、

未九月

(同上)

奉行所より
召喚せられ
たる者出頭
刻限を愆る
可からず

諸願につき
出頭の刻限

圖九三 同日

御白砂并諸御役所こあ、御調等有之節、呼出もの不相待ゆ様御聞糺可被

成事圖

圖三九四

九月十五日 町に帶刀致し、鉄刀御用印と提灯致所持、かゝり事亦出入事等

に取扱致ゆもの有之と可訴出ゆ、并に葵御紋附に諸道具・染物・提灯等誂ゆもの有之ゆ、奉行所へ相届、差圖可受事、

近來町に帶刀致し、或は鉄刀并御用印と提灯致所持、かゝり事亦出入事(等)に取扱致しゆ者有之趣相聞、不届ゆ、以來無謂帶刀い、或は鉄刀亦御用印と提灯所持致ゆは此有之、其所寄年(脱)月行司五人組共相調へ、於紛敷を早く可訴出ゆ、若等閑に致置、右躰無謂帶刀致し、亦鉄刀御用印と提灯等所持致ゆもの於有之と、其町に年寄月行司五人組迄急度咎可申付ゆ、

刀を帯び或
は鐵刀御用
印の提灯を
携へて町人
者を脅迫する

葵紋ある道
具染物提灯
等の注文

一葵御紋付に諸道具染物、且又右御紋付に提灯并御用印と提灯等、誂ゆもの有之、い、奉行所に相届、差圖に上拵可申ゆ、若不斷出右に品拵ゆこあゆ、其品に寄咎可申付ゆ、但、御紋付に品の、御三家方御三卿方役人、於役所申付ゆ分を届出ゆふ不及ゆ(圖五七)をい、右に趣三郷町中可觸知者也、

未九月

土佐

豊前

(御觸帳)

圖三五 同日

町方に張札或は捨文に事、

御觸及口達 天明七丁未年

一一一五

張札捨文の
燒棄
紙札捨文を
爲せる者は
捕縛す可し

町に張札或は捨文いさひ儀毎度有之、其所を訴出ひ、右を畢竟惡者に意趣等有之者、難儀ヲ掛可やた然、事ヲ偽ひ品にひ間、自今を張札并捨文有之共不及訴出、其所に年寄月行司立會、燒捨可やひ、然レ共張札捨文等いさひをもつ見届、いさひ召捕、早に可訴出ひ、且又右張札いさひ付、名さ、れひ者宿替等一切爲致間鋪ひ、若風聞等にて宿替致させ可や旨やひ者有之、いさひ、當人直に可や出ひ、

但、捨文を無名或是不尋に書面にて、惡もの仕業を相見に、いさひ燒捨可やひ、若先に屈可や書面等、全落し趣に相見得、いさひ可訴出、

右に趣三郷町中可觸知者也○圖三六六
二を見よ

未九月

土佐
豊前

(同上)

九三 九月十八日 佐野豊前守殿參府之事、

一佐野豊前守様御參府被成、に付、御暇乞御禮、明廿日晝九ツ半時被成御請、間、出付、面々へ無間違や達、右刻限前、西御番所へ可被出、尤罷出、者有之、差上物に品員數名前書付、有無共明廿日六ツ半時、年寄印形よく無遲參町代持參可有之、已上、

未九月十九日

天満組惣年寄

(御觸書之留)

三六 九月十九日 井伊掃部頭殿願に通御役御免之事、

井伊掃部頭殿事、内願に趣有之、に付、當月十一日御役御免に旨、從江戸被仰下、條、此旨三郷町中可觸知者也、

未九月

土佐
豊前

(同上)

三六 九月廿四日 小賣酒屋新株并冥加金等之事、當分不被及御沙汰に事、

通達觸

一御當地小賣酒屋渡世仕、者共、去年四月中已來(追)被召出、新株冥加金等に儀御尋に付、銘、御答書○此答書
所見無し、差上置、未御糺中に御座、處、今日私とも被召呼、其頃と違ひ、右同年諸國不作こゝろ米穀高直に付、酒造米高半石造り被仰出、尙又此度三步一造りに儀被仰出に儀に御座、へ、旁此節株冥加出、儀不被及御吟味に間、一同其旨相心得、諸事右御糺已前に姿に相心得、賣買正路に可仕旨被仰渡、此段小賣酒屋とも不洩様申聞、承知に段受書當人并に役印可差出事、

右請書當月中に郷々惣會所へ可差出○圖一〇
六を見よ

○御觸書之留には、次の令と
共に、一令の如く連記せり、

(同上)

三六 同日 屋根葺井戸堀鍛冶職塗師石切桶師樽師疊刺、以上山村與助支配延

引之事、

一屋根葺 一井戸堀 一鍛冶職 一ぬい 一石切 一桶師 一樽師 一疊刺

御觸及口達 天明七丁未年

一一一七

小賣酒屋株
及冥加金に
關する取調

右株冥加金
共當分中止

屋根外七職の山村與助支配を延期す

右を先達山村与助支配に儀願出、ニ付、右支配に儀御聞届在之、處、時節柄職人とも困窮仕居、故、右支配に儀の暫延引可仕旨、与助より申出、間、何事も前々通姿に相心得可申、乍併御城内御用役差に儀、不相替申付、間、役差申遣、節の、無遅滞可罷出旨可相心得段被仰渡、

○年寄副書の日付は九月廿四日なり、

(同上)

補遺 三頁 九月 町々年寄心得方事、

變死者喧嘩口論又は手過ある場合

於町々變死に者并喧嘩口論或は手過に外、不依何度、相替の品有之に、御番所に訴出ひ迄、早速月番惣年寄に相斷可申候、

他所他國へ移轉する者ある場合

於町々他所他國に引越者有之に、御番所に御訴申上ひ様相觸有之に處、近比猥りに相聞ひ、向後右躰に者有之節者、早速御番所に御斷申上、即刻月番惣年寄方に相届可申候、町々年寄他所に罷越ひ節を、町内掛り合無有共、日數何日程他國に譯書附、月番惣年寄方に可有持參、日限過、に、月行司が又々相斷、尤歸宅次第早速月番方に可來度、

年寄旅行の場合

於町々諸醫師新規に出來、に、勿論宅替名替其外相替品有之度毎に申合、寺社御役所惣會所同日、年寄斷盡持參張替可致事、

醫師の開業轉宅改名等ある場合

女名前前之町々、是迄代判人相替り節を、早速月番方に相斷可來事、

代判人變改の場合

町觸申渡の當日年寄不參したる場合

町觸申渡の節、年寄當病にあり又は他行等あり、當日斷有之、月行司請印致ひ得を、當日年寄不參に分り、翌日見届、間、已來翌朝四ツ時限りニ印判持參可有之に、但シ、重病他國等を尙又

其譯相斷可申事 ○補遺二四

二を見よ、

右に通町々年寄無違矢可相心得者也、

未九月

(同上)

圖三七 十月四日 鉄座眞鍮座御差止、と度、

鐵座眞鍮座の廢止

去ル子年銀座加役として鉄座眞鍮座申付、鉄座役所於大坂相建、眞鍮座を江戸京大坂銀座役所にて取斗、諸國方出ひ鉄・銅・銑と分、山元方大坂問屋へ積廻し、鉄座へ相渡、鉄荷物大坂問屋に外直賣致間敷、并眞鍮に儀の、江戸京大坂と外、新規に吹方「致間敷」、是迄眞鍮吹方「致」、者の、眞鍮座差配を可受旨相觸置 ○圖三〇八、處、差障に筋在之、鉄座眞鍮座差止め、間、子年以前に通商賣可致、

右に趣可被相觸ひ、

九月

右に通從江戸被仰下、間、三郷町中可觸知者也、

未十月

土佐

豊前

(同上)

圖三六

十月七日 迷ひ子并人主不知變死に者、又者證文米切手捨物に訴有之節、以來

高麗より從奉行所建札差出、間、吟味願度者可訴出、事、

從前迷ひ子并人主不知變死に者、又者證文米切手類、其外捨物と品より、拾ひ、訴

御觸及口達 天明七丁未年

一一一九

高麗橋に建
札して迷子
變死者行倒
人遺失物等
を告知せし
む

有之節、心こゝろより在之者ものを、奉行所の可し出旨、高麗橋日本橋へ張紙いいひ様、訴出、町役人共の付け得共、文言等不行届趣に相聞得、間、已來を迷ひ子を倒死病人水死、其外變死し者在之、人主無之節、且拾物拾類の在之、節を、高麗橋壹ヶ所に、年頃衣類等の品を委細に認、建札を付、條、心こゝろよりの者を右場所に罷越、建札文言見、あ、其親類由緒のののこのあ、迷ひ子を病人或死骸引取度存のの、又を怪敷儀も在之、吟味願度存の者、并拾物落シ主在之節を、月番に奉行所に可し訴出、事、
右に趣三郷町中可し觸知者也、

未十月

土佐

豊前

(御觸帳)

九四 十月十日 御城代家來於町方不法に儀有之を可し訴出事、

口達

一御城代堀田相摸模守殿家來、於町方不法に儀致間敷、尤芝居遊所人集りの場所へ一切參間敷む、精を被け仰付置け得とも、若心得違この罷出、嵩高こおよひ又を酒狂不法に儀有之、或の芝居遊所惣の人集りの場所におゐる、狼籍に儀在之儀等有之の留置、早に可し訴出、御城代御名も出、事をいとひ、差略いとひあま、却ら不法に者出來いとひの儀成行可し間、明白に無用捨可し出、尙又是迄の御城代家來に由偽り、間に不法に事共有之様も被及御聞、前書に通被仰渡、間、不埒に筋在之の、早速留置可し訴出、

城代家來不
法の舉動あ
らば出訴す
可し

右に趣一統可し相達事三〇圖三三四及

未十月

(御觸書之留)

九五 同日 御城代家來於町方買掛りの儀、并出入用達町人寺社醫師等、用向とす

立、金銀借用頼け間敷儀を掛けの、目付役迄可し出事、

一御城代堀田相摸模守殿家來、町方に買掛り等決ら不致様、兼お被仰付置け間、町年寄共其む可致承知、尤買掛り等有之の家來在之の、〔其賣主の町年寄に届け不及〕、直に御城代家來目附役小幡内藏福与彌次右衛門迄、買掛り借銀に趣書付可し差出の事、

一御城代の出入に用達町人共、或の寺社醫師等、御城代に用向とす、外に對シ、頼け間敷自由をす、亦を金銀借用に世話等いとひの杯在之、共、又手傳手この不慥様心付の、一切取合不し、若押め彼是の儀も有之の、早に是又右内藏彌次右衛門へ可し出、
右に趣相達可し置旨、相摸模守殿被仰聞の間、一統心得違に筋無之様可し達事三〇圖三三四及

未十月〔十一日〕

(同上)

九六 十月十一日 公事人溜りに、下宿より割子と外煮物吸物類持運致間敷事、

口達覺

公事人溜りに扣居の、下宿を割子等取寄、砌、煮物吸物杯を致持參の趣相聞へ、近比及沙汰、處、無間も猥ら成仕方如何〔脱カ〕付、向後割子と外持運ひ致間敷旨、下宿へを渡、間、此段町に可し達事三〇圖三三八

公事人溜り
割子以外
飲食物を持
ず參す可し

城代出入の
町人寺社の
師等金銭借
用を依頼せ
しば出訴す
可し

城代の家臣
町家に買掛
ある者は届
出づ可し

御觸及口達 天明七丁未年

未十月十二日

〔圖三九〕 十月十四日 佐野豊前守御役御免、寄合被仰付の事、

一 佐野豊前守事、去ル六日御役御免、寄合被仰付、旨、從江戸被仰下の條、此旨三郷町中可觸知者也。○〔圖三一〇〕 七を見よ、

未十月十四日

土佐

(御觸書之留)

〔圖三四〇〕 十月十六日 酒造屋三分一造立の酒米買入の儀、飯米杯を唱、内密こゝ米買入の

もの有之に付、怪敷儀も有之者可訴出事、

酒造米賣買の届出

飯米と稱し酒造米を買入るゝを禁ず

當年三分一造立、酒造米の儀、米中買の勿論其外問屋米屋を買入の砌、賣主の名前米高等を認、酒造人共を訴出、右米賣渡の者も、右(米高并)買入人名前認、是又(可)斷出段相觸置(八を見よ、の處、當年の儀只今迄に通酒造難成、付、内密こゝ酒造の儀を此有之哉、飯米杯を唱、米買入、此も多く有之趣相聞、則此節紛敷致方有之者入牢付、令吟味の間、此上にも疑敷聞の者相糺可申の間、酒造いゝの者を訴出、正流うと取斗致、米賣の者も入念賣渡、怪敷儀の可訴出、勿論丁役人共儀も得共相糺、不埒筋も有之の、是亦早と可訴出、若等閑糺方有之よあるを、急度可及沙汰、

未十月

土佐

豊前

(同上)

町奉行松平貴強

〔圖三〇一〕 十月廿日 松平次郎兵衛大坂町奉行被仰付の事、

松平次郎兵衛(貴強)事、大坂町奉行被仰付の旨、從江戸被仰下、條、此旨三郷町中可觸知者也。○(三七八)を見よ、

未十月廿一日

(同上)

〔圖三〇二〕 十月廿三日 公義橋掛替修復引受人塚口屋七兵衛に御免に三郷通用旅籠株借受のもの、株賃差滞らせ間敷事、

常盤町

塚口屋七兵衛

旅籠屋株賃の支拂を延滞する勿れ

右七兵衛儀、公義橋拾壹橋掛替修(復)覆共引受の付、三郷通用旅籠株差免、段、先年方追々相觸置(六を見よ)、處、當時株賃相滞の者も有之由に付、此節橋掛直シ有之に付、株賃滞有之分の、早々七兵衛方へ可相渡の、且又此節彼是浮説を申、株借り受るにもの見合罷在、右故株賃迄も自然と不寄に有之由相聞の、請負日數も在之の處、右躰に延引におよひ儀の不埒(至)到、殊往來諸人難儀に相成の儀に、間、右株望の者の相對に上借り受、株賃滞在之分の、早々七兵衛方へ可相渡の、

未十月

次郎兵

土佐

(同上)

御觸及口達 天明七丁未年

一一三三

光雲寺祠堂
金貸付支配
人

圖三四三 十月廿六日 京都東山光雲寺祠堂金貸附支配人ノ稟、
京都東山光雲寺祠堂金貸付ノ儀、順慶町貳丁目河内屋清次郎借屋河内屋彌吉幼少ニ付、代判七
兵衛支配致シ、間、望シ者ノ申通シ、相對シテ借受、元利無遲滯可致返濟ハ、
右ニ趣三郷町中可觸知者也。○圖三三〇六及圖
一〇八〇を見よ。

未十月

次郎兵

土佐

(同上)

圖三四四 ○圖三四八
に同じ

圖三四五 十一月五日 酒造屋ノ内、石數三分一ノ外、過造隱造等致間敷事、
當年酒造ノ儀、酒造高ノ内三分二相止、三分一酒造イテ、若隱造致マレバ、其當人ノ勿
論其所シ役人共迄吟味可致旨、從江戸被仰下ノ趣、先達ヲ追テ相觸置○圖三三七五及、
處、内分
メテ紛敷酒造イテ、(爲所)在之ハ付、入(牢)付、及吟味ハ、然ル處猶又當表ニ酒造難相成
ハ付、在領シ者ヘ頼、酒造致シ者、不埒ニ仕方ニ付、是亦此度召捕、頼、(爲所)在之ハ付、
人共入(牢)付、追テ渡ハ觸書シ趣不相守、此上ニも右躰在領ヘ相頼、隱造爲致シ者、并過
造等致シ者、勿論、無株ニ酒造等致シ者、在之ハ、急度令沙汰ハ間、所役人とも精ク吟味上、
紛敷相聞、者ノ早ク可訴出ハ、若見遁聞遁、(爲所)在之ハ、追テ相知、共、吟味上各可付ハ、
右ニ趣三郷町中可觸知者也。

酒密造者ノ
捕縛入牢

未十一月

次郎兵

土佐

(御觸書之留)

圖三四六 十一月七日 酒造儀、株石ニ不抱、(拘)只今迄造來ハ酒造米高ニ三分一造ハ儀御免シ
事○圖三三七五・三四七三・三
四七四・及三五三九を見よ。

圖三四七 同日 酒造屋共心得違、過分ニ米高買入ヤ間敷事、
酒造三分一ノ儀、株石ニ不拘、唯今迄造リ來リハ酒造米高ニ三分一造リハ様可仕旨、此度以別
紙相觸○圖三四〇ハ見よ、ハ付、銘ノ酒造ノ儀、勝手次第自由ニ造立相成ハ様心得違、過分ニ米高買
入、或ハ右ニ事よセ、無謂多分ニ米高買入等イテ、(二所)俄米直段引上、(三所)下、(四所)者及難儀可申
ハ間、酒造人并米商内ニ携ハ者とも者、彌心得違無之様可致ハ、若不埒ニ仕方相聞ハ、急
度可令沙汰ハ、且又是迄、(五所)休株シ者、彌酒造致間敷ハ、其外ニ酒造人共此上酒造イテハ、(六所)分ハ、
是迄ニ造リ高を書出シ、奉行所ニもゝ三分一造リ立シ譯承リ届、相濟ハ上、酒造可致ハ、
右ニ趣三郷町中可觸知者也。

未十一月

次郎兵

土佐

(御觸書之留)

圖三四八 十一月九日 町ニ諸入用賄丁代任ニ爲致間敷、檢使火事場改役人并手先ニもの
ニ謝禮、其外酒食駕籠等差出間敷儀、且又町ニ_ニ家屋敷帳切寄合等ノ節、酒宴
振舞ケ間敷儀致間敷事、
町ニ入用賄ヒノ儀、町代ヘ任せ置、丁代共ハ過分ニ書出、右ニ内ニハ町ニ手負變死等有之、檢

御觸及口達 天明七丁未年

一二二五

過分の酒造
米を買入れ
米價を騰貴
せしむるを
禁ず

酒造高の届
出

町入用の書
出中役人謝
禮の項あら
ば出訴す可

檢使に金錢
酒肴を供す
るを禁ず

駕籠賃は檢
使の自辨

火事場改役
人の手先金
錢を無心し
或は町代之
用を托して
出訴す可し

使見改請ひ町内々、右檢使見改役人へ謝禮、或は出火跡改役人へ謝禮、由、過分銀高等書顯、旨相聞、不屈至こひ、組中へも兼あ格別ニ附置ひ、得ひ、ふと如何様心得違^(ハ)迎も、金銀等於役先受用致ひ儀、決あ無之事こひ條、町々者共右趣令承知、是迄儀不及貪着、向後儀を右躰不束入用銀等、丁代共書出、其町々年寄月行司とも急度相糺、早奉行所へ可出ひ、吟味上急度答可付ひ、

一町々手負變死等者之、檢使ニ罷越ひ節、支度時刻ニ相成、得ひ、其町々會所へ罷越、弁當遣ひ、筈こ、間、右檢使請、者宅并ニ會所よあゐくも、支度の勿論酒肴菓子等、其外何よよらに、聊品多りとも一切出シヤ間敷ひ、万一心得違、金銀の不及、前書品等差出ひ者在之、後日ニ相知レ、共、急度答可付ひ、條、堅相守可事、

附、檢使罷越、節、雨天こ、とも駕籠等差出、儀、堅致間敷ひ、若檢使者痛所在之、駕籠等付、節、代銀現銀ニ相渡筈こ、間、心得違、無錢こお駕籠差出、者於有之者、是又本文同様可付ひ、

一町々出火有之、火鎮りひ後、燒跡見分として、火事場役人罷越、節、右役人家來手先ニ召仕ひ惣代若キ者小遣^(使)者迄、兼あ如何儀無之様渡置、得共、尙又此度嚴敷付、万一心得違、右下々者共貪りケ間敷義等掛ケ、ひ、其所より早速可出ひ、若又丁代共利欲^(慾)拘り、前書手先者共相たむり、聊銀錢等相送り、其儀立こい、過分金銀等町内へ書出、儀等於有之、後日ニ相知レひとも、請用い、者勿論、右丁代所役人共迄も曲可

中付、

一惣組与力同心諸見分として出役并町廻り等節、休足とめ會所へ立寄ひ儀有之、とも支度の勿論、酒肴菓子等聊品多りとも、一切出シヤ間敷ひ、尤用意等も堅致間敷、事、

帳切名前替
等の寄會に
酒食を用ふ
るを禁ず

町入用の勘
一定を町代に
一任する勿
れ

一町々お家屋鋪相求、帳切名前替其外寄合事之節、又兼お組合罷在、町々、中合儀在之、迎、繁致寄合、用談相濟、おも酒飯等出、令長座、過分物入相掛り、役掛り町人共致迷惑、由相聞、是又町役人不改致方不埒こひ、たとひ可合用向有之、長座こよひ共、割子こおも持參、酒宴振舞ケ間敷義等決あ有之間敷義、質素致、共相弁可事こひ條、右躰入用筋儀も、丁代よりせこ不致、雜費無之様町役人共精こ入、相改可中付ひ、

未十一月

次郎兵

土佐

(同上)

十一月廿三日 御縁女様近衛殿に御養女被仰出、御縁組御結納御儀、且御縁女

様姫君様と可奉稱事、

御縁女様御事、近衛殿御願通、御養女被仰出、兼お被仰合も有之、中付、御縁組儀被仰出、御結納來春、御婚禮儀可爲來、酉年旨、今月十五日被仰出、御縁女様御事、姫君様

御觸及口達 天明七丁未年

々可奉稱段、從江戸被仰下_レ條、恐悅可奉存_レ、
右_レ趣三郷町中可觸知者也_○圖七九一、圖三四五、
八、及三五〇、四を見よ、

未十一月〔廿三日〕

次郎兵
土佐

(同上)

圖三四〇 十一月廿五日 無札_レ木挽雇間敷_レ事、

役木挽の渡
世を妨ぐる
を禁ず

大坂三郷惣材木屋共無札_レ木挽ヲ雇、且又船大工共_レ手前挽又_レ木舞等を挽、賣出_レ者有_レ之、
役木挽渡世_レ障_レり_レ相成_レ旨、中井主水_レ立_レ付、右_レ躰_レ儀堅致間敷旨、寶曆六丙子年〔十二
月〕_○圖二二六、相觸、猶又明和六乙丑年九月_○も觸聞せ置_○圖二六八、處、近頃猥_レり_レ相成、無札_レ
五を見よ、木挽共相働、船大工其外諸職人共手前挽い_レ、役木挽_レ渡世_レ障_レり_レ旨、又_レ主水_レ立_レ付、
右_レ段_レ前_レか_レ渡、明和六丑年_○も相觸置、處、又_レ猥_レり_レ相成、趣相聞_レへ、不埒_レ事_レ此
惣材木屋船大工諸職人共、先達_レあ_レ渡、通、右_レ躰_レ儀堅致間敷_レ、若相背_レ者有_レ之、吟味_レ
上急度可令沙汰_レ間、三郷町中可觸知者也_○圖三七三、
一を見よ、

未十一月〔廿六日〕

次郎兵
土佐

(同上)

圖三四二 同日 圓滿院宮貸附銀支配人_レ事、

圓滿院宮貸
付銀支配人

圓滿院宮貸附銀支配、津村東_レ町俵屋九兵衛借家俵屋久左衛門相勤、間、望_レ者_レ相對い_レ、
借受、元利無遲滯可致返濟_レ、

右_レ趣三郷町中可觸知者也_○圖三七〇及
三四一八を見よ、

未十一月〔廿六日〕

次郎兵
土佐

(同上)

圖三四三 同日 松平次郎兵衛諸_大太夫被仰付、石見守_レ相改_レ事、

松平石見守

松平次郎兵衛事、去_レル十五日諸_大太夫被仰付、石見守_レ相改_レ、此旨三郷町中可觸知者也、

未十一月廿五日

土佐

(同上)

圖九七 十二月四日 酒造屋酒桶封印_レ事

圖三四三 十二月六日 紀伊中將殿_レ種姫君様御入輿被爲濟_レ事、

先月廿七日、紀伊中將殿_レ種姫君様御入輿、万端御作法首尾無殘所相濟_レ旨、自江戸被仰下
條、恐悅可奉存_レ、
右_レ趣三郷町中可觸知者也_○圖三一八、
三を見よ、

未十二月六日

(幕令)

圖三四四 十二月七日 朝鮮種人參、無極印紛敷人參賣捌い_レと問敷_レ事

圖三四五 同日 朝鮮種人參代銀_レ事

補遺 三四九 十二月十一日 松平石見守様當表御到着_レ事、

松平石見守様御儀、今十一日當表御到着被成、間、此段承知可有_レ之、已上、

十二月十一日

(御觸書之留)

御觸及口達 天明七丁未年

圓滿院宮貸
付銀支配人

觸三四一六三四七 ○觸九及一
觸三四一八 十二月十七日 圓滿院宮貸附銀支配人ノ事、

圓滿院宮貸附銀支配、南堀江四丁目白石屋嘉兵衛借屋河内屋嘉兵衛相勤の間、望ミ者ト相對致
借請、元利無遲滯可致返濟ハ、
右ノ趣三郷町中可觸知者也 ○觸三四一及一
三五〇二を見よ、

未十二月

石見

土佐

(御觸帳)

搦米屋駄賣
屋株の廢止

觸三四一九 同日 御拂米御用達松安庄^(右)左衛門^(左)御免^(右)春米屋駄賣屋株御差止ノ事、
御拂米御用達松安庄右衛門儀、大坂三郷并近在春米屋駄賣屋株差免^(ハ)、冥加銀上納^(ハ)、
株札差配料トシテ、壹ケ月壹株カ米壹升五合ツ、取集度旨、十三年已前未年相願、願^(ハ)通^(ハ)付
置、處、小賣米直段ニ相響、身輕キ者共致難儀^(ハ)趣相聞^(ハ)、付、右株此度江戸表より御下知
を以、差止メ^(ハ)段^(ハ)渡^(ハ)、右^(ハ)通^(ハ)差^(ハ)配^(ハ)料^(ハ)不^(ハ)差^(ハ)出^(ハ)上^(ハ)、春米屋駄賣屋共儀、已來可成丈小賣米直
段引下ケ、正路ニ賣可^(ハ)、若不相應^(ハ)直段ニ賣出^(ハ)、者有^(ハ)、ハ、急度答メ可^(ハ)付^(ハ)、段、是
又^(ハ)渡^(ハ)、間、其旨可相心得^(ハ)、
右^(ハ)通^(ハ)三郷町中可觸知者也 ○觸二九二
〇を見よ、

未十二月

石見

土佐

(御觸書之留)

長堀道頓堀
安治川組薪
問屋仲間

觸三四二〇 十二月廿日 長堀道頓堀安治川組薪問屋仲買、并薪地賣上積問屋仲間御差止ノ
事、

長堀道頓堀安治川組薪問屋共儀、諸國^(ハ)積^(ハ)登^(ハ)、薪引請、問屋仕來^(ハ)得^(ハ)共、仲間と定^(ハ)り^(ハ)儀^(ハ)も
無^(ハ)之^(ハ) ^(御觸帳)「ハ」付、薪問屋仲間差免^(ハ)、ハ、冥加銀上納可致旨相願、願^(ハ)通^(ハ)仲間差免、冥加銀上納
ハ、ハ、事、
一右三ヶ所組薪仲買者^(ハ)共儀、從國^(ハ)積^(ハ)爲^(ハ)登^(ハ)薪、問屋へ引請^(ハ)薪^(ハ)仲買^(ハ)處、内仲間ニハ不行届
ハ間、仲間差免^(ハ)ハ、冥加銀上納可致旨相願、願^(ハ)通^(ハ)仲間差免、冥加銀上納致來^(ハ)、事、
一薪地^(賣)上積問屋共儀、諸國より積登せ、薪引受、地賣上積問屋仕來^(ハ)、處、内ニ組合^(ハ)事^(ハ)付、
仕來^(ハ)通^(ハ)五年以前卯年、願^(ハ)通^(ハ)渡^(ハ)置^(ハ)、處、薪直段ニ相響、身輕キ者共致難儀^(ハ)趣^(ハ)付、此度從
右^(ハ)通^(ハ)五年以前卯年、願^(ハ)通^(ハ)渡^(ハ)置^(ハ)、處、薪直段ニ相響、身輕キ者共致難儀^(ハ)趣^(ハ)付、此度從
江戸表御下知を以、仲間差止メ^(ハ)段^(ハ)渡^(ハ)、已來冥加銀上納不致上^(ハ)、可成丈薪直段引下ケ、
正路ニ賣可^(ハ)、若不相應^(ハ)直段ニ賣出^(ハ)、者在^(ハ)、ハ、急度答メ可^(ハ)付^(ハ)、段、是又^(ハ)渡^(ハ)、間、
其旨可相心得、

同薪仲買仲
間

薪地賣上積
問屋仲間

其廢止

右ノ趣三郷町中可觸知者也 ○觸三四一三
五を見よ、

未十二月

石見

土佐

(同上)

觸三四二一 同日 三郷町ノ家^(別)小便、攝河兩國ノ内百八拾ケ村余一手直請^(ハ)儀、并作用買

御觸及口達 天明七丁未年

次仲買株、右兩様御差止事、

攝河百八拾餘村及二百三人の小便直請を廢止す

一三郷町之家別小便の、從前攝河兩國之内百貳拾七ヶ村百性共、相對を以野菜と類を價ニ差遣、汲取來、所、近年町人とも、内方銀錢等を以致直請、百性共汲取來、場所をも糶取ハニ付、無據百性共銀錢又ハ野菜と類ニも、格別ニ増方不致ハハ難請入様相成、難儀ニ由ニハ、右村ニ一手引請ニ儀願出ハニ付、吟味ニ上、町家住人ニ内貳百三人者、田畑所持又ハ下作等ハハ(居座)ハハニ付、右人數ハ願村ニ同様直請差免、其余町人共、内ニ小便直請ハハハ者ハ無之、間、向後百貳拾七ヶ村百性共、并貳百三人ニ者共ニ限り、是迄相對ニ振合を以汲取セ可ハ旨、五年已前卯年正月三見ヨ、ヲ渡、其後追々加入村有之、當時百八拾ヶ村餘在之、處、一手直段有之ハハ、差支ハ筋も在之ニ付、此度差止メハ、且又作様買次株ニ唱ハ、市中并町續在方ハ内ニ、前書村ハ百性共作用殘ニ小便買受、外村ニハ賣渡ハ儀差免、冥加銀納來リハ者共之、得共、是又差支ハ義有之趣ニ付差止メハ、右兩様從江戸表依御下知、村ニ并貳百三人作用買次仲買株ニ者共ハヲ渡、間、可得其意ハ、一手直受并作用仲買株差止メハ迎、向後賣買直段又ハ價ニ儀不糶上、正路ニ可致相對ハ、右ニ趣三郷町中可觸知者也、

未十二月

石見

土佐

(同上)

十二月廿二日 炭問屋株并鍛冶炭仲買株御差止事、

炭問屋株

一炭問屋元拾三軒當時六拾壹軒、同斷廿四軒ニ者共ハ内、右拾三軒ニ者共、炭問屋仕來、間、株差免ハハ、冥加銀可相納旨ヲ立、其節廿四軒ニ者共ハ別株ニヲ立、拾三軒ニ方ヲ追々望ニ者加入爲致ハ積リを以、株差免ハハ、冥加銀上納可致旨相願、願ニ通株差免、冥加銀上納ハハ來、事、

鍛冶炭問屋仲買株

一鍛冶炭商賣人共ハ儀、右炭一通リハ仲買仕來、得共、内分ハ儀ニ取ハニ付、仲買株差免ハハ、冥加銀上納可致旨相願、願ニ通株差免、冥加銀上納ハハ來、事、

其廢止

右ニ通拾五年已前已年、願ニ通ヲ渡置、處、炭直段ニ相響、身輕キ者共難儀ハ趣ニ付、〔此度〕從江戸表御下知ヲ以、差止ハ段ヲ渡、已來冥加銀上納不致上ハ、可成丈炭直段引下ケ、正路ニ賣可ハ、若不相應ハ直段ニ賣出ハ者有之ハハ、急度答メ可ハ付段、是又ハ渡、處、其旨可相心得、

右ニ趣三郷町中可觸知者也、

未十二月

石見

土佐

(同上)

同日 北久寶寺町壹丁目繰綿延賣買會所、并攝劔住吉郡平野郷右會所出店、且又内本町橋詰町右增會所、以來御差止事、

一北久寶寺町壹丁目荒物屋嘉兵衛借家松屋利右衛門道仁町中島屋彌兵衛、右兩人ハ繰綿延賣買差免、於當表會所相建、冥加銀上納仕來リ、處、猶又攝州住吉郡平野郷ニハ出店差免ハハ、

繰綿延賣買會所と平野郷の會所出店

御觸及口達 天明七丁未年

一一三三

練綿延賣買
增會所

其廢止

是亦冥加銀上納可致旨相願、願、通差免、冥加銀上納致來り、事○圖二七三、
一内本町橋詰町炭屋〔御備所〕借家長澤屋藤右衛門儀、前書會所迄こゝの難行届趣ヲ以、於當表增
會所壹ヶ所差免、ハ、冥加銀上納可致旨相願、願、通差免、冥加銀上納致來り、事、
右貳口とも願、通中渡置、處、差支儀在之ハ付、此度從江戸表御下知ヲ以、差止ハ段中渡
、間、其旨可得相心、
右、趣三郷町中可觸知者也、

未十二月

石見
土佐

(同上)

十二月廿四日

戸田因幡守殿御役御免、松平和泉守殿所司代被仰付、事、

一去ル十六日〔戸田〕因幡守御役御免、鷹之間席被仰付、松平和泉守○乘殿御懇以上意、諸司代
被仰付、旨、從江戸被仰下、條、此旨三郷町中可觸知者也、

未十二月

石見
土佐

(同上)

同日

兩替屋錢屋とも金座に役銀差出儀、御差止事、

一文字金儀吹替已後、四拾年余吹方無之、追年取金輕目金多ク相成、由、世上差支こもおよひ
ハ、難捨置こ付、已來兩替屋共々金座へ差出次第、無代こも直一相渡、兩替屋錢屋共々金
座へ役銀爲差出ハ付、是迄兩替と歩合請取居、上、増歩請取、儀差免、右兩替屋錢屋共銘

疵金輕目金
の無代修繕

役銀と増歩

其廢止

と商高内々、金座へ役銀差遣シ、〔早〕増歩取遣り始、様、右兩替や錢屋共へ中渡置、間、兩
替致、節の増歩差出可コ旨、五年已前卯年十二月相觸置○圖三二一〇及、處、當表兩替屋錢屋共
儀、右増歩請取、儀、役金相納、義とも、當年限こも御差止メこ相成、取金輕目金直一方儀
も、前こも通相心得、様、兩替屋錢屋共へ中渡、間、右、趣一同可令承知ハ、且又兩替屋錢屋共
、外こあり、金銀錢兩替等ハ致間敷ハ、此義ハ彌先達も相觸置、通、無相違相心得可コハ、
右、通三郷町中急度可相觸知者也、

未十二月

石見
土佐

(同上)

十二月廿五日

酒造屋共ハ新規ニ酒船桶賣買致ハ、可斷出儀、并他所こ酒買入

節、是又双方カ可訴出事、

一酒船酒桶類商ハ、者とも、酒造屋へ新規ニ賣渡、歟、又貯置、分、相對を以貸渡、
ハ、其段奉行所ハ可斷出ハ、尤相求、者并借請ハ者も其段可斷出ハ、
一當表酒造屋共ハ内、他ハ酒屋ハ自由ニ酒買調賣出ハ、ハ、自分酒造ハ、三步一、石數こ
相紛、難相分ハ、間、他ハ買求メハ酒有之、ハ、其分員數相認、賣ハ者買、者とも可斷出ハ、
若内分こ取扱ハ、不訴出ハ、後日こ相聞、とも、急度答メ可コ付ハ、
右、通三郷町中可觸知者也、

未十二月

石見

御觸及口達 天明七丁未年

酒船酒桶賣
買貸借の届
出
酒造屋間に
於ける酒賣
買の届出

老中松平定信巡見の豫告

九八 十二月廿九日 松平越中守○定信殿來春、内御上京、當表御巡見可被成趣ニ付、町

方掃除、大道置土、水道浚、事○體裁圖二四八に同、尙圖九二〇を見よ、

九九 同日 御役者大倉文次郎勸進能興行病氣ニ付、來三月迄日延、事、

大藏文次郎事、當八月中於當表勸進能興行、此節儀の病氣ニ付、追可相願旨立、願相濟、處、當年の日數無之、來申二月中興行旨○圖九〇九及九二六を見よ、

未十二月廿九日

(幕令)

圖四七 十二月晦日 黄檗萬福寺勸化御免事略

天明八戊申年

圖九〇 正月六日 松平越中守殿當地御巡見ニ付、町、大道置土水道掃除等事、

松平越中守殿御儀、當春、内當表御巡見可被成趣相聞、付、掃除作法等儀の追可可渡、へ共、丁中大道不陸成所の此節々置土（二脱カ）とし、隣町中合、軒下水道を浚、大道水吐能様可致、差懸り中渡、あり、臨時に失墜相懸り、其上俄に置土（一脱カ）としひあせ、雨天に節却道惡敷相成、ニ付、先其段先達を相觸置（一脱カ）ハを見よ、右置土と義、至道惡難捨置場所の格別、大概に不陸、分り不苦、間、其儘差置、水道浚儀も連（一脱カ）としひ儀ニ付、入用等も相掛申間敷、へ共、格別取繕ひケ間敷儀を勿論、入用等儀可成丈不相掛様可取斗段、此段心得違無之様申渡、

道路の修繕と水道の掃除

之に要する經費の節約

九二一

申正月七日

(幕令)

圖三四六 正月十一日 朝顔實を以油稼御免ニ處、願人出奔ニ付、株御差止事、

播磨美囊郡三木町錢屋藤九郎義、朝顔實を以油絞立、儀致工夫、付、牽牛子と唱、藥種ニ用ひ

朝顔實油稼株

朝顔實、并植木屋又の慰作りいとしひ實（二脱カ）分り、賣買共不差構、其外實を以油稼と義願出、付、取調上右油稼差免、仕法と趣、委細四年已前已年十二月爲觸知置（一脱カ）ハを見よ、所、藤九郎義去未八月致出奔、行衛不相知の間、令承知、已來儀の前、通可相心得、

願人錢屋藤九郎の出奔

右趣三郷丁中可觸知者也、

申正月十一日

(幕令)

圖九二 正月廿三日 松平越中守殿當表御巡見ニ付、町、大道置土水道浚掃除等入用事○圖二四八七及三

圖三四三 正月廿九日 廣東人參賣買停止被仰付ハ處、此度賣買御免勝手次第ニ可致事○圖二四八七及三

圖三四三 同日

宗旨人別ニ不差出、他もの同家ニ差置間敷事、

都町内宗旨人別不差出、他者同家ニ差置間敷儀ニ、處、家主町役人共改方猥（一脱カ）いとしひ様、毎々右躰儀及糺、咎申付、儀有之、不念事ニ、商筋等ニ付他所者無據致逗留、類ハ格別、其餘無謂人別外（一脱カ）罷在、者無之様、向後無油斷遂吟味、紛敷儀無之様可致、若不念、

宗旨人別に
出でざる者
を同居せし
む可からず

御觸及口達 天明八戊申年

一三三七

筋有之、急度可令沙汰、
右、趣三郷町中可觸知者也、

申正月〔晦日〕

石見
土佐

(御觸書之留)

九三 正月晦日 御城味噌と唱ひ看板と事

觸三四三 なるべし、

觸三四四 二月二日

京都大火ニ付、米穀材木ノ類、其外諸色直段高直ニ致間敷事、
一先月晦日曉より京都大火ニ趣ニ、右ニ付於當表米穀始材木板、其外都々諸色直段猥ニ高直ニ
不相成様、銘々相慎可ヤ、若徳用ヨマヨヒ、非分ニ賣方イニ、者有之趣相聞ハ、急度
答可ヤ付、

右、趣三郷町中不洩様可觸知也。○觸三四四ニ見よ、

申二月〔二日〕

石見
土佐

(御觸書之留)

觸三四五 二月三日 隨心院御門跡富御免と事、

隨心院御門跡富、天満天神於社内、當二月ノ中年三ケ年ノ間、毎月一ケ度宛、別紙仕法書ニ通
興行有之間、其趣相心得、望ニ者札入、儀勝手次第可致、
右、通三郷町中可觸知者也、

隨心院門跡
の富興行
場所期限及
回数

京都大火に
乗じ諸色直
段を騰貴せ
しむるを禁
ず

申二月

富仕法書

札數壹万五千枚、札料一枚ニ付銀壹匁五ノ宛、集銀高貳十貳ノ五百目、

第一番富	銀貳貫目	第二番富	銀五百目
第三番富	銀五百目	第十番富	銀五百目
第二十番富	銀五百目	第三十番富	銀五百目
第四十番富	銀五百目	第五十番富	銀五百目
第六十番富	銀五百目	第七十番富	銀五百目
第八十番富	銀五百目	第九十番富	銀五百目
第九十八番富	銀五百目	第九十九番富	銀五百目
第百番富	銀六ノ目		

右間、八十五口銀五拾目宛

褒美銀、十八貫七百五十目

差引残り三ノ七百五十目助成

右、通ニ事、

(幕金)

九三 二月四日 京都大火ニ付、火ノ元可念入事、

此度京都大火ニ付、當表ノ罷登ノ者、又ハ彼地ノ入込ノ者も多可有之哉、兼ハ銘々可入念儀

火の用心

御觸及口達 天明八戊申年

二二三九

札數及札代
當籤金額

の勿論こへ共、別あ火元等念入、諸事心を付可申旨、丁末者共迄不洩様早速可申達
事、

申二月四日

(同上)

觸言三 二月五日 米穀賣酒隠造り致しもの家居に、大勢徒黨及狼藉し者召捕、
其所より可訴出事

觸言三七 二月六日 火元可念入儀、并盜賊惡黨者町家に入込、節召捕方、其外町番人
事、

火の用心

増番

盜賊逮捕の
手配

火元儀入念の様、毎々相觸、趣も在之間、番人等差出、無油斷相廻り可申儀勿論此處、
此節物騒ケ敷、附ケ火等在之趣相聞、既先月中天満東寺町前町家へ附火いし、その召捕、當
時遂吟味、事この度、出火有之へ、類焼し者及難儀、のさからば、市中一鉢に相響、衰
微し基この間、銘其心得を以、番人無怠差出、嚴敷相廻り、万事心を付相守の時、附火等
の難成、たとへ自火こ、とも早束消留、大火にも及間敷、尤臨時増番等差出、こ付あり、物
入失墜等も可有之儀こ得共、出火并盜賊難儀も難替筋この條、今晚よりも増番差出、棒
こも持、夜中無怠嚴重に相廻り、怪敷をの致往來の、相咎、留メ置の歎、又の不捕逃様手
配いし、月番に不限、嚴寄に奉行所に可訴出、若其節手こ餘り、盜賊を見極め、敲殺
ひあも無構、此段丈夫に存、銘格別に人情可致、此度京都大火に付あり、彼地に入込、
非人或惡黨者等も可有之哉に付、猶又晝夜共心ヲ附、別あ火災等無之様相互に心を附合、亥

刻々往來人町送りにも致可申、奉行所も増町廻りをも差出、繁々相廻シ、怪敷者共召
捕、且番人共閑又と不束儀等見逃さし間、無油斷急度相守、心得違無之様可致、
右趣三郷町中末者共迄、不洩様可觸知者之、
申二月二日 石見
土佐
(御觸書之留)

觸言三六 二月七日 川筋掟十二ヶ條と壹二に同じ、

觸言三五 同日 京都出火に付、板材木賣出儀御差留被成、買入有之分の右員數可
届出、事、

京都大火に付、當地材木屋共板材木賣出儀、御差留メ被成置、右材木屋と外板材木買入
有之者、賣出御差留被成、尤板材木買入有之、右員數書付明後九日五ツ時、方格惣會
所本人「年寄」印判あり、有無共書付可差出、
申二月七日 (御觸書之留)

觸言三三 二月十日 町中隠遊女差置間敷事、

町中隠賣女差置、遊女同前仕方有之段、不埒に付、毎々度々渡置、處、近來又々猥々相
成、於町遊女ケ間敷見過致、者多、并右世話を致渡世の族所こ有之、別あ御城近邊町家
迄も多分有之由相聞へ、不埒に至候、前觸置、通相心へ、向後不相守者、可遂吟味、町
役人共得々相改、右躰紛敷者有之、早速可訴出、若等閑に改方致、本人勿論家主

御觸及口達 天明八戊申年

一三四一

板材木の賣
出禁止
板材木買入
所持の者は
届出づ可し

隠賣女の禁

年寄迄も、急度可令沙汰候、
右通三郷町中可觸知者之〇圖二二九九及
四一〇八を見よ

申二月

石見
土佐

(同上)

板材木賣出
禁止を解く

補遺 二五 同日 板材木賣出儀、御差免事、

材木屋外、板材木所持致、員數御改、賣出、義御差留メ段、當七日相觸ル處、右板材木賣
出、義勝手次第仕、様被仰渡の間、昨日書付差出、銘之に不洩可申聞、已上〇圖二五
〇を見よ

申二月十日

(同上)

補遺 二五

二月十五日

松平越中守様御巡見節、御道筋諸事作法事〇體裁圖七七に同じ、但
き、又第六項「二階之窓障子見苦敷分を張替」とあるを、「二階之窓障子損シ、見苦敷分とも張替ニ不及」
と改め、又第十項を「御道筋軒下并に瀆先ニ有之雪隠、見苦敷分目ニ不立様、葎又者有合、品を以取繕
ひ置可申事」と改む、
尙圖二五五を見よ

補遺 二四〇 二月十八日 茶屋風呂屋とも定、外ニ茶立女髮洗女多く抱置、外方に差出、儀、
并煮賣屋旅籠屋等紛敷奉公人差置間敷事、

定員外の茶
立女髮洗女
煮賣屋旅籠
屋の抱女

茶屋風呂屋共定、外、茶立女髮洗女等多抱置、外方に差出、煮賣屋旅籠屋等も紛敷奉公人差
置、趣相聞に、右躰不埒有之者遂吟味、急度可及沙汰旨、前々々數度觸渡置〇圖三一六、儀ニ付、
八を見よ、儀ニ付、
右商賣人共兼多相慎、其向ニ支配人共儀も平日相改、不埒筋無之様可取扱處、數度觸渡、趣
を如何相心へ候哉、當然さへ慎(座カ)、へ宜宜と心得、程過、へ相弛、趣も相聞、旁不

(二股)

届に至り、依之今般相改、猶又觸渡、條、向後急度相慎可申、若此上も定を背、紛敷人
別等差出、奉公人多抱置、遊女同前仕方有之、其段相聞、直ニ召捕遂吟味、當人勿
論夫ニ支配者共も同様、急度可及沙汰、
右趣容易、更ニ相心へ、後悔可致條、能ニ茶屋風呂屋煮賣屋旅籠屋共、并三郷町中不
洩様可觸知者〇圖三五二二及
四四〇五を見よ

申二月十九日

石見
土佐

(御觸書之留)

諸色京都儀
登を差支勿
らしむ

補遺 二四一 二月廿七日 京都に諸色運送差支無之様可致事、
京都の手狭成所故、此度運送差支あり、諸色高價ニ相成可申、間、問屋共義當壹ケ年を別段
ニ相心得、爲致運送、差支無之様可致、
右趣從江戸被仰下、條、此旨三郷町中不洩様可觸知者也、

申二月

石見
土佐

(同上)

京都大火に
乗じ諸色直
段を騰貴せ
ずしむるを禁

補遺 二四二 同日 京都大火ニ付、米穀材木諸色とも高直(同上)、事、
此度京都大火ニ付、米穀始材木板るい、其外都の諸色直段狼高直ニ不相成様、銘之可相慎旨、
去ル二日觸書差出〇圖三四三
四を見よ、儀ニ付、其旨可相守儀ニ、得とも、自然心得違、者等有之、諸物價
高直、京地ニ者共可致難儀事、既ニ致施行者さへ追、在之趣相聞、上、此段厚

御觸及口達 天明八戊申年

二四三

夕相辨、相互に助合の心得を以、諸色等可成さけ下直に賣出し可事儀に付、銘と彌相慎、諸色少しもかまひ不置、随分下直に賣出、様可致ひ、尤當表に賣買直段の格別引上、趣に無之の如も、京地に住入或の出商ひ等と者、内こも、万一高直に賣渡ひ者有之、町所名前等相糺、彼地町奉行より申越、答に問、銘と別相慎、利分不負様可致ひ、自然此上不埒と者有之と、急度可及沙汰ひ、

申二月

石見 土佐

(同上)

觸三四三 三月朔日 公方様御前髮被爲執事○體裁觸二九 九九に同じ

觸三四四 三月三日 京都大火に付、檜材木に儀、公儀御用と外賣買停止、外材木の早に伐

出、高價に商致間鋪事○觸九五 八を見よ

觸三四五 同日 京都大火に付、五畿内近江丹波丹後播磨國山と雜木船杉類、勝手次第

京都に賣出可事觸

觸三四六 同日 京都大火に付、米穀其外諸色共高直に賣出間敷儀、并京地に施行事、

口達書

此度京都火災に付、米穀其外諸色下直に賣出しの様、追々相觸○觸三四四 二を見よ、處、米直段段に引下

京都罹災者
に對する米
錢施行の奨
勵

諸物價尙平
素より高價
なり
京都罹災者
の困苦に同
情せよ

私利を忘れ
諸色を廉賣
す可し

有之、(奇)密特成事、此上右に心有之者の彌相施可事、然ル上の尙更米穀下直に相成、様
に、濱方と者とも相心掛、米小賣屋共も彌少分と利潤在之の如、随分下直に賣可出ひ、且又
材木其外諸色も追々直段引下ケル趣に、得共、今以平日よりの余程からず高價に有之、由こ相
聞、利徳を以商賣取續、者、町人に常といへとも、京師と面と雨露をも凌兼難儀と事
に、然に材木其外當用と諸色高價にあり、仮圍仮立等も差支可事、殊に材木高直にあり、自ら
普請も延引可相成哉、左にあり借家人等の長く住居も難定、渡世に支、無此上難澁に可有之、
身輕キ者共の類焼の上、右に次第に心得、致方なく無宿非人等も落ふれ、者も出來可事哉、
誠京地と者とも艱難に心行を我身引請、當地と商人共此度施行同前格別に相心得、利欲を離、
可成丈諸色下直に賣出し可事、殊に諸色高價有之、あると、當地とものとも迄も難儀に相成、
事、下にも猶更一己に利潤を而已存、此節京地と輩難儀と程をも不顧、御仁政をも不弁儀
を有之間敷事勿論、へ共、猶更此上正道專一心懸可事、此節京師火災に付あり、材木其
外諸色とも格別捌口も多ク、への、常々下直に賣出し、共、利潤と有之事、間、聊欲心
不抱、(拘)正路に賣出し、の、天道に叶、商賣繁昌致、儀の必然と道理に、此趣能と思慮い
可事、万一此上心得違、一己に利欲に迷ひ、米穀其外諸色格別高價に賣出し、もの、
誠の時節をも不辨、不仁に至不屈、左様輩於有之、急度可遂糺明、條、能、此旨可存、
勿論右に通と上を彌銘と質素に正道を專一心懸、聊以奢ケ間敷儀無之様、急度相慎可事、

申三月〔二日〕

(御觸書之留)

補遺 三五

三月四日

去去年米直段高直ニ付、米錢施行致、者共ニ御褒美被下ひ事、

天明八戌申年三月三日、右末年ニ施行い丁々年寄月行司御召こ、則四日東御番所

へ罷出、所、於御前東西御奉行様御立會こて、御役人様五六人御同心方并三郷惣年寄込罷出、東御奉行様被爲仰渡、左ニ通、

去去年夏中米穀高直こ、困窮し者共へ致施行、儀、甚奇特成義ニ付、今度從江戸表御下知を

以、其方共へ爲御褒美白銀貳枚被下置、間、難有可致頂戴、旨、被爲仰渡、事○補遺二四〇

○右は何町何町といへる名目を以て、米錢を施行したる町中への申渡にして、個人として米錢を施行したる者共も、亦此日同様の褒詞と賞金若干とを賜りぬ、次に掲ぐる口上書は即ち之に對するものなり、

乍恐口上

堂嶋新地中二丁目

播摩屋仁三郎

病氣ニ付

代 治兵衛

去去年夏中米穀高直ニ付、至る困窮人ニ施行仕、趣、恐多込達 御聞、奇特ニ被爲思召、此度私に爲御褒美金百疋被爲下置、冥加至極難有頂戴仕候、乍恐右御禮奉申上度、以書付奉申上ひ、以上、

天明八年申三月五日

代治兵衛

御奉行様

夜咄

座敷談義の禁

右書付兩御奉行所當番所へ差上、所、可上旨被仰渡、也、

(御觸書之留并濱方記録)

補遺 四六 三月七日 座鋪談儀辻談儀并町中清僧逗留日數、且又俗し身分こ五重相傳秘事

法門相弘間敷事、

右ニ通寶曆貳申年七月相觸○圖二一五 い處、近來往來し僧町家に致徘徊、夜咄と号、座鋪談儀

い者も可有之哉、前ニ相觸い通彌相守、自然於令違背い、其町中可爲曲事旨、天明三卯年七月

相觸置○圖三一九、然ル處致忘脚い哉、近來俗家こおる座敷談儀密いいいの在之由、

此度法花宗三十七ヶ寺一老并年行司立い付、猶又相觸い間、前も申渡、通急度相守、自

然此上右申渡い趣相背い者有之、い、本人并宿主と不及す、其町中可爲曲事い、

右ニ通三郷町中可觸知者也 ○圖三七九 ハを見よ、

申三月八日

石見

土佐

(御觸書之留)

補遺 四七 三月八日 阿部伊勢守殿就病氣御役御免し事

補遺 九五 三月十一日 町中往來非人行倒相果い節、死骸片付方し事

補遺 四八 三月十五日 公儀橋請負人手當銀貸附并旅籠株し事、

常磐町三丁目

塚口屋七兵衛

御觸及口達 天明八戌申年

二二四七

河内屋武右衛門を公儀橋修復請負人中に加ふ
公儀橋修復の手續

右銀貸付の引當とせる家屋敷の持主欠落せる場合
貸付證文の宛名

問屋組旅籠屋株

無株にて旅籠屋業を営むを禁ず

札と辻町

池田屋利介

右兩人義公儀橋御修覆受負人^(復)の所、此節取懸り罷在、大御修覆^(復)、出來立不抄取、^(復)付、南鍋屋町河内屋武右衛門を相仕^(復)に致シ、御修覆仕立度旨、右兩人と者願出、^(復)付聞届、相仕^(復)に付、且又右受負人^(復)の貸付、手當銀引當^(復)に取、家屋敷^(復)の儀、向後の右借受人^(復)と居町年寄へ相届、是迄他借引當等^(復)に差入無之哉と譯承糺、右躰^(復)の儀無之の、貸渡、右^(復)と段年寄^(復)を承知^(復)と趣印形書付取置、追^(復)返濟相滞^(復)、節の、右印形^(復)と書付を以願立^(復)の答^(復)に付、引當^(復)と品の右受負人共へ渡遣^(復)、事、

一右引當^(復)に取置、家屋敷、持主自然致欠落、^(復)の、欠所^(復)と不及沙汰、手當銀引當^(復)と方へ受取度旨相願^(復)、付、是又聞届^(復)、事、

一右貸付證文^(復)、是迄^(復)の塚口屋七兵衛并支配人^(復)と宛所迄^(復)の所、向後の支配人^(復)と外^(復)に、銀主名前も書加^(復)へ度旨相願^(復)、付聞届、返濟相滞^(復)、節の、是迄^(復)と支配人斗^(復)の願出^(復)、へ共、支配人差支有之^(復)の共、銀主共直^(復)に願出^(復)、共、可爲勝手^(復)二第^(復)の事、

一右受負人共へ差免置、旅籠屋株^(復)の内、問屋商賣致^(復)、との共へ貸付^(復)、分の、株札表^(復)に問屋組と相認、裏^(復)の橋株と焼印押相渡、右組合^(復)に年行司相立、相渡度旨相願^(復)、付、是又聞届^(復)、事、

一三郷并町續并在^(復)に、無株^(復)に人宿い^(復)の者も有之趣^(復)に相聞、不埒^(復)と事^(復)の、右躰人宿い^(復)とし^(復)の、七兵衛株借受^(復)、様、毎^(復)と相觸置^(復)、所、今以心得違^(復)ともの有之趣^(復)相聞^(復)、間、已來無

株^(復)に右商賣い^(復)とし^(復)の者於有^(復)の、嚴可遂吟味^(復)、間、心得違無^(復)之様可致^(復)、

右^(復)と趣三郷丁中可觸知者^(復)也、^(三)圖三〇八六、三四〇、二、及三四九五を見よ、

申三月

(幕令)

三月十八日 御代替^(二)に付、國^(二)と巡見被差遣^(二)に付、旅宿^(二)人馬道橋掃除等^(二)と、

今度御代替^(二)に付、國^(二)とへ巡見被差遣^(二)、間、當地^(二)にも旅宿等有^(二)之、因是御觸書^(二)と寫相渡^(二)、條、右^(二)と趣篤^(二)と相守可^(二)旨、三郷町中可觸知者^(二)也、

申三月

石見 土佐

(幕令)

旅宿の準備

- 一宿^(二)と疊^(二)と表替無用^(二)の、古^(二)、共^(二)不苦^(二)、事、
- 一湯殿雪隠若無^(二)の、成^(二)と輕^(二)ク可被致^(二)事、
- 一鹽^(二)柄杓^(二)・銅^(二)釜^(二)古^(二)、共^(二)不苦^(二)、若無^(二)之處^(二)の、かろ^(二)く可被致^(二)支配^(二)事、
- 一宿^(二)ある^(二)をた^(二)家^(二)、一村^(二)に三軒無^(二)之處^(二)の、寺^(二)に^(二)も又^(二)と村隔^(二)の^(二)も不苦^(二)事、
- 一其所^(二)に無^(二)之賣物^(二)、脇^(二)より遣^(二)置^(二)、うらせ^(二)と間敷^(二)事、^(三)以上寛文七年閏二月十八日の江戸令に同じ、

覺

- 一今度諸國巡見雖被仰付、國繪圖城繪圖無用^(二)と事、
- 一人馬家數改無^(二)之、事、

御觸及口達 天明八戊申年

諸國巡見使

巡見使の接待に關する領主地頭の心得

一 御朱印の外、人馬御定に通貨錢取之、無滞可出之事、
一 何方を見分仕、共、使者飛脚音物等一切可爲無用、

但、案内に者入の所の其斷可有之事、

一 掃除等可爲無用、但シ、有來道橋往來不自由の所の格別之事、

一 泊りと宿所作事等可爲無用、并ニ茶屋新規に作之の間敷事、

一 國廻りと面泊り、此米大豆以其所に相場可賣之、此外賣を此常の其所に直段に賣可事

事○以上寛文七年閏二月十八日の江戸令に同じ、

以上

申三月

覺

巡見使接待
に關し領主
地頭より村
々に通達す
可き箇條

一 今度國の御料所村に巡見被差遣ひに付、右に面と相通りの道筋掃除、并道橋一切作りの間敷ひ、
馳走と一々送り迎へ者出の儀可爲無用事、

一 右に面と御朱印并證文員數の外、人馬入ひを、所定に駄賃錢有之の其定に通、定無之所を近辺
御定に割合を以、駄賃錢取之、人馬可出、

御朱印并證文の外に、賃か^(姓)此人馬壹人壹疋も不可出、事、

一 巡見通り道筋にあり、百性^(姓)農業の儀、少シも無遠慮いとあみひ様、可被付付、事、

一 私領村に若巡見令旅宿、い、少々此小家掛取結を不及、疊替可爲無用、古クひても不苦

ひ、賄道具等も有合ひを借シ可事、

一 旅宿可成家、一村に三軒無之所の、寺又の村を隔けてなりとも不苦事、

一 泊り晝休の場所こく、入用と飯米塩味噌薪并酒肴油野菜等の、其所に相場次第賣ひ様可
被付付事、

一 其所に無之の商賣物、脇より遣置、うらせの間敷ひ、衣類諸道具の勿論、酒肴こも持寄賣ひ儀、
堅停止する事、

一 右に面と金銀米錢衣類道具等の不及、酒肴菓子等迄、一切請用無之筈に間、内にこも
堅ク音信不仕様、領分知行所に者共へ可被付付、若内にこも音信仕旨於相聞の、可爲曲事
間、其旨急度可被付付事、

一 何方見分仕、とも、私領方より音信等も一切請用無之筈に間、音物の不及、使者飛脚差
出、儀も、堅ク可爲無用事、

一 右に面と家來下迄、在ここあむ、衣類道具等の買不仕様こ中渡、間、得其意、商賣不仕
様可被付付事、

一 野道に馳走として新規茶や等作り儀、堅ク可爲無用事、

右に此度御料所國の巡見被差出ひに付、往來に道筋の私領村をも可通、間、書面と條と先達
の領主地頭より村へ觸、無相違様急度可被付付、已上

事○以上正徳二年八月十
六日の江戸令に同じ、

申三月十九日

(御觸書之留)

御觸及口達 天明八戊申年

一二五一

銀小貸會所の廢止

圖三四五〇 三月廿九日 銀小貸會所已來御差止し度、
天滿北富田町吉野屋次兵衛儀、當表ニ會所を建、三郷并町續近在村ニ元銀壹貫目カ百目ニ内
貸附、利銀并裏印料請取度旨相願、其後兵庫西宮攝河兩國村ニも貸付儀ヲ立(二册)付、度ニ吟
味ニ上願ニ通差免、望シ者ト右會所ヘ罷越借請可ナ旨、先達ヨ追々相觸置五を見よ、ハ處、近來
別ヨ滯願多罷成、甘キニきめヌ不相成、却テ末々者別ヨ在方小前シ者、差支難儀ニ筋も有
之趣相聞ヘハ聞、此度右會所相止ハ聞、其旨可相心得ハ、
右ニ趣三郷町中可觸知者也〇圖九七
二を見よ、

申三月

石見
土佐

(御觸帳)

錢小貸會所の廢止

圖三四五一 同日 錢小貸會所已來御差止し度、
當表錢小貸會所儀、小倉町船城屋彦兵衛ニ差免置〇圖三二五
八を見よ、ハ處、難取續由ニ會所差止度旨
相願之、鑓屋町住吉屋吉兵衛儀、跡引請度段ヲ立ニ付、彦兵衛をも吟味ニ上、未否ニ儀不及沙
汰内、彦兵衛儀ハ致病死ハ、右會所儀、元來小元手ニシテの助力ニ相成、甘キも可成趣を以
差免置ハ儀ニハ處、近來別ヨ滯願多罷成、却テ借り方ニ者共致迷惑ハ趣ニ相聞、彦兵衛も病死
致ハ付、旁右會所儀差止ハ聞、其旨可相心得ハ、
右ニ趣三郷町中可觸知者也〇圖二五二
〇を見よ、

申三月

石見

日用米の節約を獎勵す

圖三四五二 四月七日 水野出羽守殿御役御免ニ事〇體裁圖三四
二四に同じ、
圖三四五三 四月十日 米穀者一命を續候モの故、鹿末ニ不致、朝夕魚飯を用ひ、遣延シ、京
都大火(一)ニも大勢難儀、間、直段引下ケ、諸人助ニ成ハ様可致事、
米穀儀ハ常々一命を續、モの故、魚抹ニ不致儀ハ勿論ニ事ニハ聞、朝夕ニ食事も可成ニハ魚
飯を用ひ、遣イ延シ、様取斗可ナ事ニ、別ヨ當春京都大火ニ付アリ、彼地ニ者杯ハ一入大勢
及難儀ハ砌も在之間、追々米穀直段引下ケ、少々も諸人ニ助ニ相成、様可致ハ、
右ニ趣從江戸表ニ依御沙汰ヲ渡、間、三郷町中末々迄不洩様可觸知者也、

申四月十日

石見
土佐

(御觸書之留)

圖三四五四 同日 松平周防守殿御役御免、帝鑑ニ間席被仰付ハ事、
松平周防守殿事、去三日加判ニ列御免、帝鑑ニ間席被仰付ハ、
右ニ趣從江戸被仰下ハ條、此旨三郷町中可觸知者也、

申四月十日

石見
土佐

(同上)

圖九二六 四月十二日 御役者大倉文次郎勸進能棧敷疊町割半減ニ被仰付、事〇圖九一九及圖
三五〇六を見よ、
圖三四五五 〇例圖四
なるべし、

御觸及口達 天明八戊申年

長崎交代勘定役及普請迎の宿泊送

參考 四月十五日 長崎交代御勘定役并御普請役、御滯留中并御到着御出發の節、御取斗方事、乍憚口上

一長崎御交代御勘定御役人様并御普請御役人様、當表御止宿の義、是迄私共町の會所へ御宿被仰付、順番相勤來、所、已來の俵物御役所へ御止宿被遊、御自分御賄に被遊の旨、其余の諸事は迄仕來の通、伏見の御船のり八軒家迄御着岸の節、御案内丁役人并に御荷物御旅宿迄持運人足、御逗留中御城代様御奉行様へ御越の節、其外御用向の御旅宿御出入の節、御案内の者丁役人差出、且又御旅宿へも丁役人壹人、小使一人、御滯留中晝夜共詰切、積、尼崎の御出坂の節も、御旅宿御案内の者差出、様仕、大坂の伏見へ御乗船の節も、前同斷に被仰付、あも、差支、儀の無之哉、有無の上、様被仰付、奉畏、此儀前段に通被仰付、儀に御座、へと、於丁の物入等も相減、差支、儀の毛頭無御座、一統難有御儀御座、依之連印書付を以御請奉の上、已上、

天明八年申四月十五日

- 北濱壹丁目 同 貳丁目 過書町 梶木町 大川町
- 今橋一丁目 同 貳丁目 尼崎町一丁目 同 貳丁目 高麗橋一丁目
- 同 貳丁目 同 三丁目 上人町 四軒町 大豆葉町
- 七郎右衛門町一丁目 同 貳丁目 本天満丁 伏見町 吳服町

- 道修町一丁目 同 貳丁目 同 三丁目 同 四丁目 同 五丁目
- 古手町 平野町一丁目 同 貳丁目 同 三丁目 淡路町一丁目
- 同 貳丁目 北鍋屋町

惣御年寄中

(幕令)

右丁、連印

觸三四五 四月十六日 松平伊豆守○信殿連判、列被仰付の事○體裁圖三二三八に同じ、

觸三四五 四月廿二日 丁銀吹方被仰付、貳朱判吹止、永代に通用、右に付諸色直段正路に相守、下直に賣買可致事○圖二八〇・三四九二、及三九一三を見よ、

觸三四五 四月廿五日 姫君様に當月十八日御結納被進の事、

當月十八日、從公方様、姫君様に御結納被進の旨、自江戸被仰下、條、三郷丁中可觸知者之○圖三四〇九を見よ、

申四月

(幕令)

觸三四五 五月廿二日 盜賊とも多令徘徊の付、町番人召捕方の事、

一近頃町に盜賊共多徘徊(令脫)、拔身等を持致強盜、趣相聞、に付、召捕御手當の付、町にこゝる番の仕方且心得等儀、先達あか追に渡置、通、右躰の節の兼あ相圖を定め置、近所合壁より早束出合、いり様にも致し捕置可申儀、其上去去年八月にも、猶又嚴重に番いり、亥刻を其人數に應し、拍子木を打、町送りいり、繁に無怠相廻り、怪敷者を留置、若手之余

御觸及口達 天明八戊申年

一二五五

盜賊横行

亥刻以後町木戸の閉鎖

逮捕の際盜賊を殺傷するも罪無し

自身番所に棒鼻捻の類を備ふ可し

りひし節の手配いたし、敲伏ひあ成とも捕可や、疵付儀を勿論、自然相果ひとも、盜賊に相決、いし、越度こそ不相成旨、油斷無之様格別ニテ渡置○圖三三八、處、全相ゆるみ、故哉、右に仕儀こよひ、段、不屈に至、向後彌入念、町々自身番所こそ、右躰異變に節手當にせめ、棒又を鼻捻に類悉く町々こゝ取拵、固メ能致置、此節を夜中増番等差出、無怠相廻り、亥刻限木戸をべ切、往來に者を町送りこいせり、捕違ひ少も不苦、間、盜賊躰怪敷ものを相圖致シ、所々者出會取留置、若拒、いし、打伏、あ成とも召捕、月番に奉行所に召連可訴出、此上等閑に致り、相聞、いし、遂吟味、急度可令沙汰、

右に通三郷町中不洩様可觸知者也○圖九二七及九九五を見よ

申五月廿二日

石見 土佐

(御觸書之留)

北堀江三丁目盜賊連目を賞す

去ル十八日北堀江三丁目こゝ、夜中怪敷をの罷通り、處、兼あ町内と者々合、手組(配カ)に置、相圖に通取斗召捕、繩卷に致シ訴出に付、入牢(牢)付、處、則盜賊に無相違相聞、右を近辺物騒に付町内々合、手配よく番致シに付、盜賊差押へ、段、全當番并丁役人とも行届、仕方こ付、於奉行所こ及賞美、外町こゝも右躰北堀江三丁目こゝ如取斗に、手配相圖等行届、いし、是悲胡乱成者召捕可や儀に、間、此度相觸、趣彌相守、一町限りニ篤とや合、油斷不致様手當致シ、怪敷者召捕可訴出、事、

同日 北堀江三丁目こゝ盜賊を召捕、訴出に付御賞美に事、

右に通今日方格惣會所こゝ被仰渡、

(申五月廿二日)

(同上)

同日 松平越中守殿當表御巡見に付、町々自身番に事、

一今日北組惣會所へ被呼出、今度松平越中守殿當表御巡見に付あを、町々自身番に付、間、其心得可致趣、番に仕方等追々可や渡旨被仰渡、此段御承知可被下、○圖三四六

申五月廿二日

年

寄

(同上)

大道の修繕

見物

おたれ日覆の取拂

御見分所社門前出の商取拂

一町々大道地形不陸に所取繕、儀、先達を被仰出、通相心得可や事、
一御通行御道筋、見世先格子杯を見物躰仕間鋪、二階窓をべ置可や、御通行に節辻に罷出、見物仕間敷、
一御通に後々見物躰仕間敷事、
一御道筋軒先付あをれ并日覆等取拂可や事、
一御通り筋春米屋あをき(進)取拂可や事、
一御通り筋御見通に相成、横町往來を差扣させ、不作法無之様、隣町年寄丁人罷出、差配可仕事、

一御見分所社門前に出商内致、そのと、取拂にせ可やい、二階より寺社境内見をぬい處に、
御觸及口達 天明八戊申年 一二五七

雪隠の圍
小便桶取拂
髮結床の休
業
町年寄の出
迎
盛砂
挑灯
遊山船勸進
船の遠慮
船普請作事
等の遠慮
濱側岸岐の
修繕

- 戸をべ置可事、
- 一御通し節御見渡に相成ひ雪隠を、見へ分斗不目立様圍置可事、
- 一御通り筋木戸際有之の小便桶取除事、
- 一御通行し節御道筋有之の、髮結床と戸をべ置可事、
- 一御通行し節、御道筋町に年寄麻上下着仕、辻合に平伏可仕事、
- 一當表着御發駕し節とも、御道筋町に凡五間口に壹ヶ所ツ、盛砂仕、其間に有合し手桶竹帚差出置可事、
- 一當表着御發駕し節并御巡見御歸路夜に入、川筋兩側御通り筋町に兩側、凡十間口に壹宛有合し挑灯差出可事、
- 一川筋御見分し節、遊山舟并勸化小船差出、儀遠慮可仕事、
- 一川筋御通船し節、船普請作事等見合可事、
- 一濱側岸岐損ひ所有之の、取繕可事、
- 一川中も不掃除無之様可仕、

但し、土砂不流落ひ、岸岐繕、に不及、事、

以上

申五月廿一日

五月廿九日 松平越中守殿近に當表に御越し付、火に元可入念事、

物市場云々の一項を闕く、
尙圖二五六を見よ、

同日 松平越中守殿町方御通し節、不作法無之様可致事、

同日 諸商人とも即時に代銀不相濟、證文取方、

商品賣渡又は預置手形は不確實なるによる訴訟
相手方の奸策
願人の奸策
大法師
自今不確實なる手形に受理せず

諸商人共即時に代銀不相濟、證文取置の儀於有之、慥成手形取置、出入無之様可致旨、慶安五辰年、已後度、相觸、處、年久敷相成の儀に付、不相弁の共多有之哉、取引等等閑致、不慥手形等を以、毎度訴訟致ひ者有之の處、近來別右に類多相成ひ、乍然書面不宜の得共爲證據差出、強ひ相願の類を、一應者相手呼出、或者裏書等差遣ひ處、返答し節、證據書物慥ならぬ付、双方爭、其上日延等相願、出入手間取ひ、付添し町役人共迄、度々奉行所に罷出、及難儀の由相聞ひ、元來貸金銀者勿論、其外荷物預けの類、證文慥取置ひも、證文表に相對を變、其品不相戻、及出入の類者、相手不埒、下は不濟儀に付、可及出訴儀に得共、銘々商物を賣渡又者預け置、證文等をも不取置、或者書面等閑認請取置、又印形無之杯、類多有之、商に此相渡の上、右躰等閑の儀者有間敷道理、全不念に付、一通りに相願、日限等請ひも、日數相掛りの儀ヲ存量、證文等不慥成品を以願出、双方糾し節、日延等相願、更を早く可相濟工を以、たいわう杯と唱ひ類、惡者共相加へ、不筋と取斗を致し、類も有之哉に相聞、不埒に至る、以後右躰に不届しもの於有之者、急度曲直に可付の條、其旨可相心得ひ、勿論向後彌慥成證據も無之願者、都も不取上ひ、先年相觸ひこと、諸商人共即時に代銀不相濟、慥成證文取置、預荷物其外當

御觸及口達 天明八戊申年

衣類等の當座貸借に關する訴訟は例外なる可し

座に貨物等も同様ニ相心得、證文儘ニ取置、不及出入の様可致ひ、但、其日持等ニ至る身輕キもの共、懇意ニ問柄(柄)ニあ、誠ニ當座ニ相對ニあ、着類等貸付ひ處、相手方ニ者共不實ニ取斗を以、其品不相戻、相手不埒相聞ひ類ひ、證據もの耽々無之ひ共、其品ニ寄願可取上ひ事、

右ニ趣堅ク相守、聊心得違無之様可致ひ、若此上證文等等閑ニ致し置、及出入、紛敷儀於相聞ひ、嚴敷可遂吟味ひ條、其旨相心得可申ひ、

〔右ニ通ニ郷町中可觸知者ニ、〕

申五月

(御觸帳)

圖三三 五月晦日 松平越中守殿御着ニ付、御旅館近邊ニ町々自身番御差止、并御寄宿ニ町人とも罷越ひ儀無用ニ事、

松平定信旅館附近町々自身番を免ず

此度松平越中守殿御越、上中ニ嶋町松平隱岐守屋敷御着ニ付、近辺ニ町々別段自身番ヲ付、先格ニひ得共、此度の市中下ニ近年別多難儀ニ者多キ趣ニ付、自身番不付、間、町々合、晝夜共無油斷心を付可申ひ、○圖三五 四を見よ

町人の伺候は町奉行所の差圖を受く可し

一右御寄宿へ丁人共御見舞ニ罷越、儀、無用可致、乍然前々罷出、者ノ格別ニひ條、今日明日内、月番ニ御役所へ早ニ相伺、差圖可請ニ事、

申五月晦日

(幕令)

節手桶の類及ばず

圖三六 同日 松平越中守殿御越ニ付、道橋掃除手當等万端取繕ケ間敷儀不致、雜費無之様可致事、

道橋掃除等に無益の人足を使用する可らず

松平越中守殿當表御越ニ付、先達多町々心得又々手當等ニ儀追々渡置○圖九一八・圖二二五 二二五等を見よ、ひ得共、市中下ニ難澁ニ此多キ時節ニ付、一同飭り手桶等ニ類ニ儀、在合ニ品可差出、有合不申分不及差出ひ、右ニ外此類ニ准一可申事ニひ、

早くより往來留を爲すに及ばず

一道橋掃除惣多町々入用掛り儀、人足無益費、事、成丈無之様可致旨、たとひ先格、とも、當時末ニ難澁未相凌不申時節ニ付、町々役人とも格別ニ心を附、聊入用相減、様取斗る事、一御通りニ節、町役人共罷出、前廣より往來人差留ニ不及、御通ニ節、不禮無之様能ニ可申合、右々下ニ困窮未復不申時節ニ付、申渡、間、町人共壹町限申合、萬端熊ニ取繕ひケ間敷儀決り不致、成さけ諸造費用不相懸様可申合ひ、尤此度時節ニより、申渡、間、後格ニひ不相成事、

右越中守殿被仰越ひ趣を以、尙又相觸ひ間、三郷町中不洩様早ニ可相觸者也○圖九二 八を見よ、

申五月晦日

石見

土佐(御觸書之留)

圖九六 同日 松平越中守殿御越ニ付、町々あわく取繕ケ間敷儀致間敷事、

口達書

一此度松平越中守殿御越ニ付、町々あわく取繕ひケ間敷儀を決り致間敷旨、先達多申渡置、通、

胸寄庇等の取拂

御觸及口達 天明八戊申年

一一六一

町々濱側の雪隠の隠蔽

彌相心得可申、駒寄庇儀、町幅格別狭ク、御道筋差^(構)處の格別、其餘取除ニ不及、併取
早取繕相濟、をのり、繕ひ直し、却難儀可致筋も可有之間、其分の勝手次第ニ可致事、
一町々濱側雪隠儀、格別見苦分の取繕^(兼奉)答ニ、得の、葭簀を以取繕^(兼奉)も相見^(兼奉)ひ、却目障ニ
相成如何^(兼奉)の、右先達^(兼奉)あ^(兼奉)達置、通、不淨等見通し、格別見苦分斗有合^(兼奉)品を以取繕、其餘決
あ不及取繕、事、

右通令承知、此度越中守殿御越ニ付、取繕ケ間敷義却あ如何^(兼奉)の間、掃除等入念、不禮無之
様專一ニ可致段、尙又不洩様可申渡事^(兼奉)○^(兼奉)三四六

〔申五月晦日〕

(同上)

〔圖三六〕 六月朔日 松平越中守殿家來と申、町方^(兼奉)の喧嘩口論買掛り、其外理不盡^(兼奉)儀

有之^(兼奉)の、可訴出事、

松平越中守殿家來と申、或を理不盡ニ口論喧嘩我さ^(兼奉)り振廻を成シ、町方^(兼奉)の難儀を致し、者、
并押買代錢不相拂類ひ、惣あ右躰^(兼奉)の者^(兼奉)の無之答^(兼奉)事ニ、万一有之^(兼奉)の、其所^(兼奉)ニ留置^(兼奉)共、
又^(兼奉)の姓名承り、先方行先見届、上、早^(兼奉)町奉行所へ可訴出^(兼奉)ひ、尤先方主人名相顯不^(兼奉)者^(兼奉)も、
右躰^(兼奉)の者^(兼奉)の、是又^(兼奉)の姓名承り、行先見届^(兼奉)の可訴出^(兼奉)、若見遁打捨置、後日^(兼奉)ニ相顯^(兼奉)の^(兼奉)あ^(兼奉)る
くの、町内^(兼奉)の落度^(兼奉)たる^(兼奉)る^(兼奉)く^(兼奉)ひ、尤訴出^(兼奉)、先方意趣不相合、并町入用不相掛様^(兼奉)。早^(兼奉)埒
明可遣、間、右^(兼奉)の趣急度相守^(兼奉)の様可申觸旨、越中守殿御沙汰^(兼奉)ニ、間、其段可相心得^(兼奉)ひ、
右^(兼奉)通三郷町中可觸知者^(兼奉)也、

松平定信家來と稱し不法の舉動に及ぶ者あらば告訴す可

申六月

石見

土佐

(同上)

〔圖三九〕 同日 松平越中守殿御越ニ付、御旅館近邊火消廻り御差上、其外出火^(兼奉)の節火消

人足手當^(兼奉)事^(兼奉)

〔圖四〇〕 六月二日 松平越中守様御着ニ付、火^(兼奉)の元^(兼奉)事、并御道筋町^(兼奉)ニ作法無之様可

相心得事、

火の用心

一越中守様唯今御着被遊、間、先達^(兼奉)あ^(兼奉)被仰渡^(兼奉)○^(兼奉)三四六^(兼奉)を^(兼奉)見^(兼奉)よ、通り、火^(兼奉)の元^(兼奉)隨分入念可被^(兼奉)申^(兼奉)付、尤御

通筋町々の作法

逗留中掃除等無油斷可被^(兼奉)申^(兼奉)付、

一御通筋町^(兼奉)の別^(兼奉)の掃除入念、二窓又^(兼奉)の格子^(兼奉)の^(兼奉)此^(兼奉)き^(兼奉)の間敷、辻^(兼奉)の不及^(兼奉)申、見物躰不仕、無作

申六月二日辰中刻

御用懸 惣 年 寄 中

(御觸書之留)

〔圖四一〕 六月十一日 北國米入津^(兼奉)の時節^(兼奉)ニ付、酒造米買込^(兼奉)の間敷事、

一米穀を人命^(兼奉)ニ預り、儀、毎^(兼奉)相觸^(兼奉)、通り^(兼奉)ニ、酒造^(兼奉)の儀通用專^(兼奉)一^(兼奉)の^(兼奉)ニ、へ共、米穀^(兼奉)ニ比^(兼奉)し
、へ、不重^(兼奉)の儀^(兼奉)ニ付、毎度際限を以嚴重制禁^(兼奉)申觸^(兼奉)、事^(兼奉)ニ、北國米追^(兼奉)入津^(兼奉)の時節^(兼奉)ニ付、猶又

酒造米の買込を禁ず

御觸及口達 天明八戊申年

一一六三

酒造米買込、事故間鋪、此旨急度可相守者也、

右趣松平越中守殿被仰聞、間、三郷町に不洩様可觸知者之七を見よ、

申六月

石見
土佐

(同上)

圖三六 六月十三日 三郷町惣代心得違慎事、

三郷惣代

惣代の身分
身分不相應
の生活
町人に對する
舉作禮を
失ふ
將來の勤方

右に者共儀の、三郷町中々可相勤御役所用向ヲ爲弁理之、町に給銀申請、取扱ひ身分に者この所、其趣意取失む、身分不相應奢か敷義有之趣相聞、其上奉行所々付置、役人々心得違居、者も有之哉、町家に者へ對し、挨拶柄又の會釋等法外成ものも間々有之、如何事この間、已來者給銀請ひ町に惣代に趣意相弁、勤方相改、勿論權威ケ間敷義無之様諸事相慎、尤町人共へ對し、失禮無之様可心付ひ、自然此上心得違と者有之、糺し上急度可令沙汰ひ、右に趣申渡、惣年寄身分に儀も、已來心得儀等申渡置ひ間、此旨三郷町中へ可觸知者也、

〔申六月〕

(同上)

圖三六 同日 惣年寄慎事

圖三六 同日 惣年寄慎事

圖三六 六月廿二日 三郷町に丁代共勤方心得違儀、并丁代に家守爲致間敷、且又町内

諸入用事、

〔三郷惣年寄に〕

町代の身分
身分不相應
の生活
町入用の計
算に私曲を
行ふ
諸事を町代
に一任し又
之を家守と
爲すの弊
將來の勤方

一三郷町に丁代に儀者、其町人共々給銀を遣シ召抱、万事致差圖、用向付付者に付、町代共者其意ヲ守り可相勤、近來丁代共身分に程を忘レ、不相應に着類着、亦の暮方等い、丁人共を蔑こ心得、丁入用等多分掛り儀をも不相厭、身勝手を以、色々と取捨入用を立、勤定仕組の者も有之趣相聞、并町人共の内にも、右召仕方を心得違居、者も有之哉、別年寄月行司等頭取可取斗儀をも、丁代に任せ置、或は掛屋敷家守を丁代に爲勤の者も有之、夫故御役所へ町人惣代月行司に丁代罷出、丁人同様勤い、右等者町人共兼規矩相立、様可心得處、畢竟仕來に泥、其分ニ打過、と相聞へ、如何事に付、向後を町に、丁代に家守勤させ、儀相止メ、町人丁代と相分レ様諸事故、丁代共身分心得違無之様、丁限り二年寄町人共より急度取極メ可召仕、且又惣會所へ取集出銀の外、町内限り入用銀に儀、近年過分ニ相懸り町にも有之趣に相聞へ、出銀過分を町人共一統難儀い、末に身輕に者共迄自然と相響、事こく、御時節柄に儀にも、間、可成丈ケ儉約い、減シ方付、様可合ひ、右に趣丁人共へ得と申聞、其方共儀も不束に町に無之哉、兼心掛ケ相改、若如何に町にも有之、申聞、上にも不相改にあて、其段可申出、自然等閑に致置、外相聞へ、越度可申付事

申六月〔廿三日〕

(御觸書之留)

圖三六 六月廿五日 浚明院様御贈号、三天王寺に被爲入に付、御道筋不禮無之様可致事

御觸及口達 天明八戊申年

一二六五

觸三四六 七月九日 山城國紀伊郡稻荷社勸化御免之事

補觸一三七 七月十日 線綿まきめりかくまう事、地藏祭事○觸九五、七に同じ、

觸三四七○觸六なるべし、

觸三四七 七月廿四日 連年米高直下々困窮未相復候ニ付、米直段高直ニ不相成様、勘弁心得等之事、

先達より米直段ニ世話いさし儀、何きも趣意ニ處不相弁あり、行違可ヤ儀ニ付中聞置ひ、何商賣ニあも、見込商ひ買持等儀ノ可有之事ニハ、右ニ功不功を以職業ニ得失改かひ儀ニ付、一通ニ儀ニ得ハ不正ニ儀ニ無之ハ、乍併一躰ニ趣意相弁可ヤハ、卯年より山焼并奥羽凶年、其上出水等在之、米高直打續、去年未曾有ニ高直ニ至リ、誠ニ連年ニ事ゆへ、下ニ別ニ困窮難いさし、漸ク凌來、去年作方宜敷、ニ付、一統相歡ハ砌ニ得共、一作ニ儀ニあり連年ニ痛不立戻ハ儀ニ付、此一兩年ニ處ニ成さけ高直ニ不至、融通宜敷上ニも宜敷相成、ニ様ニ、職業ニ者厚ク勘弁を加ふる、此趣意不ヤ合時ハ、いつまも大造成見込商内持圍等ハ、人ニ遠慮いさし様ニなり行、手狭ニ商賣而已ニ成可ヤと可存哉ニ、左様ニあり無之ハ、此度一躰ニ趣意中聞、間、右趣意行届、様ある勘弁等もハ、一己ニ存寄封書いさしハ、奉行所ニ可差出ハ、扱御慈悲ニ趣を以、連年困窮、下ニ立戻リ、やうことノ儀、中聞置、上ニ、何きも納得可致事ニ付、此已後（至）到ハ少分ニ高下ニ任せ置、趣意納得ニ上ハ、彼是事を話敷ハ

見込商買持ハ商人ノ常ハ卯年以來ノ米價高直

庶民ノ困窮恢復を計ル可シ商業を永遠に繁盛せよと云ふにあらず意見ある者は上書す可

自今少分ノ高下には干渉せざる可去年の作方と米穀の集散

酒造米買込の禁

聞間敷ハ、尤与力同心共へもヤ付置、少分ニ高下ニ聲杯掛ハ、見込違ハ、お損を得、者も有之、幸ニ利を得、者も有之、あ、不正ニ筋ニ可相成ニ付、彌右躰無之様可ヤ付置ハ、扱去年一作ニ事ニ、へ共、何方も作方宜相聞ハ上、春ウリ等も數多、并ニ例年ハ江戶積も數少クハ、然ル處去年麥作不宜ニ付、在方夫食事ウケハ由ニて、出米例より多クハ、當年麥作相應ニめ夫食堪足いさし得ハ、最早出米も格別ニ有之間敷、北國米ニ儀ニ、得共、酒造高當年も去年ニ通ニ有之ハ上ハ、酒造米として買込ハ致間敷儀ニ付、此上一己ニ利を貪リ、賣隠米等をあし、有米少シニ姿を生シ、高直段出、様ニあり、前文ニ趣意ニ相背、儀ニ付、糺ハ上谷可ヤ付ハ、尤藏米納屋米とくも同様ニあり、右躰不埒ニ事をあしハ者有之時ハ、たとへ他國ニ者ニハ共、承り次第早ニ可訴出、尤訴出、もの、迷惑ニ不及、并趣意立行ハ様ニ可取扱事ニ、能ニ此旨可存者也、

右ニ趣中聞ハ上ニ、隨分其方共ニ御奉公ニハ間、融通宜敷上ニも宜敷、成さけ下直ニ相成、様可致旨、松平越中守殿先達御登坂ニ砌、御口達ニ趣ニハ、御教諭ニ段一統難有奉承知、能ニ納得ニ上相守可ヤハ、
右ニ通米方ニ者共ハ中渡、條、一統可令承知旨、三郷町中不洩様早ニ可觸知者也○觸八一及觸九三三を見よ、

申七月

石見 土佐

(御觸書之留)

觸三三七 七月廿七日 干鰯油粕都肥類ニ交物等致、賣買間敷事、

御觸及口達 天明八戊申年

干鰯油粕等
に他物を混
入す

其買占圍持

近年肥類高直相成、上、別あ干鰯杯を國々積登、儘にての不賣拂、土砂或の諸品と骨粉空等
を粉こことさ取交、水を打、目方重く成、様色々と仕成、并油糟も粉(穀)空ことさ粉木と葉を粉こ
いとし交賣出、且又干鰯都あ肥類油糟醬油粕等と類迄買圍ひ持、直段高直を考、賣出、者等
有之、令難儀旨、攝河兩國村々内願出、右躰交物いとし賣出、段、不直と仕形、殊こ一
己と徳用を見込、諸人と不願難儀を、買圍ひ持等と致間敷儀こあ、於無相違の不埒と事故、
其分ニ難差置、間、向後交物等と急度相止、(性)厩合善惡こ不均、國々着と儘こあ賣出、勿論直
段不引合歟、無據子細等有之、賣方延引の格別、買圍ひ持の不致様相慎、可成丈下直こ可賣
出、若此上非分と取扱致、者有之、於相顯の、吟味と上急度可令沙汰、
右と趣三郷町中末迄、不洩様可觸知者也。○圖二一
五を見よ、

申七月

(幕令)

圖九三 八月三日 米直段高直こ不相成様、松平越中守殿御教諭と趣、米方年行司共被

仰渡、事、

米方年行司へ左と通、

松平定信の
教諭
メ賣の仲買
を捕縛す

先達あ松平越中守殿當地御越と節、御口達在之の御教諭と趣、去月廿四日米方年行司共呼出シ
申渡、此上一己と利分貪り、(を服カ)賣隱米等をな、有米少シと姿を生して、高直段出、様こあり、
右と趣意こ相背ひこ付、糺と上答可付旨急度申渡置。○圖三四七
一を見よ、此處、翌廿五日の少一直段引下
ケひ得共、其後尙又追と直段引上ケひこ付相調ひ處、右申渡と以後不埒と者有之、全賣こ

あ自直段引上ケ、不届と至こ付、紛敷者共召捕、入牢申附遂吟味、正道と商賣こあひて、聊致
遠慮、筋無之事こひ間、諸事去月廿四日書付ヲ以申渡の通相心得、(二服カ)手廣賣買可致、尤此上別
あ直段引上ケ不埒、可成丈下直こ相成ひ様可致候。○圖三四八
四を見よ、

申八月

(御觸書之留并濱方記録)

觸三四三 八月七日 諸國酒造石高改方と度。○圖三四〇六及
三四七四を見よ、

觸三四四 同日 右同斷、酒造石數仕込と桶并諸道具に極印を打可相改事。○圖三四七
三を見よ、

觸三四五 同日 御城代家來と由を申、人集と場所芝居等こあ、不法と儀有之者可訴出事、

城代附足輕
仲間又雇の
不法

一御城代家中と由申、町家并芝居遊所人集と場所等こあわく及嵩高、あこ又の無心ケ間敷事と
も申掛ケ、不法と度も有之由、於當地抱こ相成、足輕中間、屋敷手狭こ付、町宅被申付置、又
と平日雇こ出、をの杯、家中と躰こ申成と不法と儀も有之由、惣あ武家中と者へ、主人こ
か慎と儀急度申付置の事こひ得共、折と不埒と者も在之、所と難儀こも相成様成事とも、或の
家中出入と者又の無宿躰と者共こも、僞ヲ以武家召仕と様こ申、工ケ間敷執斗ひ等いとし類
と者も有之由、不届と至こ、且其役筋と者へ立入、者共と内こも心得違、役方内聞等申付、
への、外への役威をかり、手前勝手いとし、如何敷筋等有之哉こ、惣あ不依何者不法不埒
いとし、縁ざりケ間敷事申、者有之とも、内こあ鳥目等輕き品とりともか遺間敷、芝居こ
あ無錢にて不爲致見物等こ、前申渡置、處、兎角紛敷者とも無錢こあ入込、故及不法、一
且の口論等いとし取合、とも、表立吟味と相成、あ商賣相休と、其上彼是失脚も相掛り、商

芝居無錢見
物と之を看
過する所以

役筋出入の
者の不法

御觸及口達 天明八戊申年

一二六九

右により出入に及ぶとも商賣休業に及ばず

町人武家に對し非禮ある可からず

方一日休、あも、多分と損失に相成ひて處ヲ存斗、内濟いさ、事と相聞へ、以來前々相觸置、通相守、金錢其外聊と品とりとも絲とりとも、一切か不遣、口論に及ひ騒ぎの取まじり、手あひまりひ、無用捨擲置可や、又の所難儀にも相成可やと疑敷筋にも心附、其者差留置、歟又の姓名承^(姓)承、右躰儀共有之、節の、早御城代家中に者、大目附役の者へ先申達、其上奉行所へも可訴出、万一吞込違ひこく、不寢事申出、間違、分り不苦、且品より出入におよひ、吟味に相成、とも、商賣一日とりともやむ、事の、甚難儀をるる事申付、町方者非分無之事に、たとへ出入吟味に相成、とも、商賣相やむるよ不及、早々瑠明遣、意趣等不恰急度可申付條、前々相觸儀、尙又今度申渡、趣相守可や、但、御城代家中にかさらひ、惣武家方家中とても同様と事、間、右躰事有之節、先々へ早々相とけ可や、武家方儀、儀も尙又此度譯あや渡置、事、且又町人自身分の武家へ對し、たとひ輕き者共へも不禮不束儀無之様、彌相慎可や、前書と通申渡置、上、町人とも万一心得違、其氣に乗、不束儀有之、内濟いさ、事、あも、品より早々入^(牢)申付、嚴敷吟味を遂ケ、急度可令沙汰、右趣相觸様、堀田相撲守殿被仰聞、問、三郷町不洩様可觸知者也、^{○圖九一四・九一五、及圖三八〇四を見よ、}

申八月

石見 土佐

(御觸書之留)

觸三七六 ○觸三七七 到同七

明和三年大阪銅座設立

禁圍銅質銅の

觸三七七 八月廿五日 諸山出銅不進申付、銅座に相廻の外、この賣買并圍銅質銅停止事、諸山出銅不進上、一躰銅方不取締申付、明和三戌年大阪表に銅座相建、諸國に廻銅一手引請させ、ひに付、國々銅山稼採り分者不及申、此上致出情相稼、新山等開堀いさ、銅出方試、出銅少ク、共銅座へ相廻、古地銅に至迄銅座へ相廻可申旨、尤諸山に銅津出道筋并津浦、又者海上にて銅賣買堅致間敷、圍銅并質銅停止申付、^{○圖二五八、段、其節相觸置、所、近年別諸山廻銅不進有之所、若又心得違者、山元銅座へ、外へ相廻シ賣拂、歟、又と質入圍置、様成義も有之、於相知と其上銅取上、上、急度可申付者也、}右趣可被相觸、

四月

右趣從江戸被仰下、條、此旨三郷町中へ可觸知者也、

申八月

石見 土佐

(御觸書之留)

觸三四六 八月廿八日 切金輕目金無滯通用可致事、^{○圖三〇〇四及圖三四七を見よ、}

觸三四七 九月二日 浚明院様三回御忌御法支事、^{○圖三三三、九〇に同じ、}

觸三四八 九月三日 關東八ヶ國より作出の菜種、買問屋買次、もの御差止事、^{○圖三二二、七を見よ、}

觸三四九 九月十三日 町々家屋敷賣買、貳拾歩一銀、外、諸祝儀振廻等相止可申事、

近來於町々家屋鋪賣買時、家屋鋪買、者共出銀多相掛り、難儀、由に相聞、元來家屋鋪賣

御觸及口達 天明八戌申年

帳切銀を其町中に配分す

振舞料顔見世銀其他諸祝儀銀の質流家屋敷

家屋賣買直段の下落

家屋賣買譲替等に關する諸弊を戒む

買節の、家屋鋪直段に貳拾歩一帳切銀、公儀に差上來、所、寛永十一戌年々、右貳拾歩一銀其町へ被下、定通家役軒別ニ配分い、今以同様ニ、處、いつとなく賣買帳切節、右貳拾歩一銀の外、振舞料顔見世銀杯と唱、其外町役相勤の者勿論、家内者共召遣迄、祝儀等差遣、其上にも別段振舞等爲致、町々有之由、且又質物ニ取、家屋鋪流込、帳切等い、砌、質取主不勝手ニ付、外人へ名前附度存、おも、是非共一旦質取主名前い、貳拾歩一銀を勿論、其外過分に出銀い、上りらて、外人に名前ニ難致、其後外人へ名前附、節、猶又同様に出銀い、様取斗、町々多有之由相聞、如何こ、右ニ付自ラ家屋鋪賣券直段下直ニ相成、質物ニ取、者共、右帳切等餘計ニ相掛り、儀を相含、質物銀少く貸、故、借主共者猶又上端有之由を以、借増銀等い、故、及出入等、時、銀主共損失多、家屋敷も次第賣買直段相劣り、自然と土地一躰と衰微ニ相成、儀こ、易くら事、追被仰出も有之、武家一統節儉專ニ相用、時節こ得、町家者共老素無録之事、得者、たとへ當時富家共、共、別々儉素相守、聊奢ケ間敷儀無之、兼あり覺悟第一事、然ル上者家屋鋪賣買直段等儀を、別々大切事こ得、此上銘々當座帳切銀等請用をの杯、相互ニ用捨い、家屋鋪賣買節の、寛永年中被下置、貳拾歩一銀を配分い、此外に出銀を堅ク相止メ、并名前替讓り替名改等祝儀銀等者、是又一切相止可、勿論質物流にて帳切節、質取主勝手こ外人へ名前附度由、何より成とも一方々二十歩一銀爲差出、二重こ出銀爲致間敷、此外振廻等儀も、前書と通こ、上の、銀主と身祝ひにて、其者手輕振廻、

儀者、其者心次第、差定、町内方振廻、儀の、堅無用い可、此上家屋鋪賣券直段も相進可儀、への、家主共儀の身輕キ借屋人共への、別々家賃少成とも下直借遣、様勘弁可致、

右趣三郷町中へ可觸知者也 ○圖二一・圖九三 六及九三七を見よ、

石見

土佐

(御觸書之留)

圖三八三 九月十九日 戎金と唱、正金に似寄の品拵、賣出中間敷事、

戎金と唱、小判壹歩貳朱判を眞鍮焼付こ拵、毎年正月戎神事、節賣出、小兒手遊ニ取扱由處、近頃正金に似寄の様ニ拵賣出、極印其外文字等違得とも、無筆等無弁を此の見よ、正金と心得の様も成行、如何事、依之當時商内を此の有之分取上、向後土にて箔置等い、小判を到薄キ銅にて拵、賣つ、等を附、一應見請迄、少シもまのひ不中の様い、儀の格別、前書に紛敷戎金銀賣出の儀差留の間、外こおも右躰戎金銀取扱中間敷、若心得違賣出を此有之、可出、

申九月

石見 土佐

(同上)

圖三八三 九月廿八日 於町捨子有之節、養育取斗方并片付の節、向後者長吏下非人又者

御觸及口達 天明八戊申年

一二七三

正金に類似せる戎金の賣買を禁ず

捨子の多きは番人の怠慢による

一捨子いさゝか儀、前より御制禁旨被仰出有之、處、今以不相止、近來別あ町に捨子多有之、不届に至こい、此上致捨子の者見逢次第召捕、急度御仕置可付、且又捨子多有之ゆ段、全町に夜番人とも廻り方等閑故に儀を相聞、不埒こい、彌番人共入念繁々相廻、心付、様、町に役人共急度可付、若捨子致、之を召捕、い、早に可出い、番人を不及、其外に者こあも御褒美可被下、事、

捨子の養育は町内一體にして引請く可し

一町に捨子有之時、其町内へ養育に儀、於奉行所付、處、町柄に寄、町中引請に不致、軒下或は路次等に捨有之節を、家持壹人に引請こい、町に、多分有之由に相聞、右を其壹町中へ養育付、事付、町内一躰へ引受可付處其儀なく、家持に者壹人に引請こい、故、彌身貧に者とも其町に家柄を見掛ケ、捨子いさゝか様にも相成、其外彼是手重にも相成、如何こい、以來彌壹町中に引受に致し、取斗可付、尤捨子取扱方に儀、乳不足に無之様い、義の勿論、其外冬分の寒サに痛に不、様手當い、迄こい、衣類等の有合に古キもの、如何様見苦敷品こあも不苦、命に無別條成人い、得、衣類等の如何様こあも不苦、可成さけ入用不掛様、手輕に取扱可付、且まに貫人有之、い、身輕さ者こあも、長吏下非人番に之の又、穢多に類こあも、望次第に差遣可付、尤遣、節、是迄に通奉行所へ出、差圖を請可付、事、

捨子の養育法

捨子病死の届出

一捨子貫、之の、右捨子病氣に節、度毎訴出、得共、向後病氣に度毎出不及、隨分無油斷養

捨子を貰ひたる者再び遺す場合

生を加へ、若相果、い、其節病中に様子委細に相認可訴出い、尤是迄凡拾五才迄の訴出、得とも、已來の拾才を限り可訴出、其後の出に不及、事、
一捨子貫、者、又の外へ遣、度子細有之節、尙又貫請、者と合、一同願出、差圖を可請、是まに拾才迄の可出い、其後の出に不及、勝手次第をるる事、
右に通三郷町中不洩様可觸知者也○圖二八五
八を見よ、

申九月

石見

土佐

(同上)

圖九三

十月廿五日 家明に儀、家主が家請會所に届い後、家請會所が差出い差紙、日數

廿日過い、及催促、等閑に致間敷に事、

家明届中は後訴を受理せず
右に乗せる奸手段
家明届は規定の日數を経たる後家請人に其實行を催促す可し

一都る目安ヲ以掛りい出入、訴訟裏書差遣い相手いもの、家入用付、家主が家請會所へ家明届致置、旨、所いもの共斷出、得、右家明埒付い迄、後訴不爲請、處、近頃右躰家明届有之に、長に等閑に差置、後訴いもの難儀に段及出訴い類問に「有之」、右に内こを家主も借屋人に馴合、當分後訴受い儀を可遁巧こい、家明届致、族も有之哉に相聞、不届に事こい、全躰家入用にて、家請會所に家明届致、上を、家請人が催促差出、後、右差紙に日數立日こい、家明於相滞い、頻に家請人へ掛合、い、家請人も可捨直様無之、家請人共儀も手を盡し及催促こい、借屋人我意ヲ、借屋明退キ、儀不埒明、い、奉行所へ願出、あありとも、譯立可致、い間、已來家明に儀、家主が家請會所へ届置い後、家請會所が差出、催促差紙に日數廿

御觸及口達 天明八戊申年

日過、の、家請人へ催促におよひ、家請人おひても等閑(二脱)に置、の、家主が日數不立様、奉行所へ情と追訴可申出、若其儘延、に差置、右借屋人目安請、期に至り、家明届有之旨申立ひとも、其品より不及貪着の間、此旨相心得、實、家入用事、の、家請會所へ相届、儘、に差置間鋪ひ、

申十月廿六日

(御觸帳)

圖三四四 十月廿七日 米仲買共、内、不正に商内致ひもの共御吟味有之ひ得共、濱方賣買

方無危踏、手廣に取引可致事、

米方仲買共、内、不正に商ひ致、のとも、當七月廿九日召捕、追及吟味、處、就右濱方に心得違、の共も有之、手挾(狭)に相成、あを如何に付、諸事同月廿四日申渡、御教諭趣に相心得、手廣に賣買可致旨觸書差出、猶亦年行司とも呼出し、委細申聞、三を見よ、處致納の共も可有之哉、先達あ吟味におよひの共、全一己に利潤に拘り、不正に取斗致、儀に付、吟味に後相成、事、の、正道に商ひにおひて聊危踏可申筋無之事、の、畢竟此度不正に商ひ致、のとも相糾の趣意、濱方繁昌正路に賣買手廣に可致第一に趣意、得、右に處慥に相心得、存込有之のとも聊無遠慮、十分に入札い、切手入替兩替取引等聊無遠慮賣買手廣に可致、尤右に趣先達あも相觸、一統心得に事、得とも、此せの諸藏拂米專に時節に

不正米仲買の捕縛

正道の賣買は盛大に行ふ可し

付、猶亦此旨相觸、彌心得違無之、一之に入替、兩替取引迄も聊危踏不申、手廣に賣買可致、

申十月廿七日

石見 土佐

(同上)

圖三四五 なるべし、

圖三四六 十一月八日 近在より作出の地藍買持圍居ひ者有之、染物屋とも令難澁の趣に付、

買持圍持等致間敷事、

近在より作出の藍を地藍を唱、當表并町續在方染物屋共儀專に直買、又と決此を唱、中次者も買取、染物に遣ひ來ル處、當年を在方に直買に罷越、あも、地藍賣拂一向無之、町内藍賣りの渡世に者并素人、内にも、買持圍居ひ者有之、染物屋ども染方に差支、令難儀の趣相聞ひ、買取ひ者相應に利分有之の、可賣拂儀、諸人に不顧難儀、一己に徳用爲可貪、買持圍置等も致間敷事、若直段不引合歟、無據子細等有之、賣方延引を格別、無左、の時相場、賣出の様可致、自然非分に取扱致し者有之、於相顯、吟味に上急度沙汰可有之、

右に通三郷町中可觸知者也、

申十一月九日

石見

御觸帳に達 天明八戊申年

一二七七

地藍の

地藍の買持圍置を禁ず

他所他國の酒當地廻着の節は必ずしも届出づ可し

圖三四七 十一月九日 他所他國にて造出の酒、當表に相廻の節、并當地が他所へ差遣、とも、其度每奉行所に相斷、其上賣買可致事、都が他所他國にて造りの酒、當表へ相廻し、賣買いとしの節、右到着し酒引受、者々、駄數石高等委敷認、賣買不致已前、奉行所へ可訴出、尤是迄も當表酒造家引受、分、斷出、も有之にへ共、小賣酒屋并其外にも、他所酒引受不届出も有之間、向後の都が他所が駄賣酒引受に分の勿論、又、他所へ取次いとしの分共、寂初到着の節、丁内年寄奥印書付を以斷出可や、於奉行所糺し上聞届可やの間、其上にて賣買可致、若無斷他所他國の酒内分を賣買いとし儀於相顯の、吟味し上急度可令汰沙、右、通三郷丁中可觸知者也○圖二五七及圖三六八二を見よ

申十一月十日

(幕令)

攝河三百四ヶ村及急掃除人以外を禁ず

圖三四六 十一月十日 三郷町々下尿の儀、攝河在る三百拾四ヶ村并急掃除人に受入させの外、口入世話人等とのに、直相對を以請入させ、儀いとしの間敷事、三郷町々下尿の分○中若此上不埒し仕方有之の、吟味し上可令汰沙旨、四ヶ年已前已年觸知置○圖三二八、所、又、口入或の致世話、者有之、受入方及混雜難儀の由、三百十四ヶ村并急掃除人共此節中出、付、可遂吟味儀にへ共、名差を以立、事にも無之故、此度の不及其儀の間、及相對、月、儀の先達を渡、通彌相心得、向後余人不差加、百姓急掃除人共と町家と者及直

談、口入の勿論親類知音と者より共、世話等不携様可致の、自然此上にも心得違、携の儀於相顯の、急度可令汰沙、右、通三郷丁中可觸知者也○圖三五八

申十一月

(同上)

水道落口の掃除

土砂留杭

水道懸町々名目のみとなる

水道筋の埋没

水道懸町々を戒む

圖九三五 同日 川筋町々水道落口へ塵芥捨の間敷、并土砂留等閑に致間敷の事、川筋流出、町々水道口へ塵芥夥敷駈出、川筋水行差障に相成、前々が中渡、通、水道口への塵芥決り捨間敷事この所、近年猥に相成趣相見へ、不埒の事この條、水道懸り町々中合、相互に吟味いとし、塵芥不捨様可致、且又水道落口川筋水敲先へ土砂留の杭杭丈夫に打之、少くても右杭懸りの有之の、早速取除、様可致旨、兼中渡置○圖一、所、又、近頃猥に相成、土砂留杭拔流のをも、其儘に差置、町々も有之、并塵芥等捨、事と相見へ、大雨の節などの別な塵芥の勿論、小石と類夥敷流出、土砂留杭懸りの所不取除、流出、土砂の悪水落口こそす、悪水吐兼、付、右品と并土砂に至迄川筋押出、自ら水尾筋押埋、水行等差障に相成、川筋凌中付、程も無之、既凌願出、事にもへ共、兼水水道懸り町々と者共、水道落口の様子、并大雨の節の別な夥敷塵芥、小石、土砂等流出、様子及見、右杭杭へ懸り物不捨置取除、土砂留手當をもいとしの程に心懸、い、如何様にも手當に致方可有之所、水道懸り町々名目而已にて、畢竟等閑の事發、義と相聞へ、不埒の事この、依之水道掛り年番町々、并年番無之町々の、水道落口と町々へ中渡、間、土砂留杭丈夫に打之、塵芥不捨様相互に吟味致、儀の勿論、水道落口

御觸及口達 天明八戊申年

水道落口ある町名の届出

土砂留杭^(杭)へ懸り物早速取除、土砂小石と類ニ至迄、川筋不流出様手當可致、已來等閑と儀有之り可令沙汰、

濱側と内水道落口有之町と相糺、并落口掛り町名年寄印形ニ有無共書付、來ル十三日四ツ時丁代可有持參、^{〇圖九七}八を見よ、

申十一月十一日

(同上)

燈油の江戸輸送を促す

燈油の直待圍置を禁ず

^(き)圖三八九 十一月廿三日 燈油圍置、直段糺上^(拘)キ事、

燈油の儀、前と直段高直不相成様度と相觸、處、銘と勝手而已ニ抱り、江戸表廻着高も進兼の趣相聞へ、自ら直段引下ケ不サ、諸人難儀と筋ニ付、絞屋共此節格別ニ出情いとい絞立、江戸表に相廻シ、様可致ひ、且種物下直ニ節買取置、絞立、利益有之節を考、時と相庭を以賣買いとい、儀を、賣と類ニ無之、得とも、相庭を引上ケ、其上圍置ひひを仕入高直と由を以、直段糺上ケ賣出シ、類有之におひて、吟味と上急度答可サ付、若右躰と者有之者、早と可訴出、とをひ只今まで心得違ひいといへとも、於致自訴と其科可免遣、隱置外カサ出におひて、當人を勿論其所と者まで可爲曲事條、此旨急度可相守、

右と通從江戸被仰下、條、此旨三郷町中可觸知^(者)物也^{〇圖三二五四及}九三九を見よ、

石見

(御觸書之留)

補達 三五七 十一月廿九日 他所他國カ入込ひ去未年并當年造新酒、駄數石數可届出、事、

土佐

去年及當年造酒大阪積登額届書案文

一 他所他國カ入込ひ去未年造酒并當年造り新酒、當十一月十日まゝ、當地酒造りひ小賣酒屋酒中次と者并外商賣人方迄も、他所酒直と買入、者、駄數石高左と通委細ニ相認、半紙帳こいとい、本人年寄印形にて可被差出ひ、

覺

去年造り一酒何駄

酒造屋

何

屋

誰印

此石數何石

右と何州何郡何村何屋誰カ去未年買入、

但、中次小賣酒屋并外商賣人ども銘と書分、

一 當申年造り、分、認方と右同斷、

右と通相違無御座、以上、

月 日

何町年寄

何

屋

誰印

右と通御役所カ被仰出、間、無間違相まらへ、有無とも來月四日四ツ時迄ニ可被差出ひ、但し、二通り相認可被差出ひ^{〇圖三四八}七を見よ、

申十一月廿九日

天滿組惣會所

(同上)

圖 三六 十二月十二日 家屋敷賣買名前替と節、貳拾分一銀と外、年寄并町役相兼ひ者共

御觸及口達 天明八戊申年

一一八一

〔御禮〕
〔口達〕
古來仕來り候挨拶儀、惣年寄心得を以可申聞事、

町々家屋鋪賣買并名前替節、二十歩一銀外、町式目〔相立〕、二重三重名目を以出銀増長爲致、二付、先達御書を付町觸被仰出○圖三四八、〔御禮〕、於町々心得違、右被仰出外、古來仕來り候帳切名前替等節、年寄并町役相兼者共へ、聊の相談〔挨拶〕いざ遣一儀迄も、一切差止儀と、心得違、町人も有之趣相聞へ、二付、此方共其段上處、右町役相兼者等へ、聊ッ、挨拶等致、儀を御察斗被成、義〔御禮〕にて無之、間、此段心得違居、町人共へ、此方共心得を以申聞、様被仰渡候、

右趣慥承知仕、爲其銘々印形仍如件○圖九三、
申十二月十五日

(同上)

觸三四九〇

〇觸三四九〇
に同じ

觸三四九一

〇觸三四九一
なるべし

觸三四九二

〇觸三四九二

十二月十五日 近年金銀錢位不調二付、諸色直段高直○圖三四九三及三四九四、世上難儀二付、一統御救ため、灰吹銀を以丁銀吹立、貳朱判を以御備金ニ被差加、眞鍮錢吹止被仰付、貳朱判眞鍮錢者永代通用○圖二六三六・三四五七・三九一三・四五八五を見よ、

觸三四九三

〇觸三四九三

十二月十七日 唐船持渡諸色扱荷賣買致間敷、并海上ニ唐船近邊ニ船掛りいざと問敷事○圖一〇五八・三四九四・九三三八を見よ、

帳切銀以外
餘分の出銀
を禁ず

家屋敷賣買
直段に影響
せざる儀
は廢止する
に及ばず

其差略勘辨
の家持町人
の申合に依
る可し

觸三四九四

〇觸三四九四

觸三四九七

〇觸三四九七

同日 右同斷、扱荷物買求者有之候、見合次第可訴出事○圖三四九三及三四九四、十二月廿一日 右同斷○家屋敷賣買名前替、貳拾分一銀外、年寄丁代に諸祝儀、丁人とも心得事、今日惣會所に宗旨頭町年寄被召呼、被仰渡候趣左に通、

於町々家屋敷賣買時、二十分一銀外、近來余計に出銀相掛り、自ラ沽券直段下直ニ相成、家持町人共難儀趣相聞へ〔御禮〕付、先達二十分一銀外、余計入用相掛不々様可致旨相觸候、右家屋鋪賣買二付、格別余計入用相掛り候〔御禮〕、沽券下直ニ相成、容易ならざる事〔御禮〕、其上右出銀を惣丁人に割取候時の、聊儀〔御禮〕、出銀致候者〔御禮〕余計に出銀ニ致難儀、殊ニ家屋鋪直段相替り、無益事〔御禮〕、相互用捨可致儀、且町役人其外丁代等へ余計祝儀銀等差遣儀〔御禮〕、沽券ニ相響キ、如何事二付、其旨相觸○圖三四八、〔御禮〕、然ル處右觸書出候後、沽券ニ響キ〔御禮〕も相成さる年來仕來り候をも相止メ、却り丁儀を廢シ候町々も有之哉と相聞へ、是又如何〔御禮〕も可有之候、畢竟是迄格別余計ニ入用相掛り、家持町人共難儀趣〔御禮〕、如何事二付、先達御書差出候事〔御禮〕、常々祝儀其外家直段〔御禮〕も不響仕來致差略、程克其町柄隨〔御禮〕、勘弁取斗も可有之歟、町々年寄共の壹丁長をも致居候事〔御禮〕、其役儀をも相立、古來仕來り候事〔御禮〕、少の會釋も可致筋も可有之哉、且又丁代共の町々抱者〔御禮〕、給金をも遣シ置、事濟儀〔御禮〕、前々祝儀等節、心付も致一出来〔御禮〕、是迄如く、過分事〔御禮〕、如何可有之候得共、家屋敷賣買直段〔御禮〕も不均儀〔御禮〕、聊心付致一遣候とて、家持丁人共の身分〔御禮〕、難儀致候と申筋〔御禮〕も有之間敷哉、先達御書を相ゆる状〔御禮〕、是無之、

御觸及口達 天明八戊申年

家持丁人共方(二脱カ)も一統中合、家賣券(二脱カ)に障ならさ事(二脱カ)の、致勘弁、町儀も相崩シ不中様、程克取計有之様こと存(二脱カ)事(二脱カ)の、右に趣惣年寄共能く相心得、先達と觸書を相守、心得違無之様、程克勘弁と取計致(二脱カ)様、寄と丁人共へ可中聞(二脱カ)事、

外に御口上、この被仰渡(二脱カ)の趣、右被仰渡と趣(二脱カ)に付(二脱カ)あ、度、御口達被仰渡も有之(二脱カ)の儀(二脱カ)に付(二脱カ)得、此上丁人共心得違(二脱カ)の、彼是中者も有之、惣御年寄中迄可中出(二脱カ)様、御演祝(二脱カ)の被仰渡(二脱カ)事、

右御口達書と趣并御演祝(二脱カ)と趣共慥奉承知(二脱カ)の、組合町へ早速通達仕、於町と丁人共へ不洩様中聞、心得違無之様可仕(二脱カ)の、其宗旨頭町に年寄判形依如件(二脱カ)六を見よ、

申十二月廿三日

(御觸帳)

圖三四五

十二月廿六日 公儀御橋請負人共の御免之旅籠屋株、旅籠屋者勿論諸向船宿(二脱カ)の

夜、人宿致(二脱カ)の者の借受可中事、

右に通安永六酉年八月(二脱カ)二九七并其後右七兵衛(二脱カ)に札と辻町池田屋(二脱カ)利介南鍋屋丁河内屋武右衛門相加り、公儀橋御修覆請負(二脱カ)の儀等觸知せ置(二脱カ)八を見よ、處、近頃諸問屋(二脱カ)の荷主杯と唱、又の船宿(二脱カ)の船頭杯と差構無之儀と、心得違、者も有之哉、無株にて致人宿、旅籠屋株不借請、難儀と趣願出(二脱カ)得共、宿(二脱カ)の者名差を以中立、儀(二脱カ)も無之に付、此度吟味不及沙汰(二脱カ)の間、前書觸置、趣彌相守、諸問屋の勿論船頭(二脱カ)の荷付客并船頭船付人数(二脱カ)のりとも、宿(二脱カ)の、右株借請可中、自然紛敷致方有之、相顯(二脱カ)の、吟味と上急度沙汰(二脱カ)可令(二脱カ)の、是

公儀橋引請
人三人と爲
る

株借請望人
は河内屋武
右衛門に對
談す可し

又株借請、者も、右三人に内河内屋武右衛門と遂對談(二脱カ)の趣致度旨、三人に者共相願、其段聞届、間、株借り請望人の勿論武右衛門と中談(二脱カ)をく、

申十二月

石見

土佐

(御觸書之留)

圖九三

同日 唐船持渡と諸色拔荷不相求、訴出(二脱カ)の、其荷物被下之、并拔買仕(二脱カ)の者有

之由訴出(二脱カ)の、御褒美可被下(二脱カ)事、

口達

一唐船持渡り、諸色拔荷仕、賣買、者、今以不相止(二脱カ)の付、向後買元不成慥怪敷品有之(二脱カ)の、不可相求、訴出(二脱カ)の、證儀(二脱カ)と上其荷物被下之、尤拔買仕、者有之由承、共、是又可訴出、縦同類(二脱カ)をりといふ共、其罪ゆる、御褒美被下之、其上(二脱カ)の茂ささる様可中付、若存(二脱カ)のら不訴出者有之、於令露顯(二脱カ)の、急度罪科可行者、其外右に付品、從江戸表被仰下、趣、今般觸渡置、三四九四を見よ、所、右躰不正と唐物取扱(二脱カ)の共、此節追及吟味、牢舍等中付、付、其段承およひ、寂前觸渡と趣を以可訴出心庭(二脱カ)の者も、吟味と相成儀ヲ恐レ、差扣へ不訴出、あ、甚心得違(二脱カ)に至(二脱カ)の、右觸渡置、通、此節も夫と可訴出儀を勿論と儀、縦舍牢舍中付置(二脱カ)の者も買請又の預り置、唐物類、其外金銀取引掛り合等有之儀も、何こよら早、有躰訴出(二脱カ)の者とも、其品に寄、是迄の不將と可差許(二脱カ)の、若此上にも隠置、外相顯(二脱カ)の、所と者迄可

拔荷賣買の
禁

不正唐物商
の捕縛
之に關係あ
る者は自訴
す可し

正銘唐物に
引る金銀取
る引を沮害す
勿れ

江戸大阪間
に機脈を通
じ米相場に
亂高下を來
すを禁ず

相谷、條、心得違無之様、末、丁人共迄得と可申聞ひ、
一此節及吟味ひ者共、不正に唐物る取扱、故に儀に付の間、外、正路に唐物等を以、金銀取
引に差支ひ儀と有之間敷事心得とも、彌差支無之様、寄町人共へ申聞可置ひ、
右に通早に可相達ひ七を見よ、

申十二月 ○御觸帳に北組惣年寄の
副書日付を廿六日とす、

(同上)

圖言六 十二月廿八日 諸相庭に儀、不時等申ちらし、相場くるにせ申間敷事、

一諸相庭に儀、正道に筋に、の時、相庭に隨ひ高下可致儀、尤に儀に、然ル處米穀相場に
儀と、別あ不時等申ちらし、相場をくるに、者も相聞、不屈に至るに、此表方も専ら大
坂へ申遣し、儀に相聞、此儀大坂これるに嚴敷吟味致、得と、名面等も相知事付、以後
右等不時申遣、儀決て致間敷、此上相顯、の、嚴敷各可申ひ、惣此表商賣とても、時に相
場正道に儀に隨ひ、手廣に賣買可致ひ、屹と此旨可相守者、

十二月

右に通此度於江戸表町觸有之、此地にも同様、江府へ兼申内通致置、不時承り、并種に
手段を以、不時を申ちらし、相場をくるに、者有之趣相聞、不屈に至るに、已來江戸表不
時承りひ儀堅致間敷、若此上右躰に仕方を以、相場をくるに、者有之、の、早速召捕嚴
敷各可申付、此段相心得、時に相場正道に儀を以、隨分手廣賣買可致、此旨急度可相守
の、

右に通三郷町中可觸知者也、

申十二月〔廿九日〕

石見
土佐

(同上)

圖 九三九 同日 燈油に儀先月相觸ひ文言に内、江戸廻しに分是迄に相替儀無之、心得違
致間敷事、

燈油に儀に付去月相觸置 ○圖三四八、文言に内、絞屋とも格別出情いし絞立、江戸表へ相廻、
様可致と儀に、絞屋共大坂出油屋ともへ差出、賣買いし、油問屋共より積廻し事、
其段是迄と相替、儀無之間、心得違無之様可致、事、

〔十二月〕

(同上)

頁數	行數	誤	正	頁數	行數	誤	正
三	柱	巳丑 四月七日	巳丑 四月七日	六四一	一五	補遺九四	補遺九四
五三	一五	巳丑 四月七日	巳丑 四月七日	六五四	九	補遺九五	補遺九五
九一	七	關	關	七一九	五	右地銅	○圖二五九〇ノ下ニ及二六一七ノ五 字ヲ加フ
九六	一	關	關	七三五	一六	右地銅	古地銅
一〇九	二	關	關	七五〇	七	○圖二八四二	○圖二八四一
一七六	二	(御觸承知印形帳) 將軍宣	(御法度御觸印形帳)	七五三	一七	○圖一八〇	○圖一八三
一八六	欄外	表借屋	表借屋	七八五	一三	○圖二八二六ノ下ニ及四五六二ノ五 字ヲ加フ	○圖二八二六ノ下ニ及四五六二ノ五 字ヲ加フ
一九三	七	表借屋	表借屋	八〇五	一	及	○圖一八二六ノ下ニ及四五六二ノ五 字ヲ加フ
二一八	七	○圖二〇五五	○圖二〇五四	八五三	一	○圖四一九六	○圖四一七四
二六二	五	○圖二二四〇	○圖二二四〇	八九〇	五	四二四一	四二二〇
二六五	三	酢	酢	九二九	九	四三六二	四三三二
二七三	三	支	支	九四四	五	四三八六	四三八六
二八九	三	わうれい綿	わうれい綿	九五二	五	と大差なし、	同一八八六
二九四	一	○圖三三九	○圖三三九	九六七	二	及四二三七	同一八八六
三四二	一四	○圖三三九	○圖三三九	一〇一七	七	○圖四五七二	○圖四五二八
四四四	一四	○圖三三九	○圖三三九	一〇六八	一七	○圖四五七二	○圖四五二八
四四八	一	○圖三三九	○圖三三九	一一一七	一	○圖四五七二	○圖四五二八
四九六	一三	及二〇三四	及二〇三四	一二一八	一七	○圖四五七二	○圖四五二八
五〇九	一	○九〇及圖	○九〇及圖	一二七三	一	○圖四五七二	○圖四五二八
五五五	八	御祠堂金、儀	御祠堂金、儀	一二七八	一七	○圖四五七二	○圖四五二八
五八五	二	御祠堂金、儀	御祠堂金、儀	一三七七	三	○圖四五七二	○圖四五二八

正 誤 表

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

明治四十四年九月一日印刷
明治四十四年九月五日發行



編纂兼
發行者

大阪市參事會

株式會社秀英舍取締役兼支配人

印刷者

相川 尚清

東京市京橋區西紺屋町廿七番地

印刷所

株式會社 秀英舍

東京市京橋區西紺屋町廿七番地

4691c

東
東
東
東

東
東
東
東
東
東

東
東
東
東
東
東

東
東
東
東
東
東

東
東
東
東
東
東



